

## 第3章 こども・若者意識調査

(小学生、中学生、高校生) 結果詳細

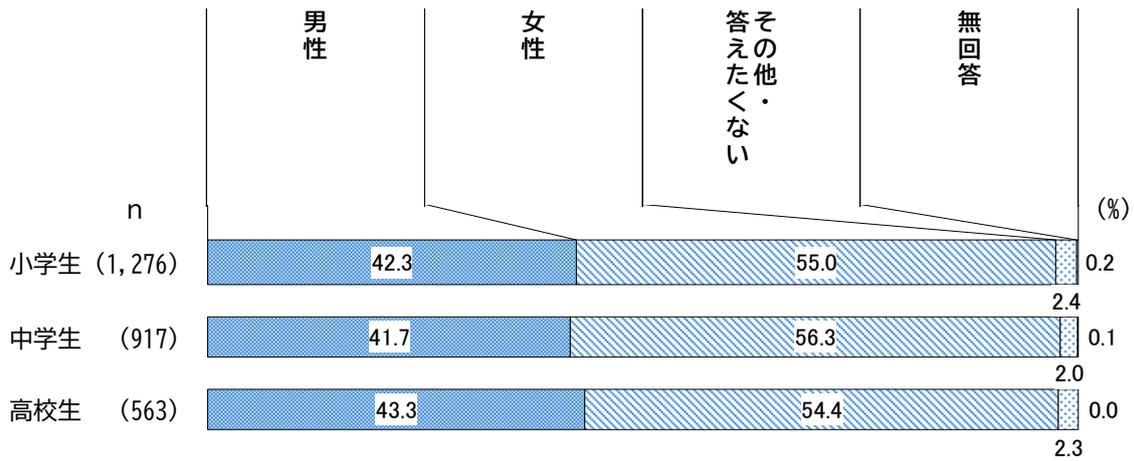


## こども・若者意識調査（小学生、中学生、高校生）結果詳細

### 1 属性について

#### (1) 性別

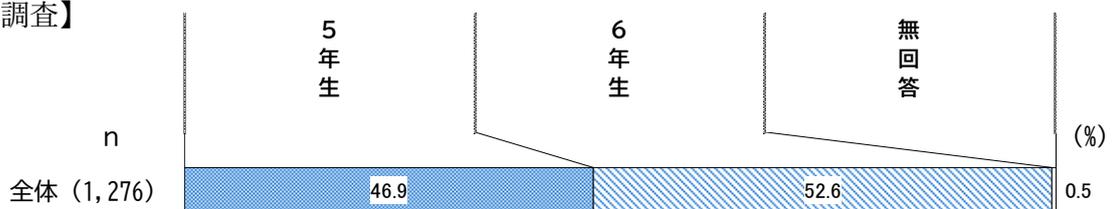
Q：あなたの性別を教えてください。（○は1つ）



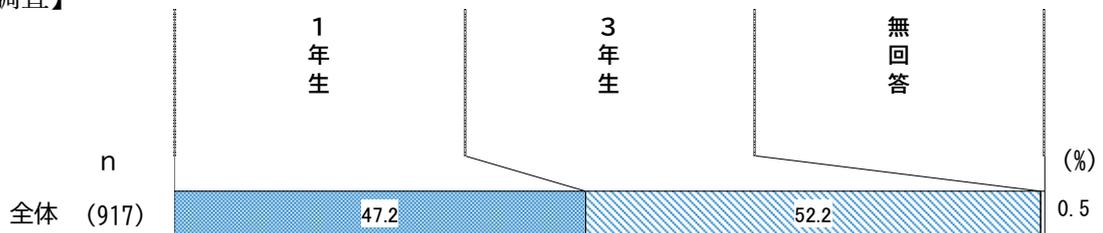
#### (2) 学年

Q：あなたの学年を教えてください。（○は1つ）※高校生は年齢

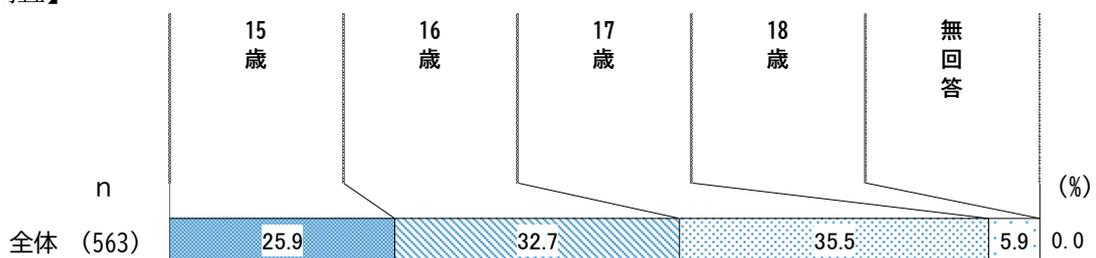
##### 【小学生調査】



##### 【中学生調査】



##### 【高校生調査】



(3) 現在の通学状況【高校生調査】

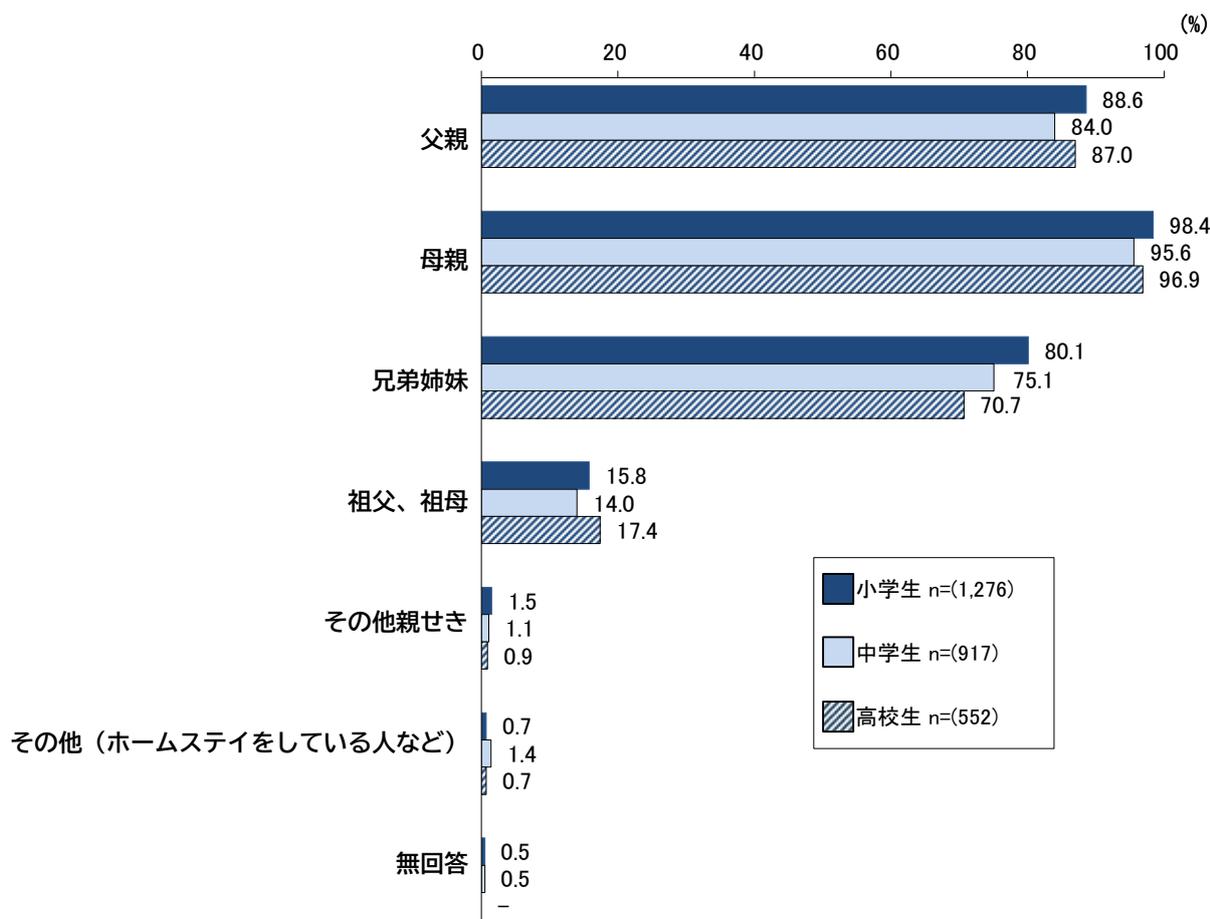
Q：あなたが通っている高校は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

（上段：人、下段：％）

全体	調査数 (n)	公立高校			私立高校			中等教育学校		特別支援 学校	その他 (具体的に)	無回答
		全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制	公立	私立			
	563	373	13	11	110	1	22	15	1	6	11	0
	100.0	66.3	2.3	2.0	19.5	0.2	3.9	2.7	0.2	1.1	2.0	0.0

(4) 同居人

Q：現在、あなたが一緒に住んでいる人をすべて選んでください。（○は1つ）



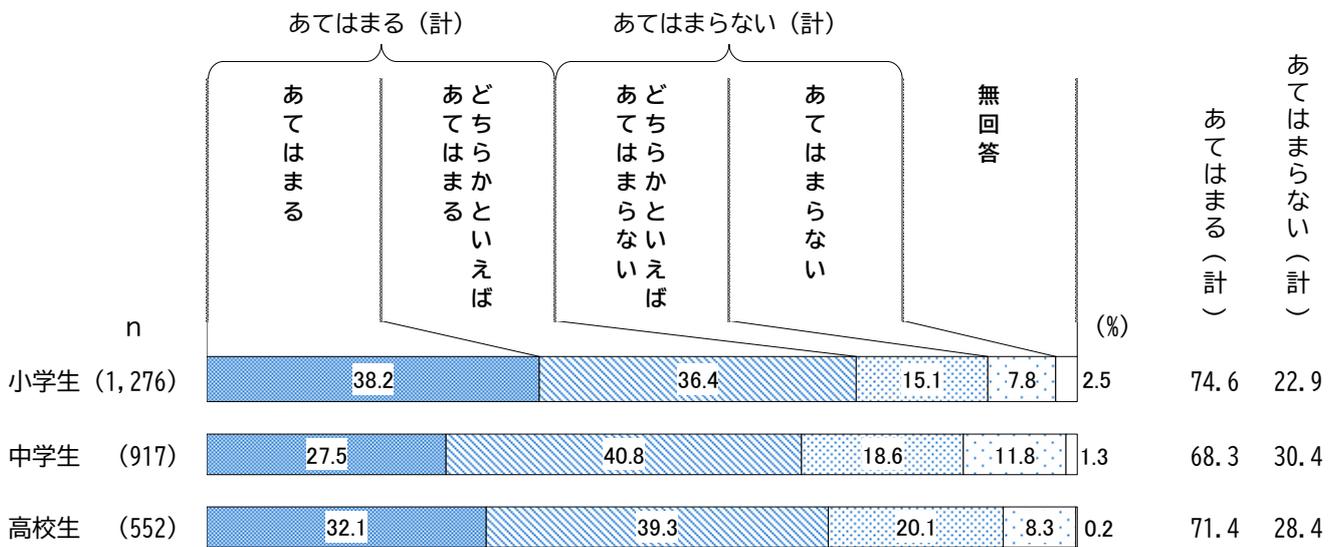
## 2 自己認識について

### (1) 人生観・充実度

Q：あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。

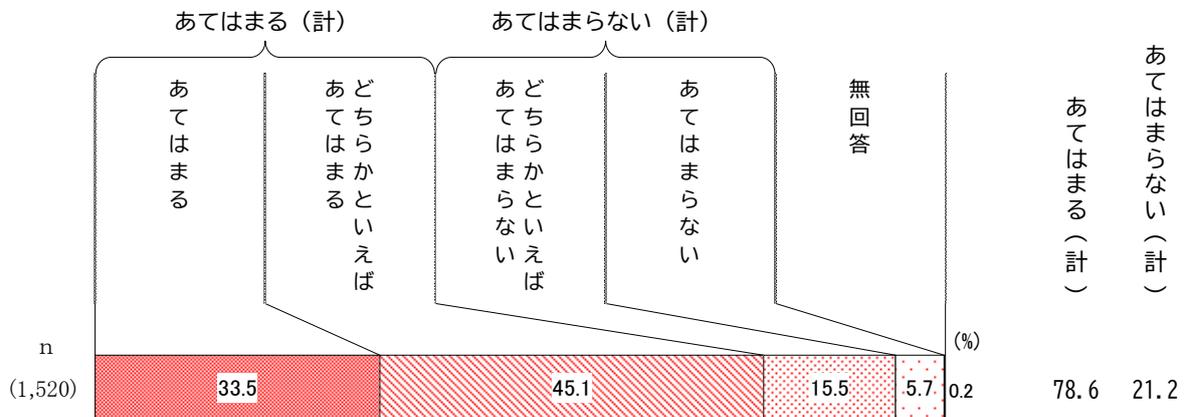
#### ■今の自分が好きだ

「今の自分が好きだ」という自己肯定感について、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた《あてはまる 計》は小学生が74.6%と高く、中学生が68.3%と最も低くなっています。



#### 全国調査※との比較

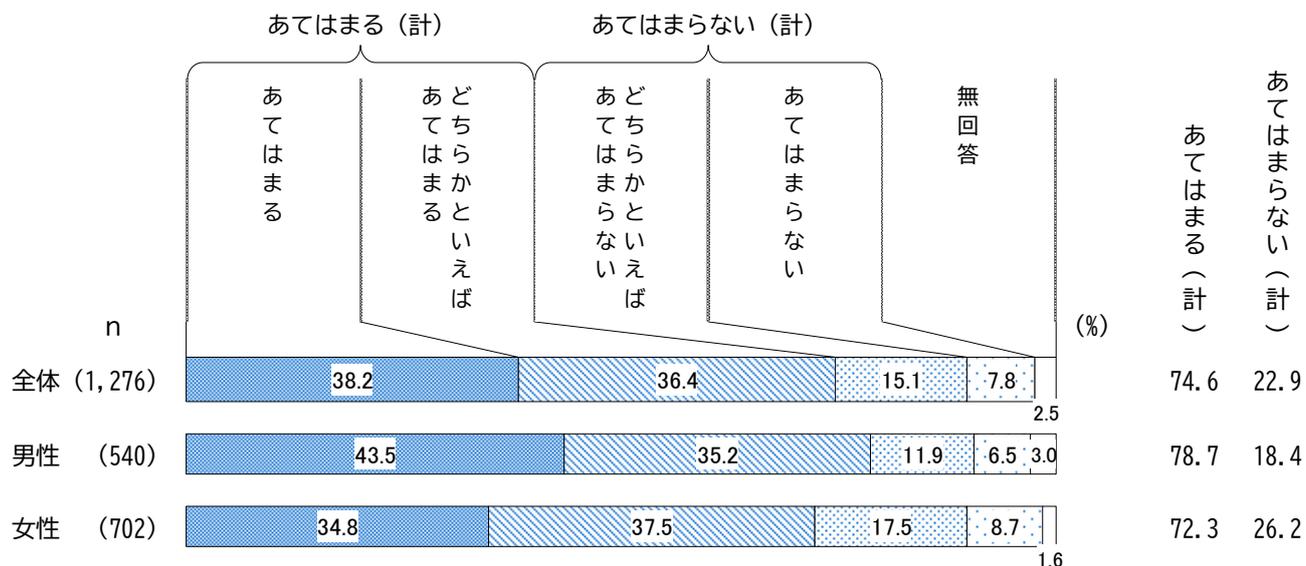
全国調査の結果は《あてはまる 計》が78.6%となっており、市調査の小学生（74.6%）、中学生（68.3%）、高校生（71.4%）はいずれも全国調査を下回っています。



※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

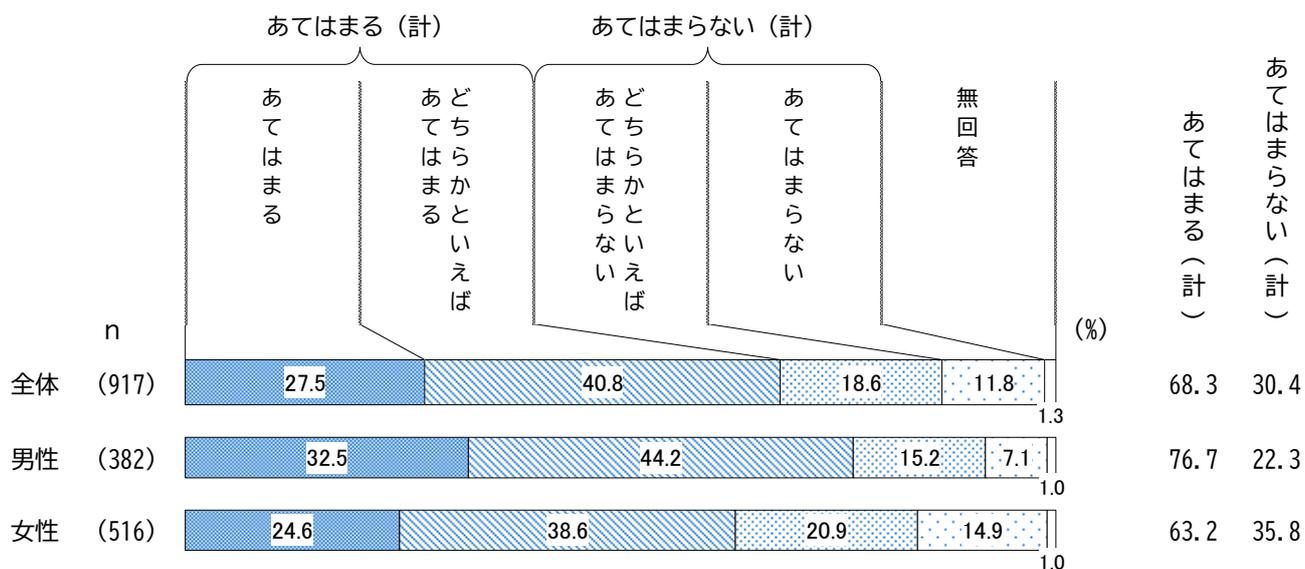
【小学生調査】

「今の自分が好きだ」という自己肯定感を小学生の性別で見ると、《あてはまる 計》は男女ともに7割台となっています。最も自己肯定感が高い回答の「あてはまる」は男性（43.5%）が女性（34.8%）を8.7ポイント上回っています。



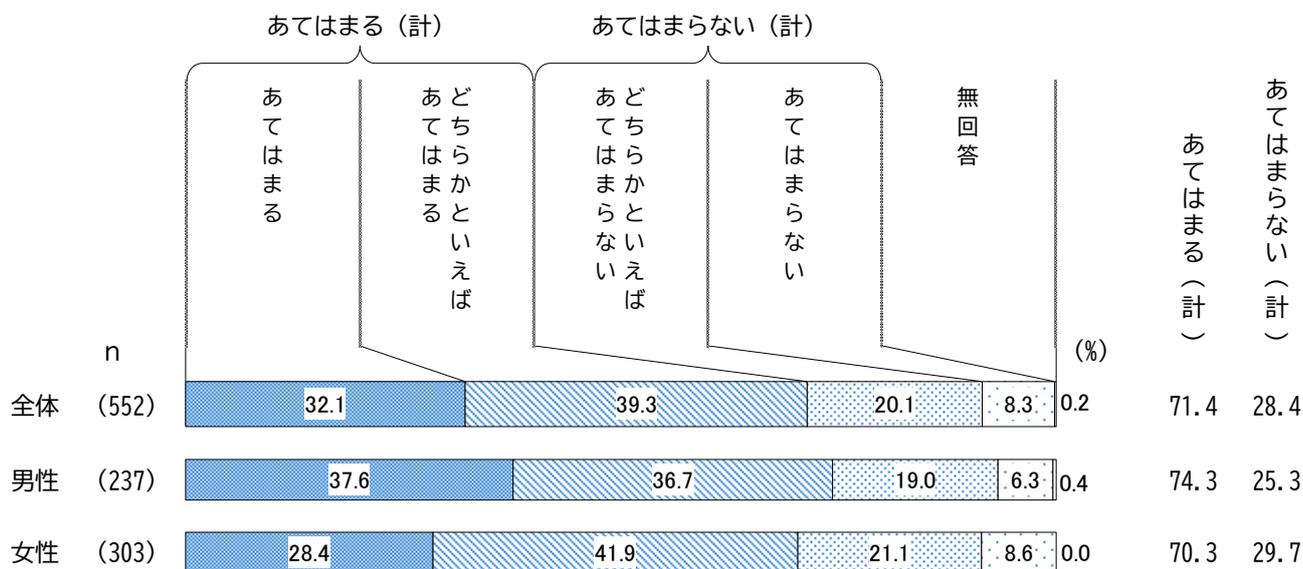
【中学生調査】

「今の自分が好きだ」という自己肯定感を中学生の性別で見ると、《あてはまる 計》は男性（76.7%）が女性（63.2%）を13.5ポイント上回っています。一方、最も自己肯定感が低い回答の「あてはまらない」は女性が14.9%とやや高くなっています。



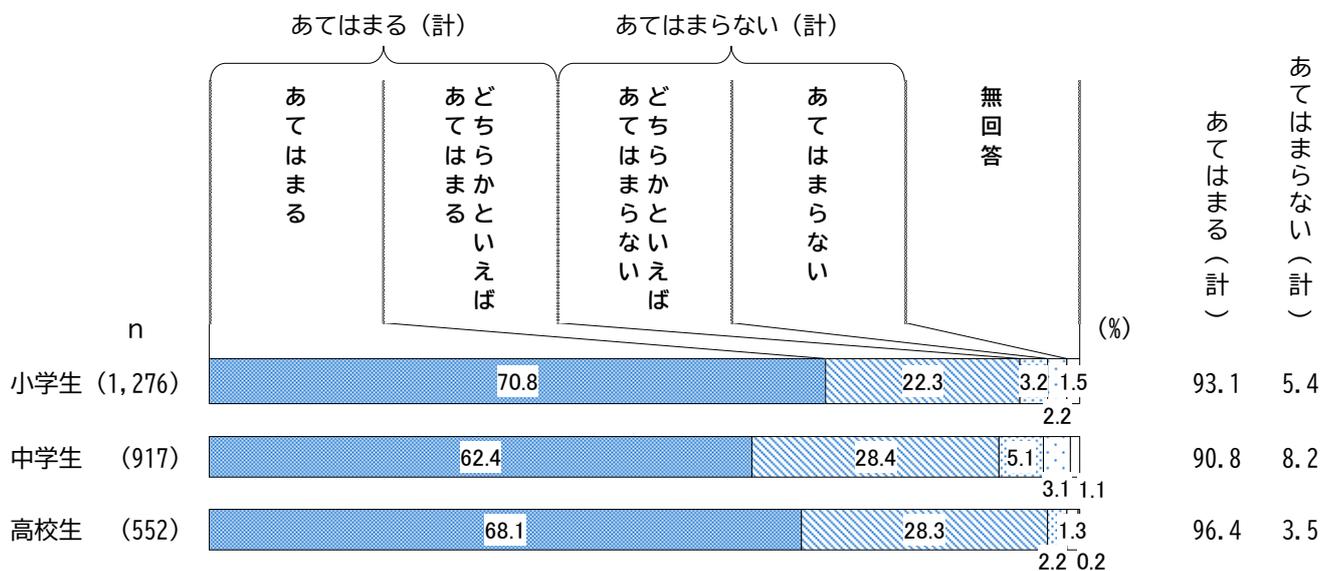
【高校生調査】

「今の自分が好きだ」という自己肯定感を高校生の性別で見ると、《あてはまる 計》は男女ともに7割台となっています。最も自己肯定感が高い回答の「あてはまる」は男性（37.6%）が女性（28.4%）を9.2ポイント上回っています。



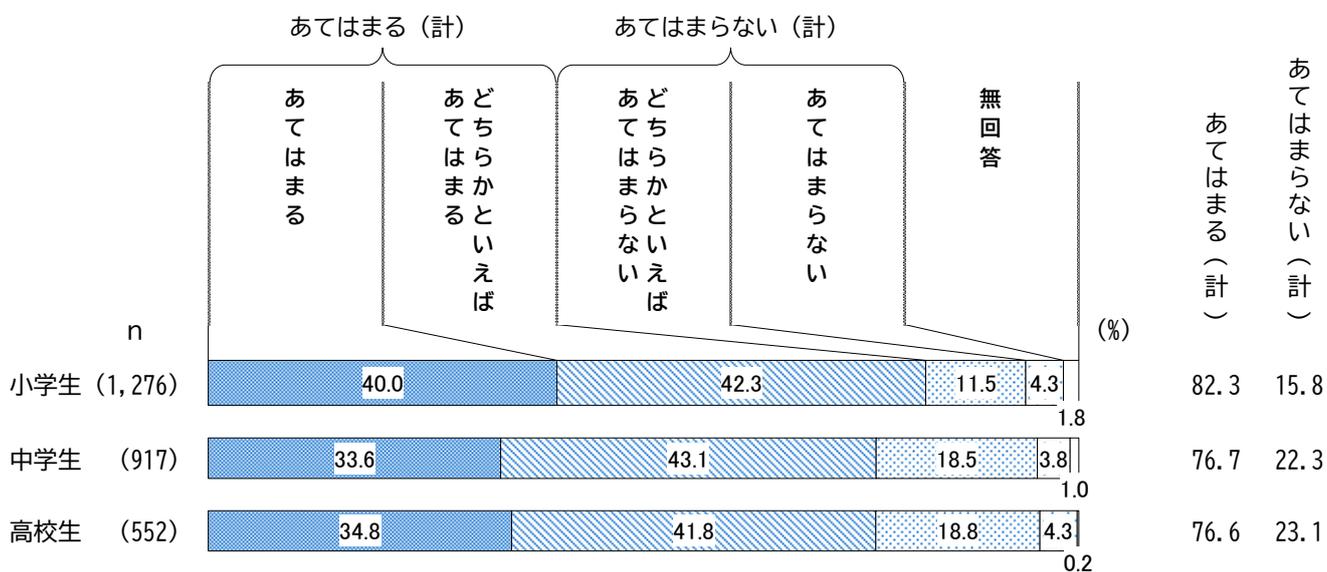
■自分の親（保護者）から愛されていると思う

「自分の親（保護者）から愛されていると思う」という親子関係について、《あてはまる 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも9割台となっており、特に高校生は96.4%を占めています。



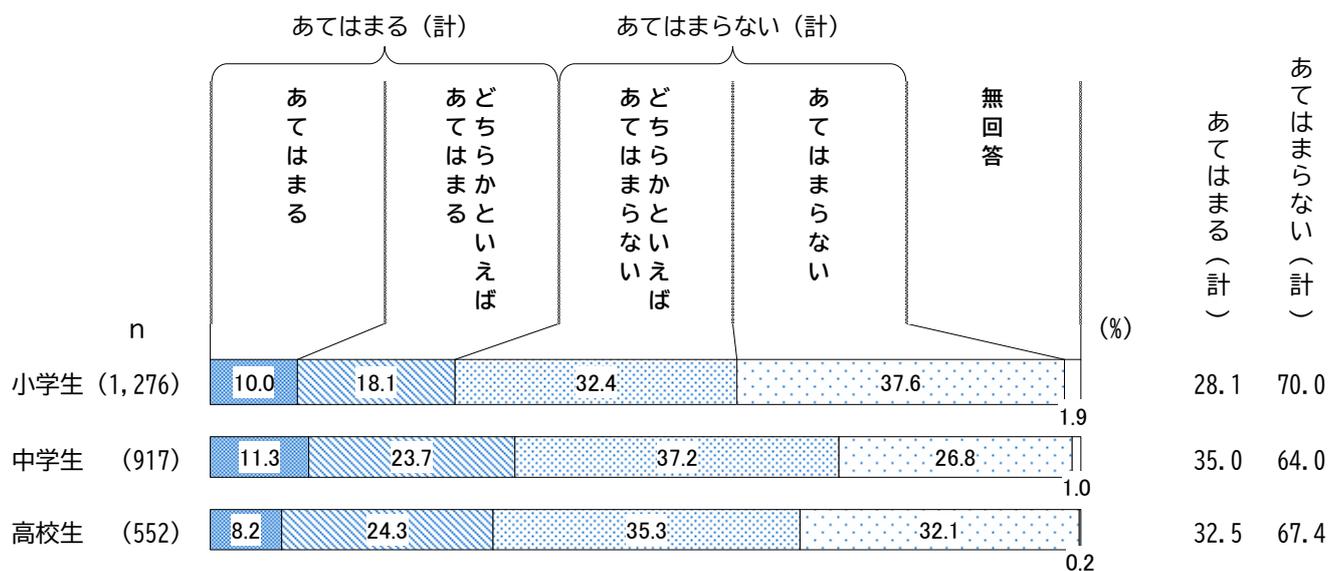
■うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む

「うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む」ことについて、《あてはまる 計》は小学生（82.3%）が8割を超えて特に高くなっています。



■自分は役に立たないと強く感じる

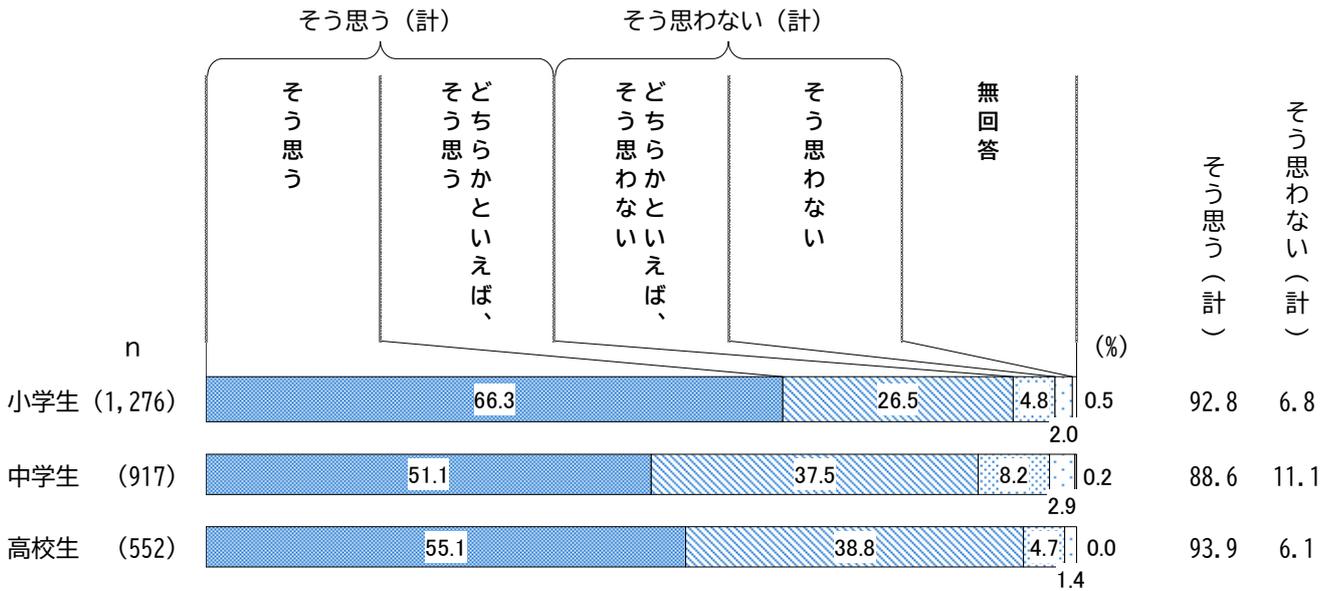
「自分は役に立たないと強く感じる」という自己有用感について、《あてはまる 計》は中学生（35.0%）が3割台半ばと特に高くなっています。



(2) 今の幸福感

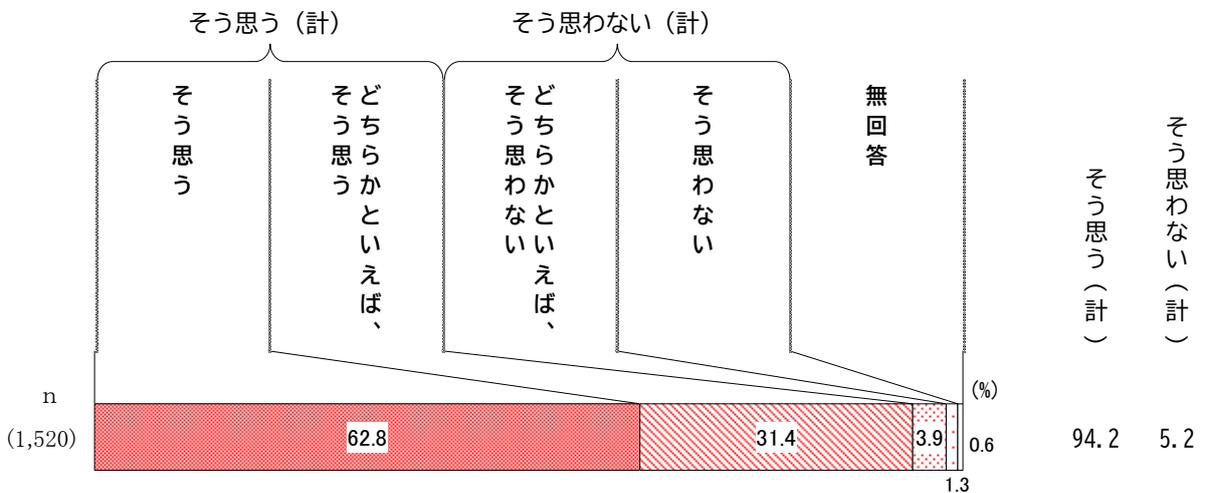
Q：あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。（○は1つ）

「今、自分が幸せだと思う」という今の幸福感について、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも9割前後となっており、高校生（93.9%）が特に高くなっています。《そう思わない 計》は中学生（11.1%）で1割を超えています。



全国調査※との比較

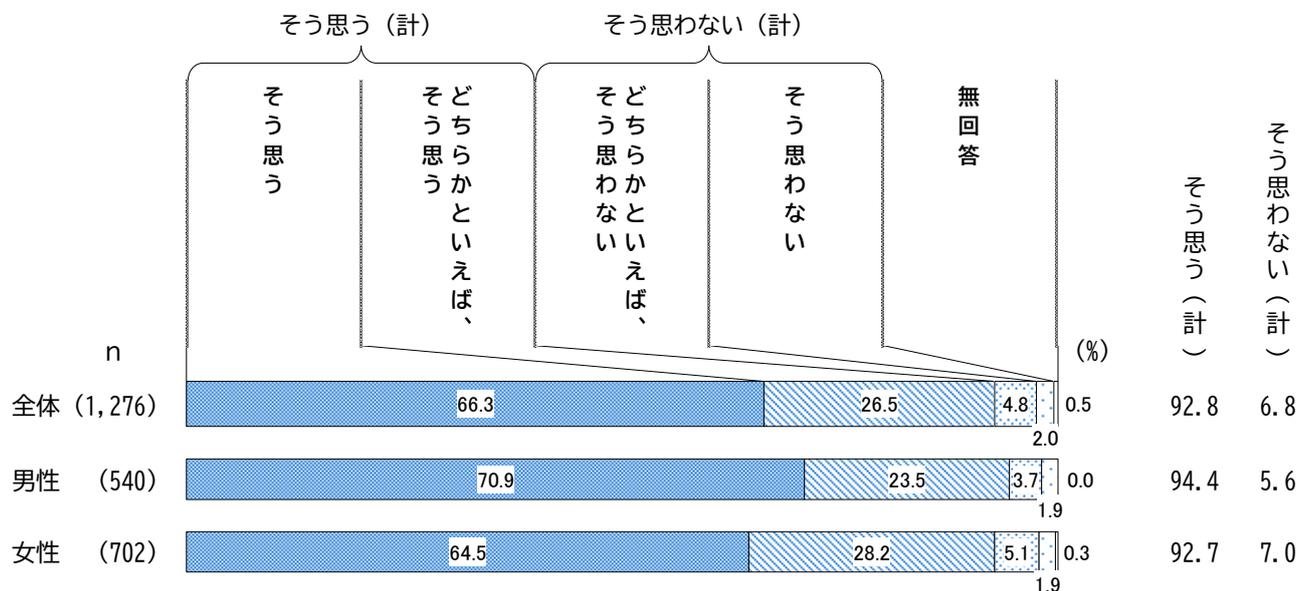
全国調査の結果は《そう思う 計》が94.2%となっており、市調査の小学生（92.8%）、高校生（93.9%）はほぼ同率、中学生（88.6%）は全国調査より5.6ポイント低くなっています。



※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

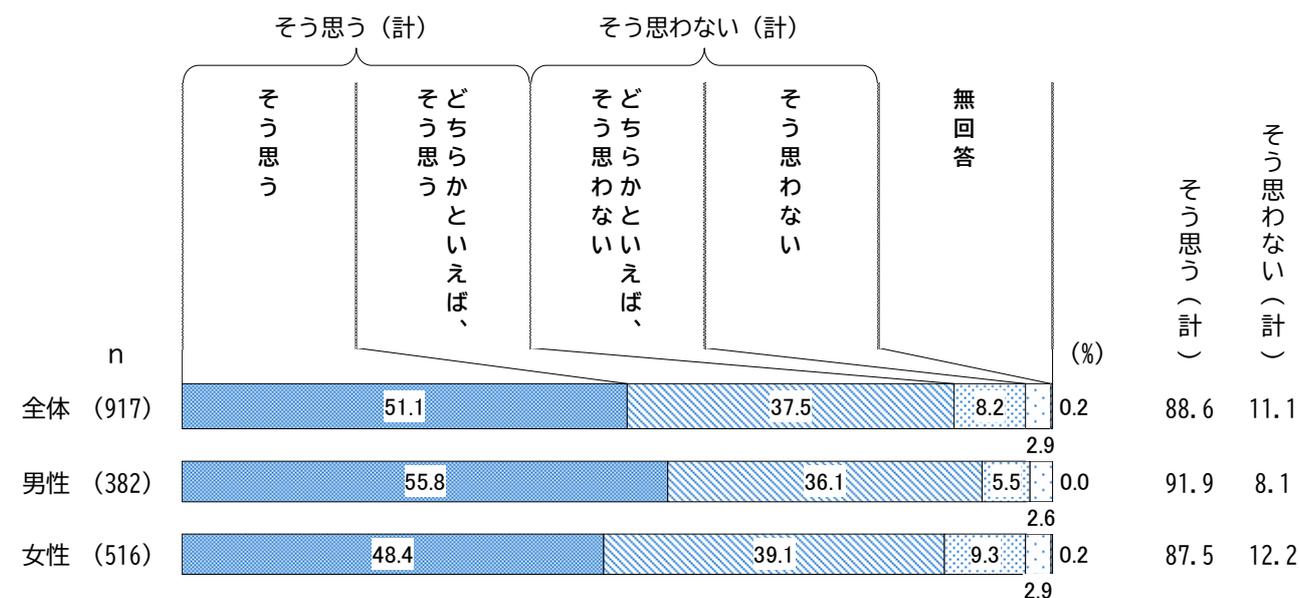
【小学生調査】

今の幸福感を小学生の性別でみると、「そう思う」は男性（70.9%）が女性（64.5%）を6.4ポイント上回っています。



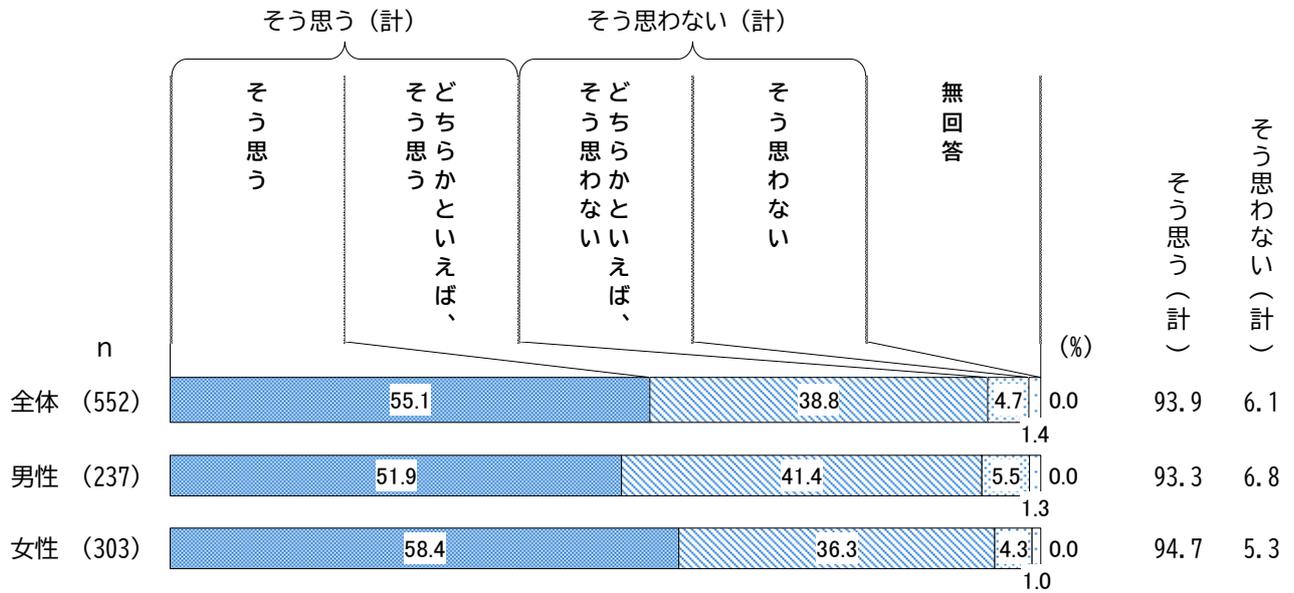
【中学生調査】

今の幸福感を中学生の性別でみると、「そう思う」は男性（55.8%）が女性（48.4%）を7.4ポイント上回っています。



【高校生調査】

今の幸福感を高校生の性別でみると、「そう思う」は女性（58.4%）が男性（51.9%）を6.5ポイント上回っています。



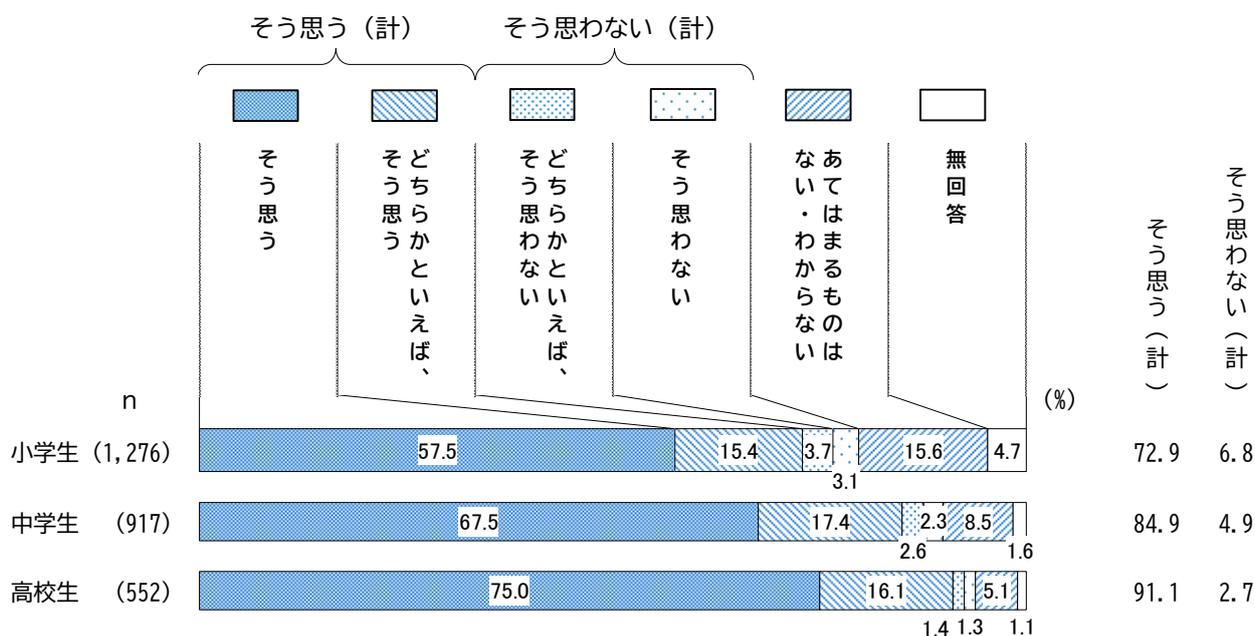
### 3 居場所について

#### (1) 居場所

Q：次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）になっていますか。（○は1つ）

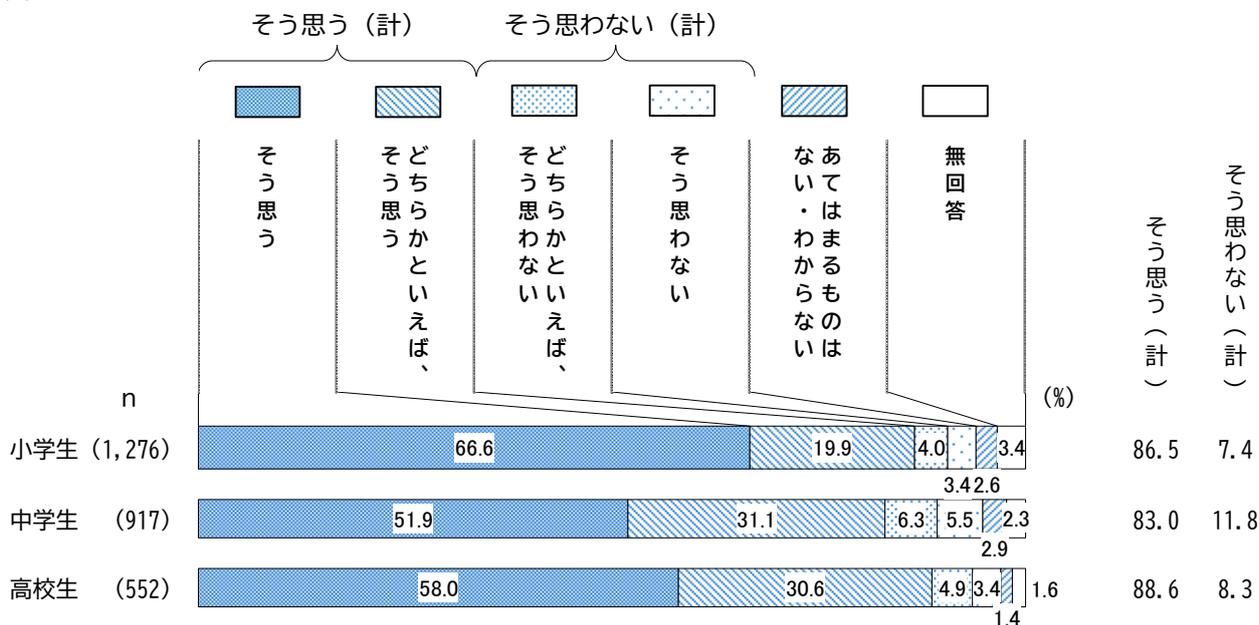
#### ■自分の部屋

「自分の部屋」が自身にとっての居場所になっているかについて、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて割合は増加しており、高校生では9割を超えています。



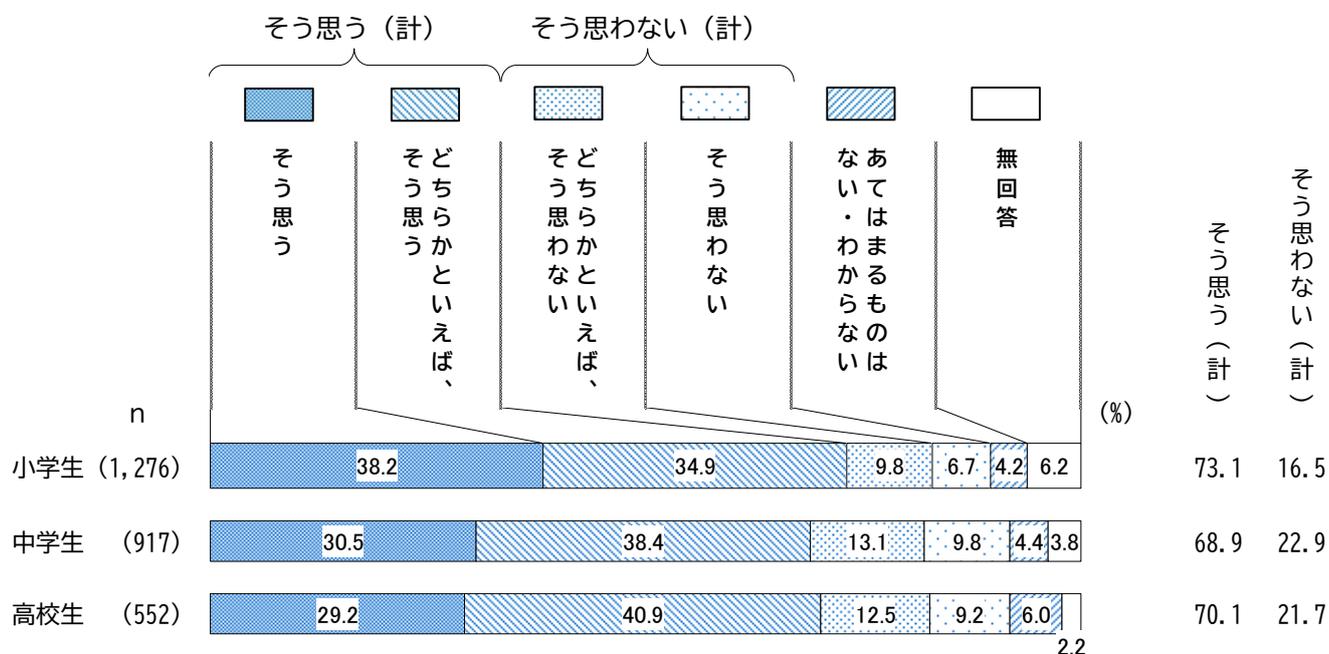
#### ■家庭（親戚の家を含む）

「家庭（親戚の家を含む）」が自身にとっての居場所になっているかについて、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも8割台となっています。「そう思う」は小学生で6割を超えて高くなっています。



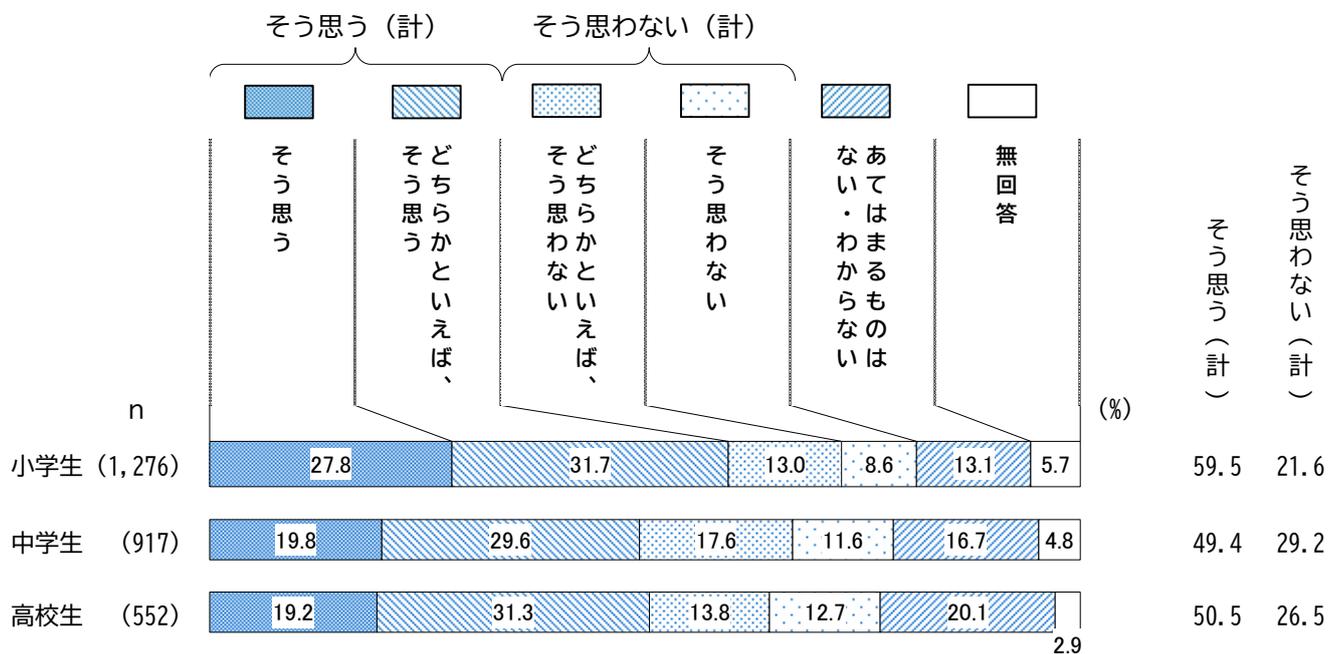
■学校

「学校」が自身にとっての居場所になっているかについて、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも7割前後となっています。《そう思わない 計》は中学生（22.9%）、高校生（21.7%）で2割を超えています。



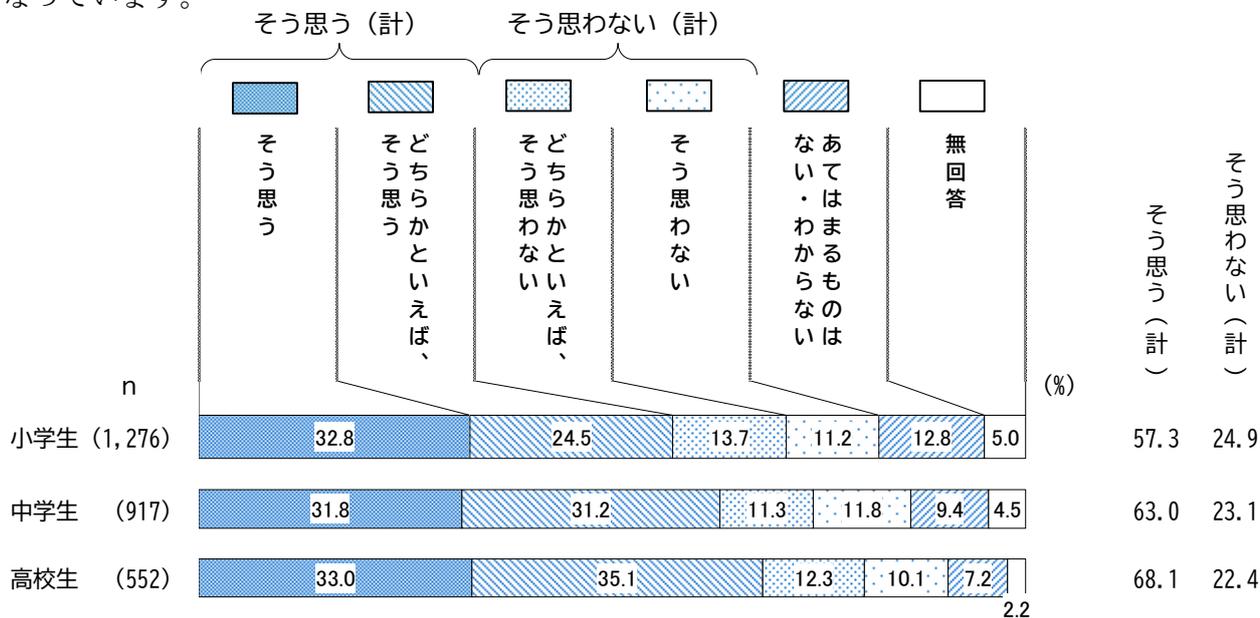
■地域（図書館や公民館や公園など、現在あなたが住んでいる地域にある施設など）

「地域（図書館や公民館や公園など現在あなたが住んでいる地域にある施設など）」が自身にとっての居場所になっているかについて、《そう思う 計》は小学生が約6割、中学生、高校生が5割前後と、特に小学生で高くなっています。



■インターネット空間

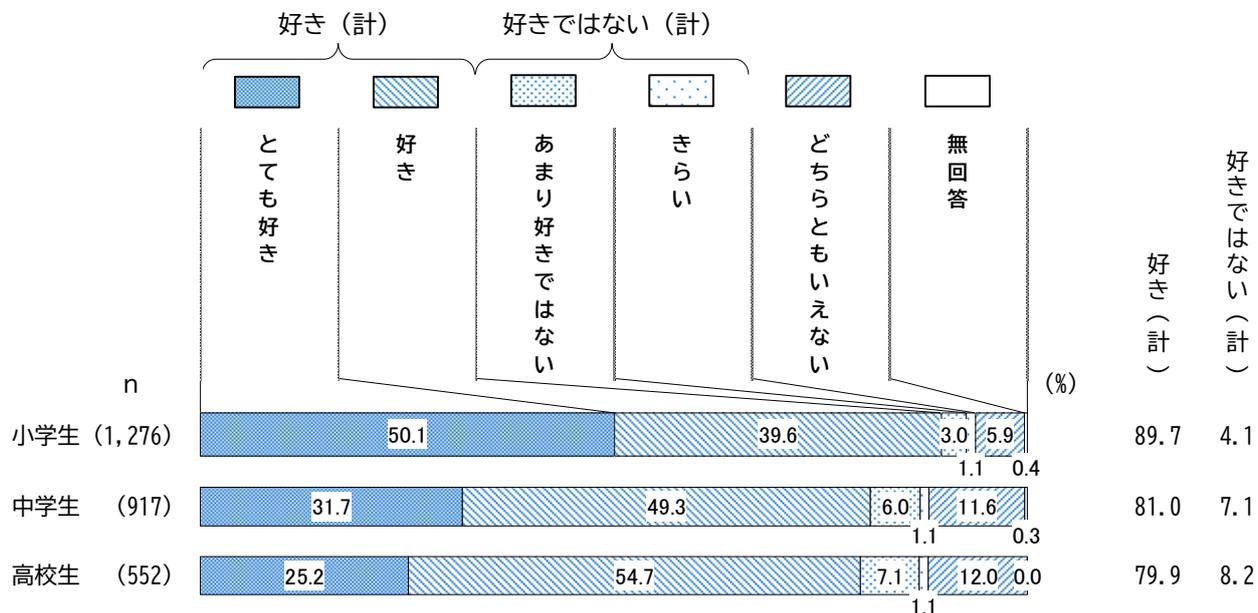
「インターネット空間」が自身にとっての居場所になっているかについて、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて割合は増加しており、高校生では約7割となっています。



(2) 居住環境

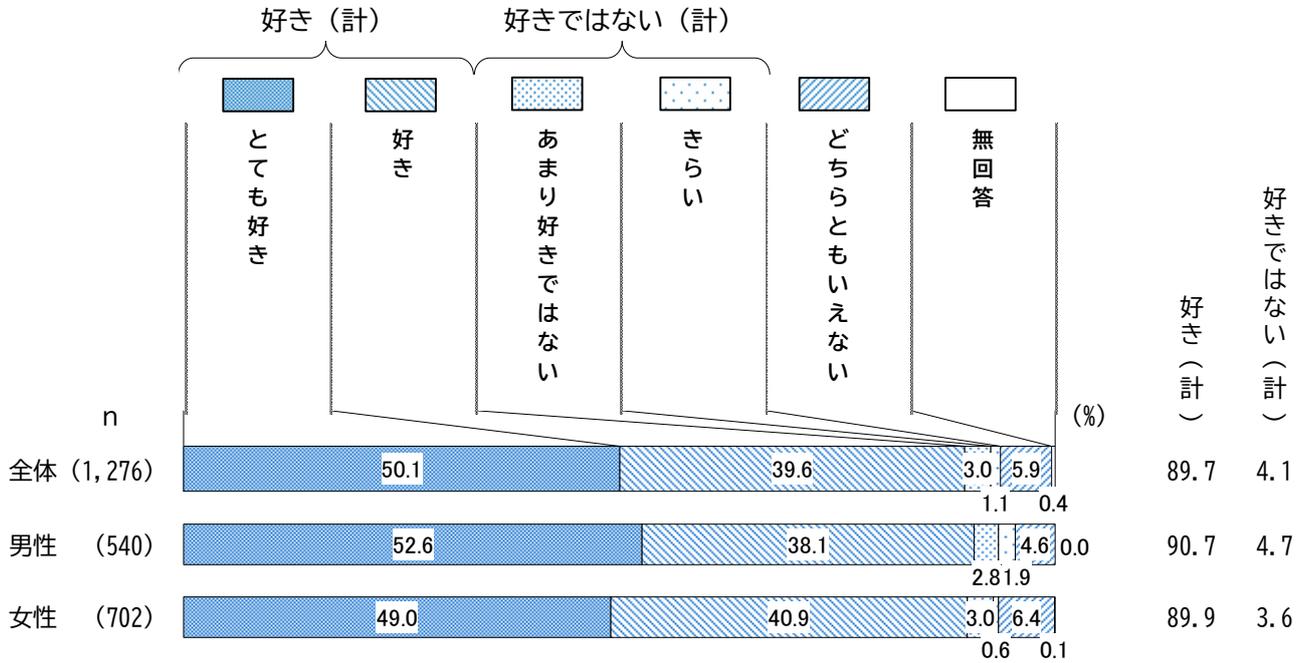
Q：あなたは、今住んでいるところ（前橋市）は好きですか。（○は1つ）

「今住んでいるところ（前橋市）は好きですか」について、「とても好き」は小学生（50.1%）、中学生（31.7%）、高校生（25.2%）と学校の段階が上がるにつれて減少し、「好き」の割合は増加しています。ただし、「とても好き」と「好き」を合わせた《好き 計》は、学校の段階が上がるにつれて減少しています。



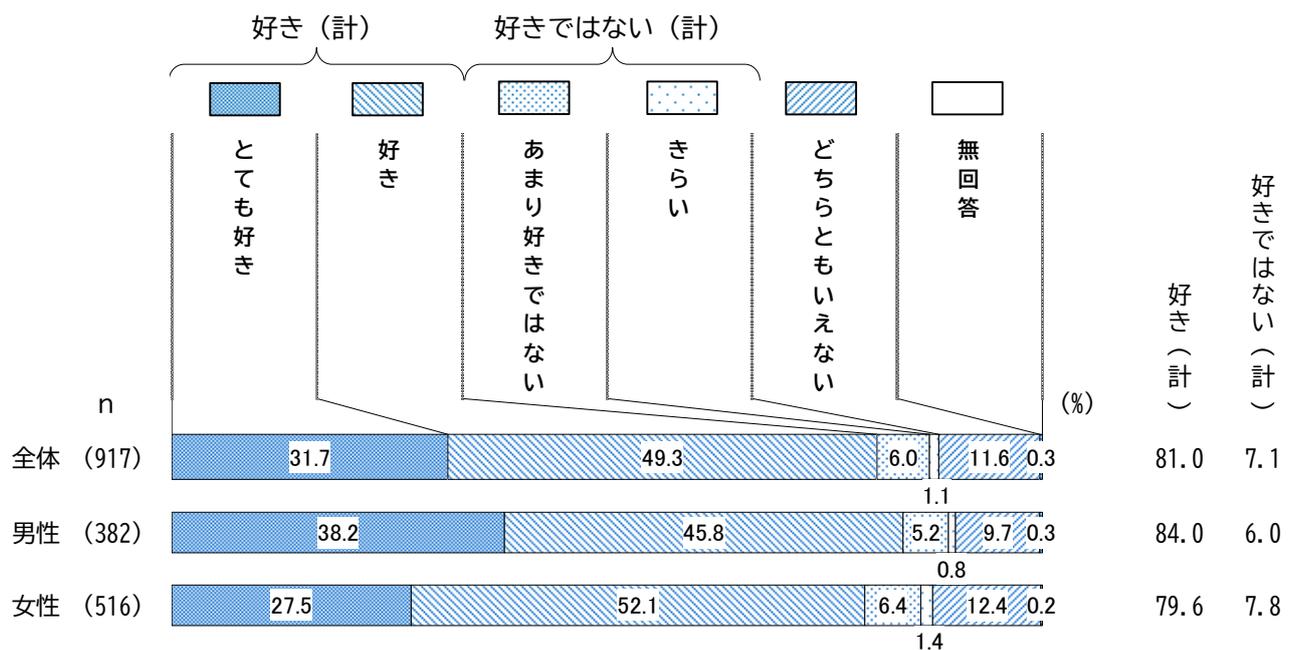
【小学生調査】

「今住んでいるところ（前橋市）は好きですか」を小学生の性別でみると、性別による大きな違いはみられません。



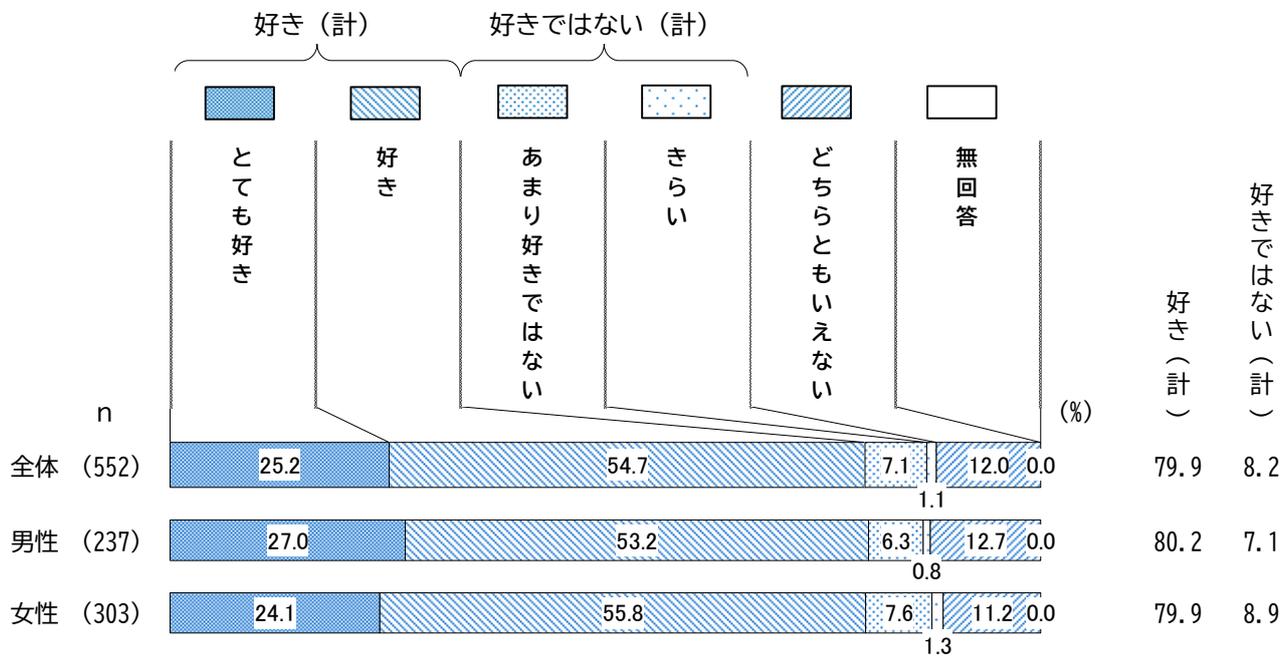
【中学生調査】

「今住んでいるところ（前橋市）は好きですか」を中学生の性別でみると、「とても好き」は男性（38.2%）が女性（27.5%）を10.7ポイント上回っています。



【高校生調査】

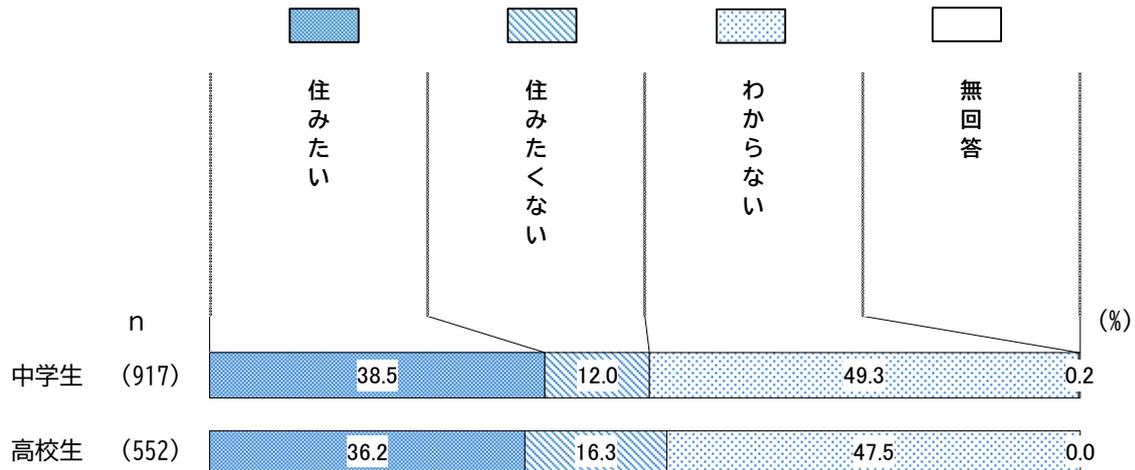
「今住んでいるところ（前橋市）は好きですか」を高校生の性別でみると、性別による大きな違いはみられません。



（3）居留意向【中学生・高校生調査】

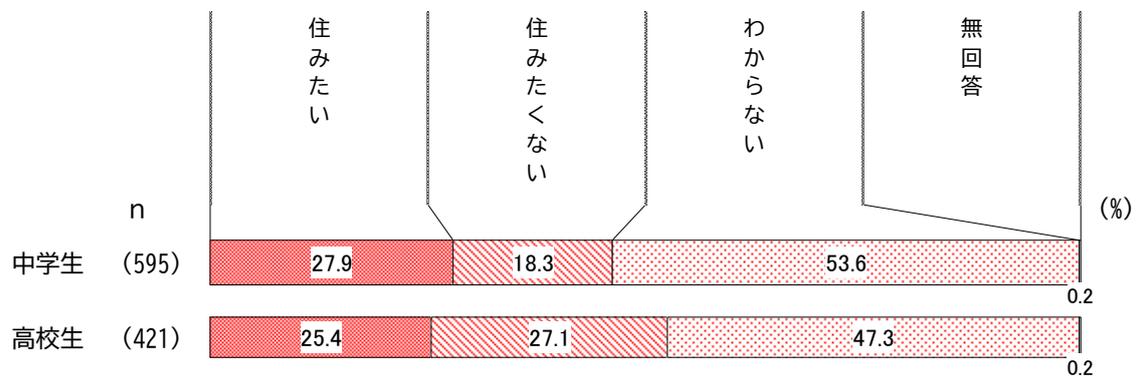
Q：あなたは、今住んでいるところ（前橋市）に大人になってからも住みたいと思いますか。  
 （○は1つ）

今住んでいるところ（前橋市）に大人になってからも住みたいかについて、「住みたい」はいずれも3割台となっています。



県調査\*との比較

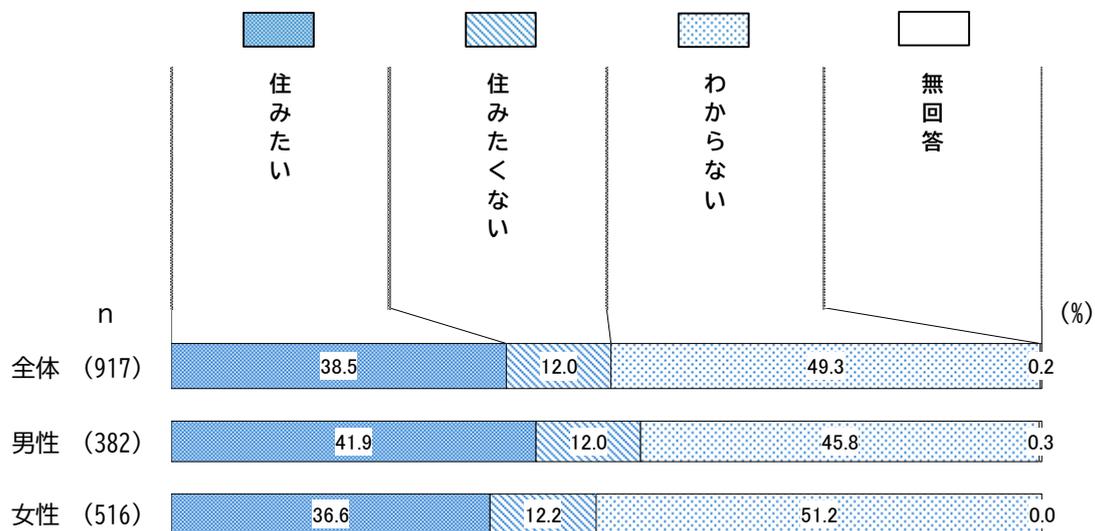
県調査の結果について、現在の居住地に「住みたい」は中学生が27.9%、高校生が25.4%となっており、市調査の中学生（38.5%）、高校生（36.2%）の結果はいずれも県調査を上回っています。



\*群馬県 第8回ぐんま青少年基本調査（令和5年度）

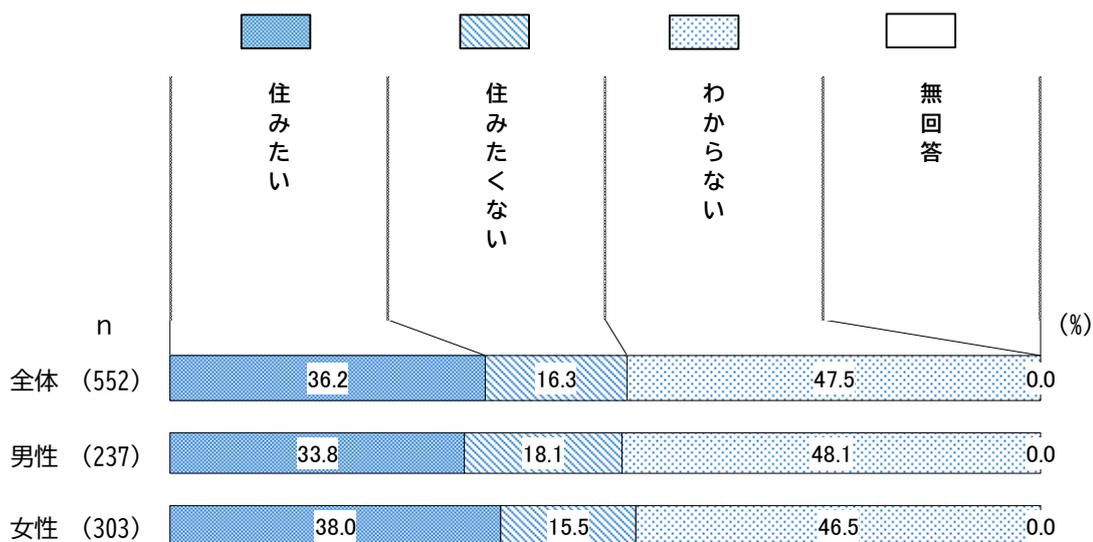
【中学生調査】

前橋市への居留意向を中学生の性別でみると、「住みたい」は男性（41.9%）が女性（36.6%）を5.3ポイント上回っています。



【高校生調査】

前橋市への居留意向を高校生の性別でみると、性別による大きな違いはみられません。

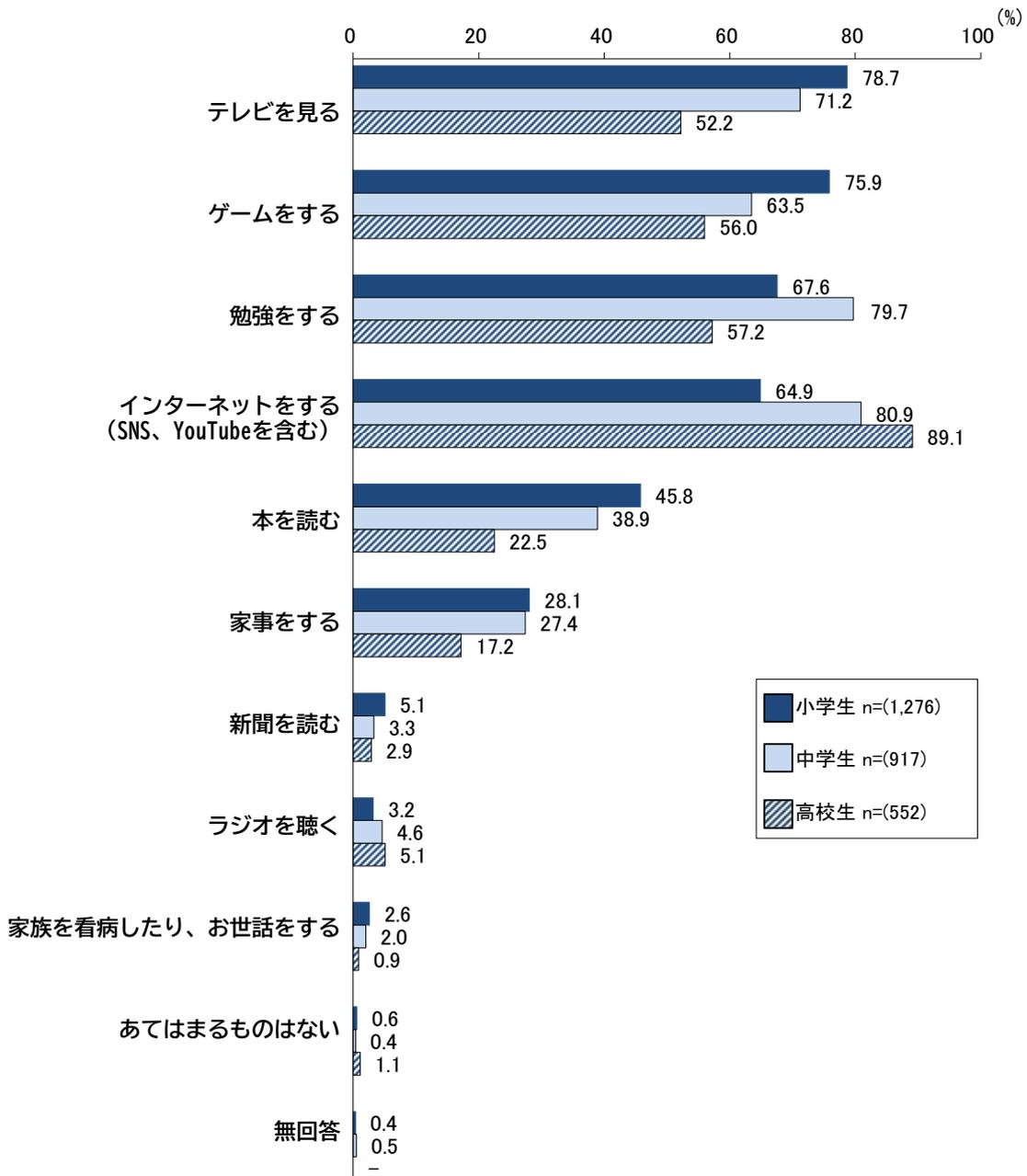


## 4 生活・活動について

### (1) 家での過ごし方

Q：ふだん家（暮らしている場所）にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。よくしていることをすべて選んでください。（○はいくつでも）

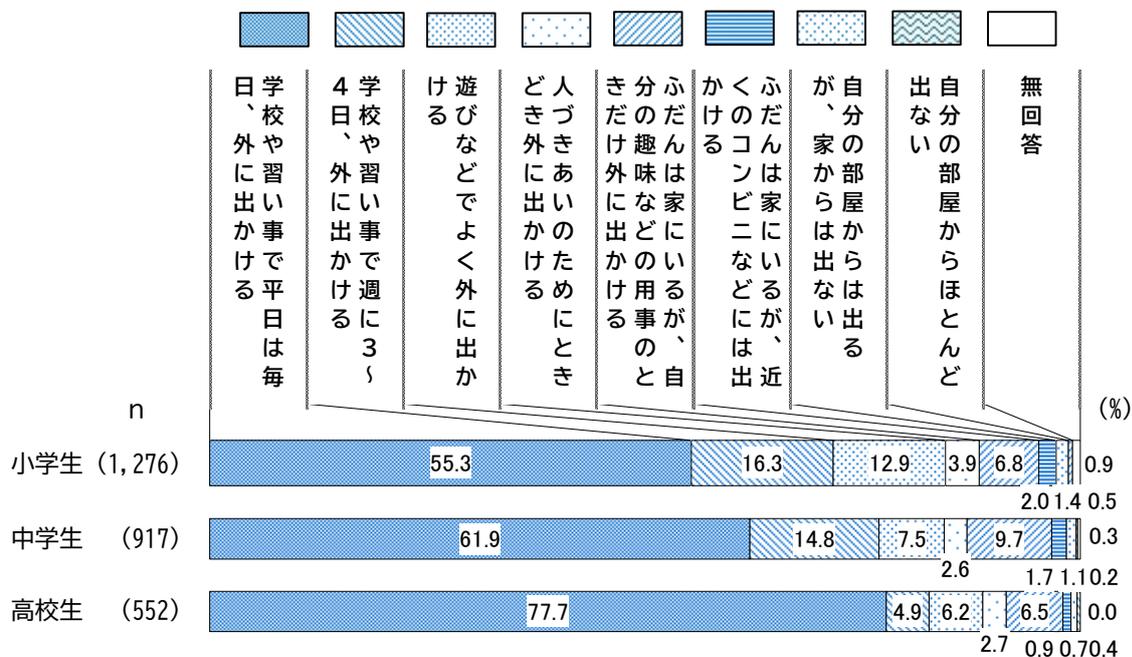
普段、家（暮らしている場所）にいるときによくしていることについて、小学生では「テレビを見る」（78.7%）、中学生と高校生では「インターネットをする（SNS、YouTubeを含む）」（中学生80.9%、高校生89.1%）がそれぞれ最も高くなっています。



(2) 普段の外出頻度

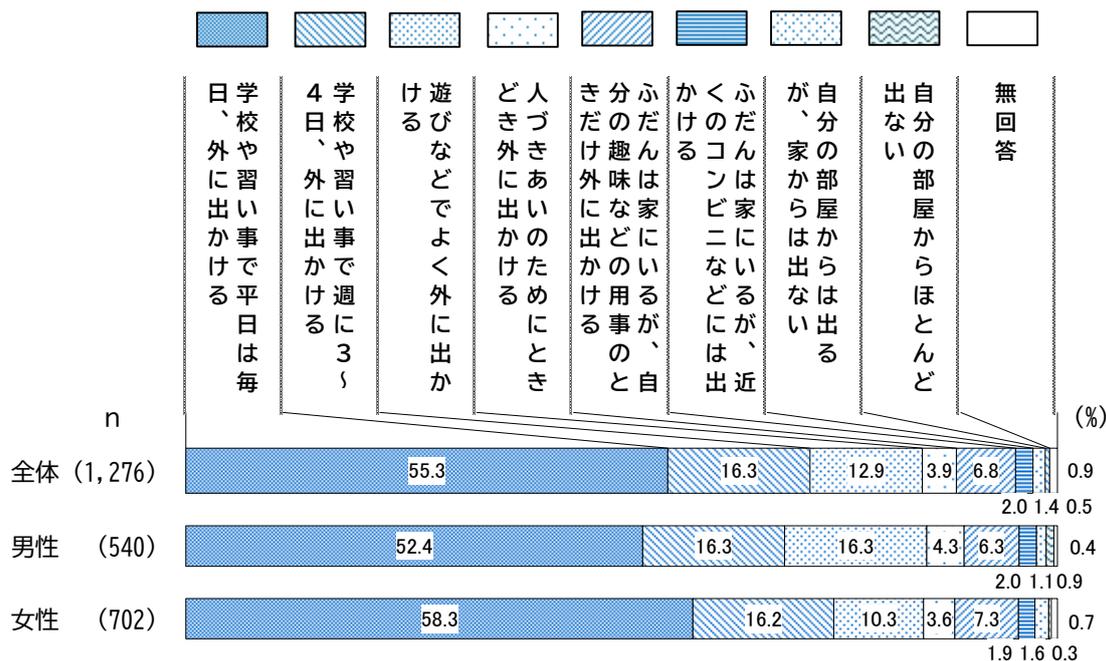
Q：あなたはふだんどのくらい外に出かけていますか。(○は1つ)

普段の外出頻度について、小学生、中学生、高校生のいずれも「学校や習い事で平日は毎日、外に出かける」が最も高くなっており、特に高校生（77.7%）では約8割を占めています。



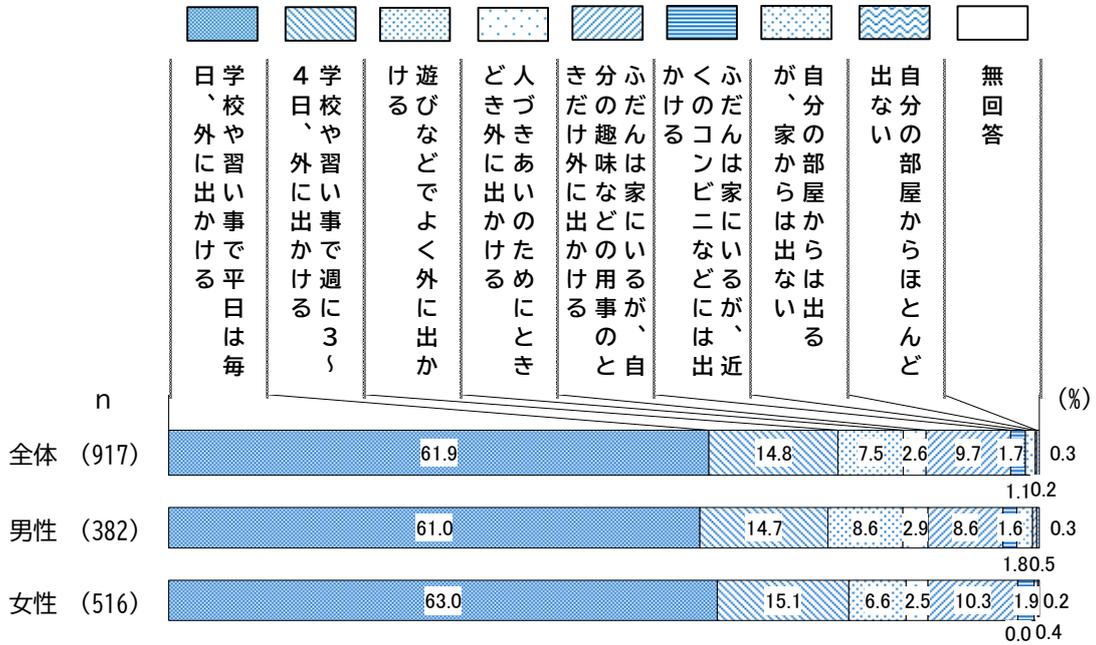
【小学生調査】

普段の外出頻度を小学生の性別でみると、「学校や習い事で平日は毎日、外に出かける」は女性（58.3%）が男性（52.4%）を5.9ポイント上回っています。「遊びなどでよく外に出かける」は男性（16.3%）が女性（10.3%）を6.0ポイント上回っています。



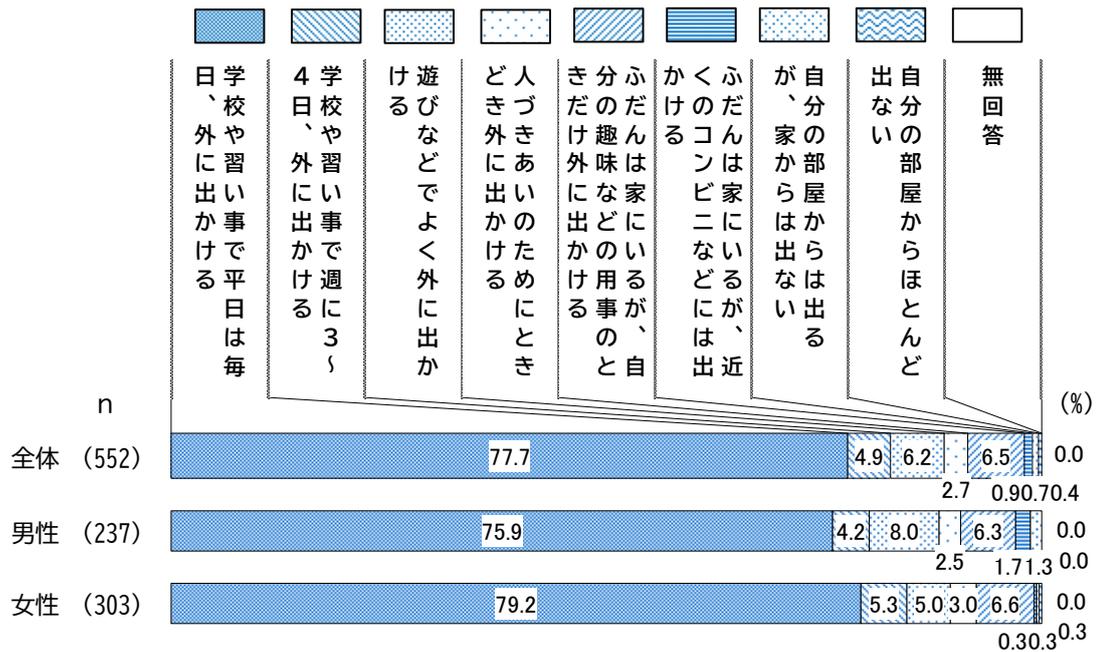
【中学生調査】

普段の外出頻度を中学生の性別でみると、「学校や習い事で平日は毎日、外に出かける」は男女ともに6割台となっており、性別による大きな違いはみられません。



【高校生調査】

普段の外出頻度を高校生の性別でみると、「学校や習い事で平日は毎日、外に出かける」は男女ともに7割台となっており、性別による大きな違いはみられません。

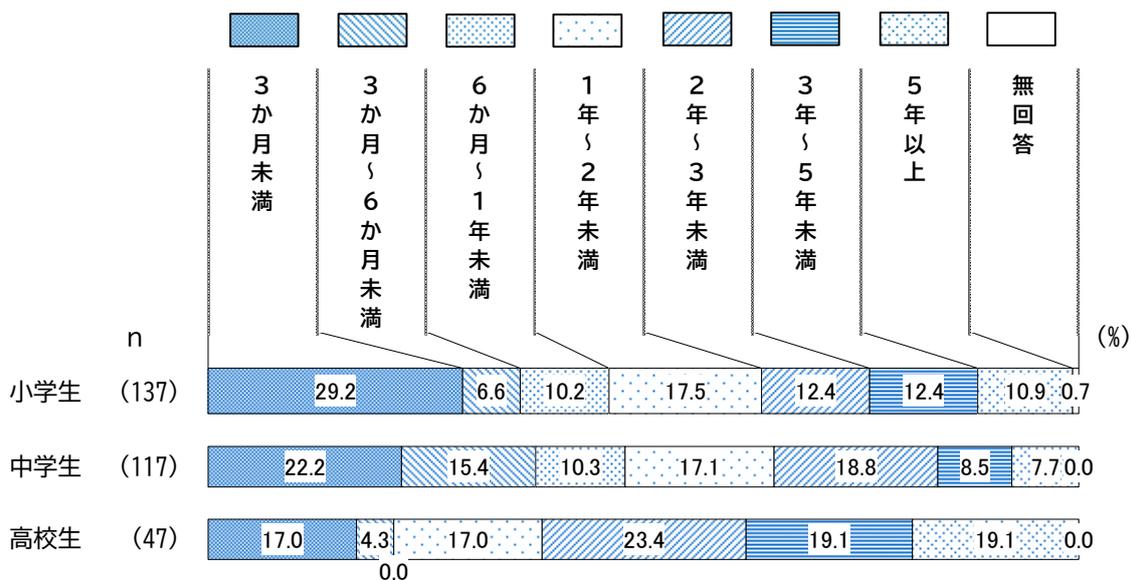


(3) 現在の外出状況になってからの期間

※普段の外出頻度で「5」～「8」※を選んだ方のみ回答  
 Q：あなたの外出状況が今のようにってから、どのくらいたちますか。(○は1つ)

- ※選択肢
- 5.ふだんは家にいるが、自分の趣味などの用事の時だけ外に出かける
  - 6.ふだんは家にいるが、近くのコンビニなどには出かける
  - 7.自分の部屋からは出るが、家からは出ない
  - 8.自分の部屋からほとんど出ない

外出頻度の低い人について、現在の外出状況になってからの期間をみると、小学生と中学生は「3か月未満」(小学生29.2%、中学生22.2%)、高校生は「2年～3年未満」(23.4%)が最も多くなっています。高校生は、対象の約8割が現在の外出状況になってから6か月以上経過していると回答している状況です。

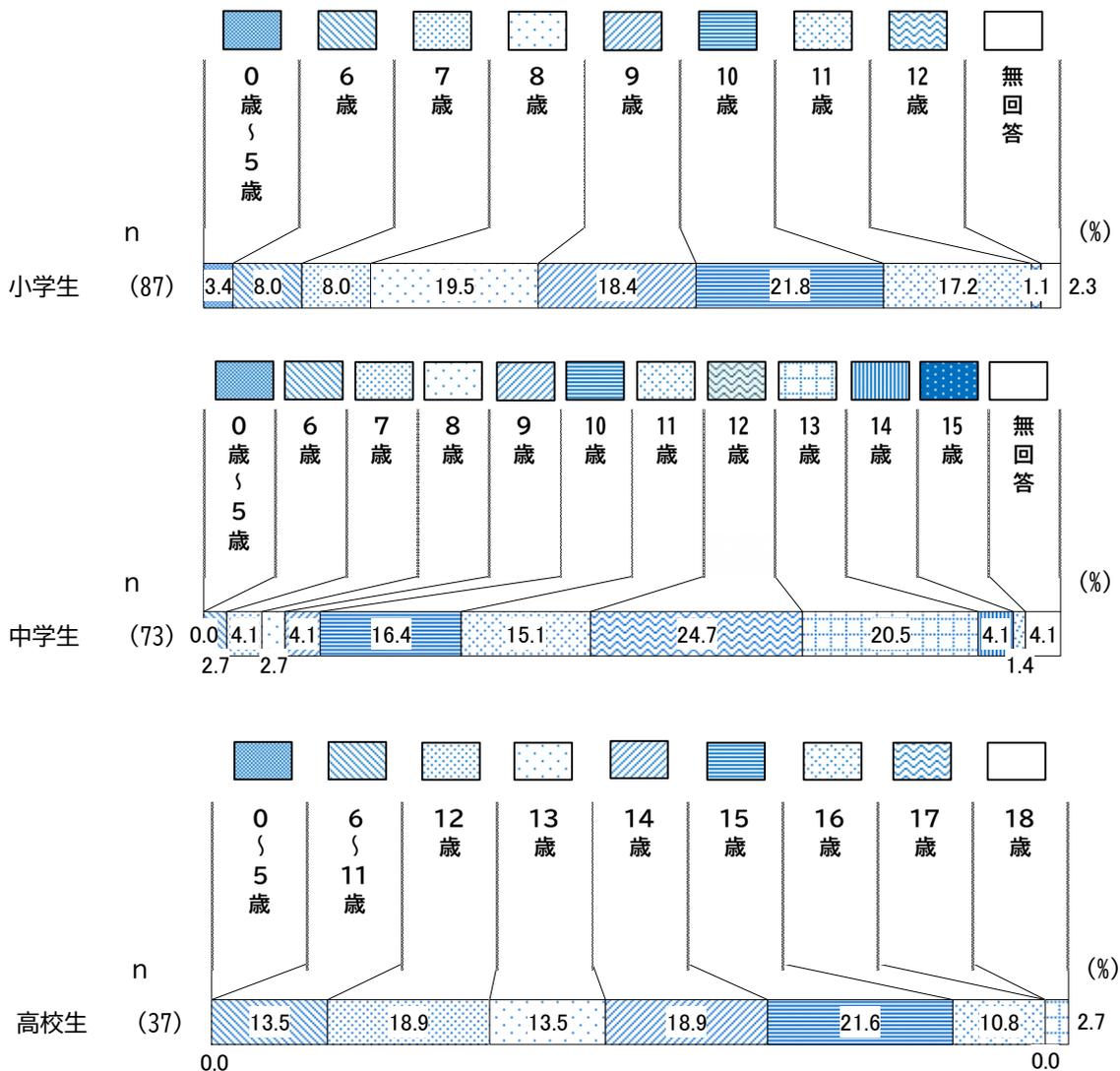


(4) 現在の外出状況になった年齢

※現在の外出状況になってからの期間で「3」～「7」※を選んだ方のみ回答  
 Q：あなたの外出状況が今ようになったのは、いくつの頃ですか。（○は1つ）

※選択肢	3. 6か月～1年未満	6. 3年～5年未満
	4. 1年～2年未満	7. 5年以上
	5. 2年～3年未満	

外出頻度の低い人のうち、現在の外出状況となってからの期間が6か月以上と回答をした人に、今の状況になった年齢を聞いたところ、小学生は「10歳」（21.8%）、中学生は「12歳」（24.7%）、高校生は「15歳」（21.6%）がそれぞれ最も高くなっています。

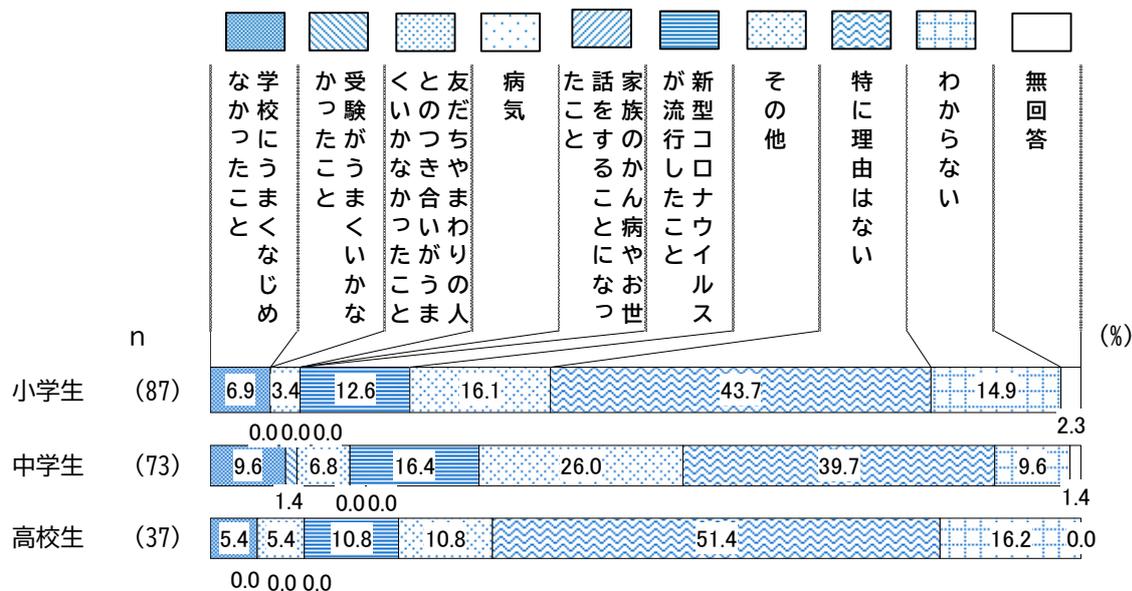


(5) 現在の外出状況になった最も大きな理由

※現在の外出状況になってからの期間で「3」～「7」※を選んだ方のみ回答  
 Q：あなたの外出状況が今ようになった最も大きな理由は何ですか。（○は1つ）

※ 選 択 肢	3. 6か月～1年未満	6. 3年～5年未満
	4. 1年～2年未満	7. 5年以上
	5. 2年～3年未満	

外出頻度の低い人のうち、現在の外出状況とってからの期間が6か月以上であると回答をした人に、今の状況になった理由を聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも「特に理由はない」が最も高く、「わからない」という回答も高くなっています。また、中学生では「新型コロナウイルスが流行したこと」（16.4%）も高くなっています。

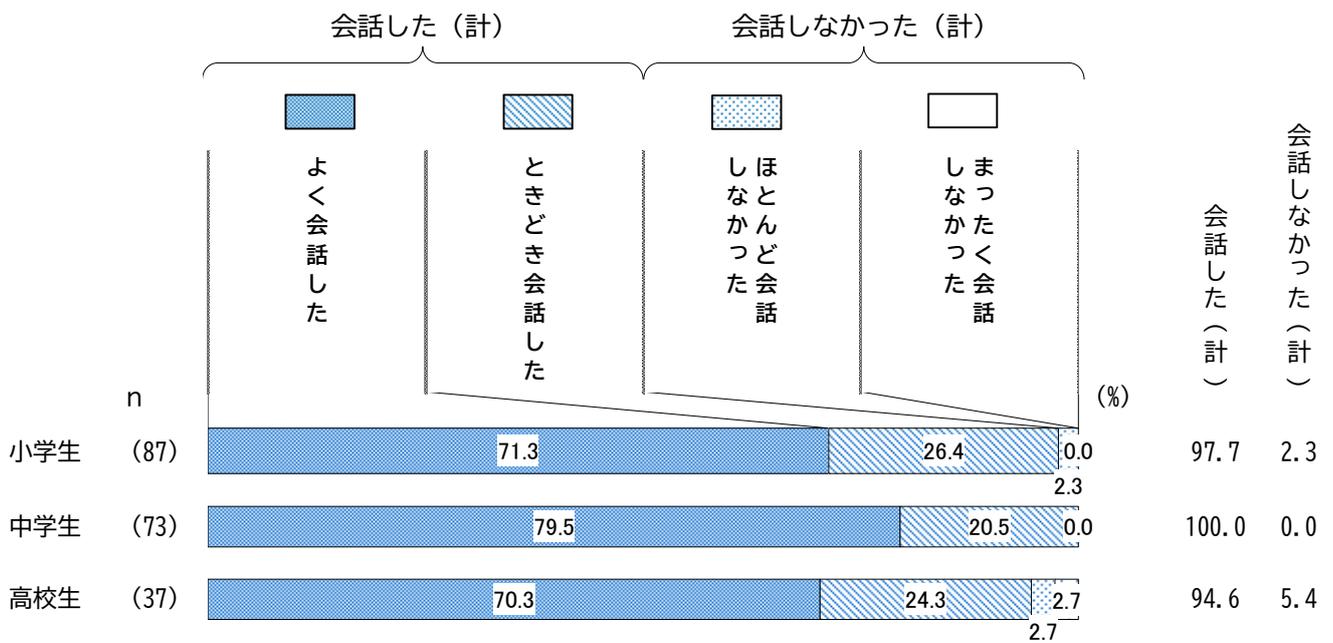


(6) 家族以外との会話の状況

※現在の外出状況になってからの期間で「3」～「7」※を選んだ方のみ回答  
 Q：最近6か月に、家族以外の人と会話しましたか。(○は1つ)

※ 選 択 肢	3. 6か月～1年未満	6. 3年～5年未満
	4. 1年～2年未満	7. 5年以上
	5. 2年～3年未満	

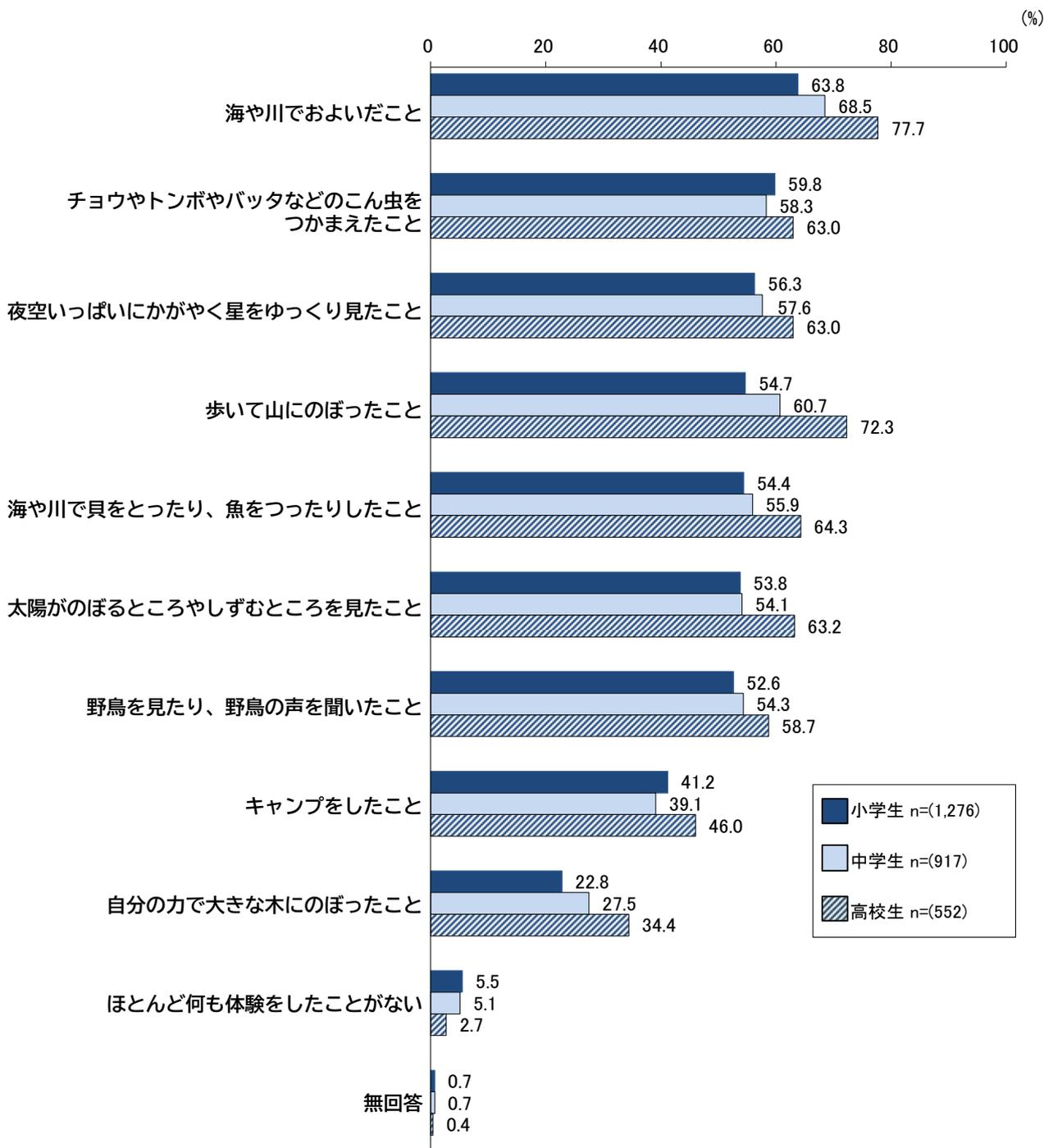
外出頻度の低い人のうち、現在の外出状況となってからの期間が6か月以上と回答した人に、最近6か月の家族以外との会話の状況を聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも「よく会話した」と「ときどき会話した」を合わせた《会話した 計》は9割以上となっており、中学生（100.0%）では全数を占めています。一方、高校生では「まったく会話しなかった」（2.7%）も僅かに回答があります。



(7) 今までに体験したこと

Q：あなたは、今までに、次のような体験をしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

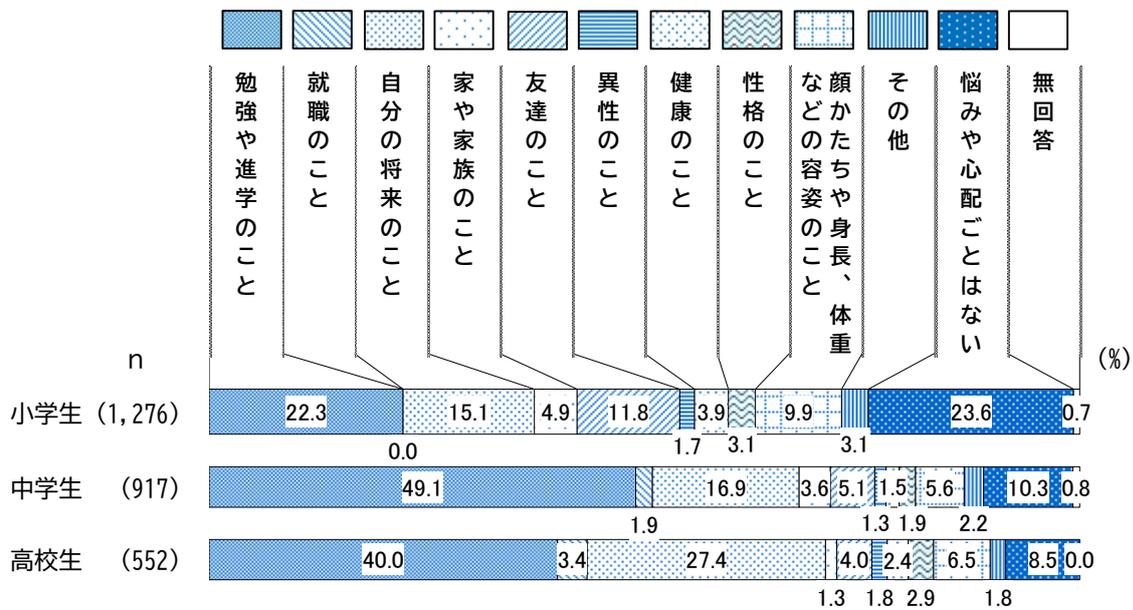
今までに体験したことについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「海や川でおよいだこと」が最も高くなっています。高校生では「歩いて山にのぼったこと」（72.3%）も7割を超えて高くなっています。



(8) 悩みや心配ごと

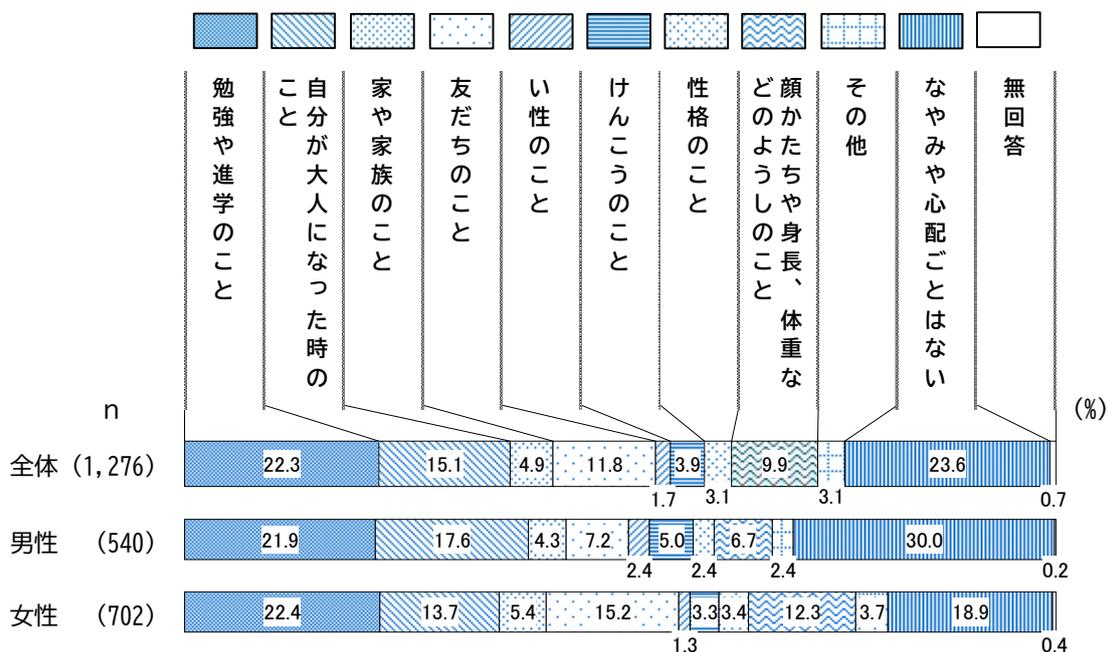
Q：あなたの悩みや心配ごとの中で、最も大きいものを選んでください。（○は1つ）

悩みや心配ごとについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「勉強や進学のこと」が特に高くなっています。なお、小学生では「悩みや心配ごとはない」（23.6%）が最も高くなっています。



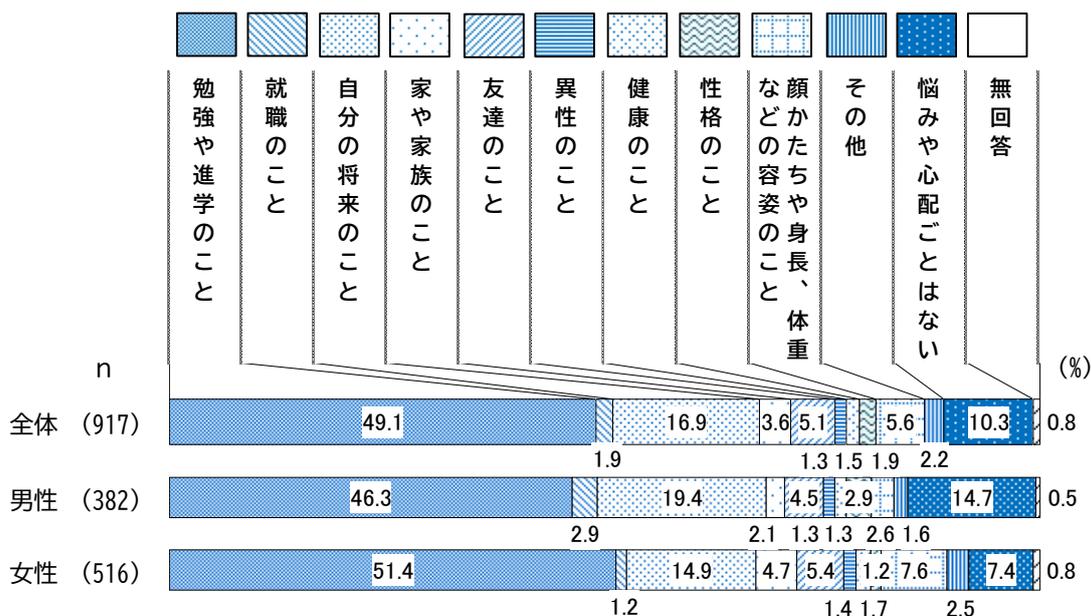
【小学生調査】

悩みや心配ごとを小学生の性別でみると、「友だちのこと」は女性（15.2%）が男性（7.2%）を8.0ポイント、「顔かたちや身長、体重などのようしのこと」は女性（12.3%）が男性（6.7%）を5.6ポイント上回っています。



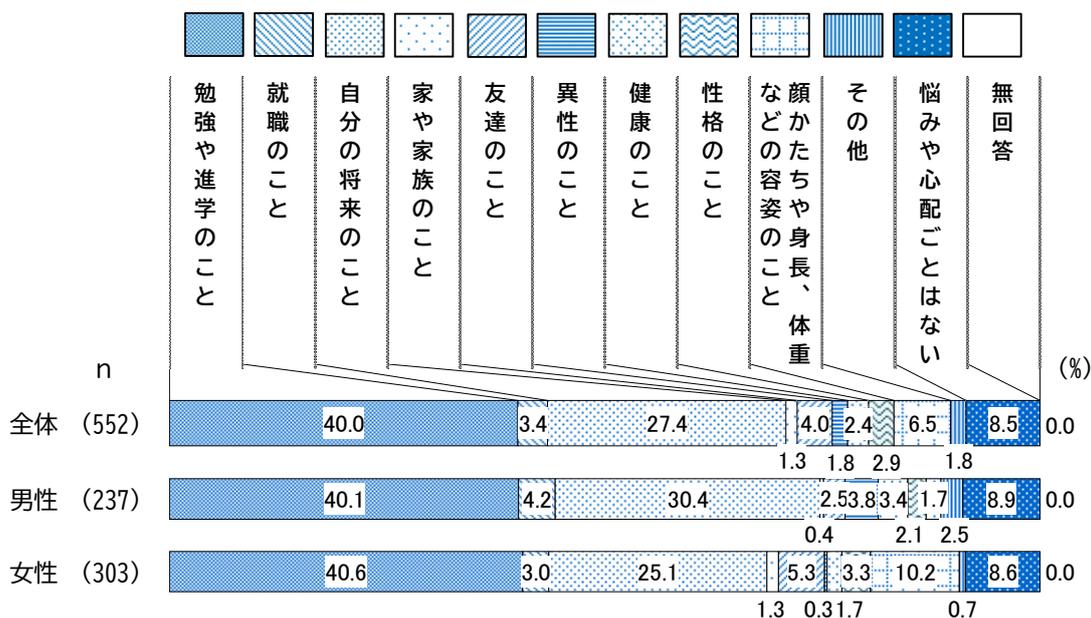
【中学生調査】

悩みや心配ごとを中学生の性別でみると、「勉強や進学のこと」は女性（51.4%）が男性（46.3%）を5.1ポイント、「顔かたちや身長、体重などの容姿のこと」は女性（7.6%）が男性（2.6%）を5.0ポイント上回っています。「自分の将来のこと」は男性（19.4%）が女性（14.9%）を5.0ポイント上回っています。また、「悩みや心配ごとはない」は男性（14.7%）が女性（7.4%）を7.3ポイント上回っています。



【高校生調査】

悩みや心配ごとを高校生の性別でみると、「勉強や進学のこと」は男女ともに4割台となっています。「就職のこと」は男性（30.4%）が女性（25.1%）を5.3ポイント、「顔かたちや身長、体重などの容姿のこと」は女性（10.2%）が男性（1.7%）を8.5ポイント上回っています。

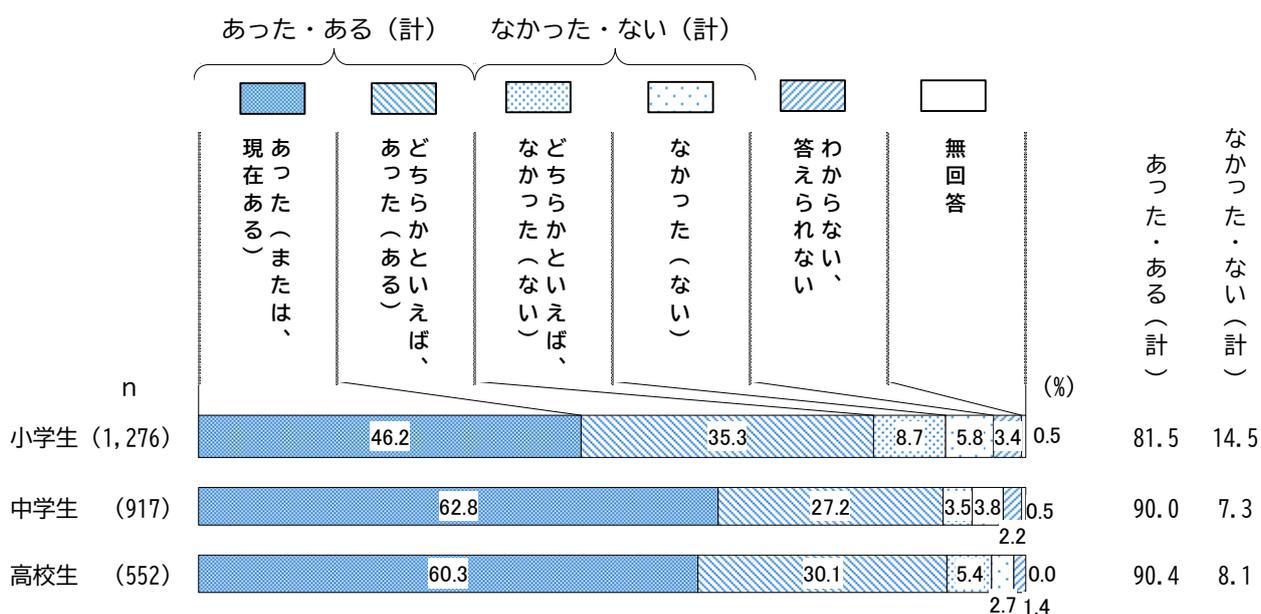


## 5 経験について

### (1) 落ち込んだ経験

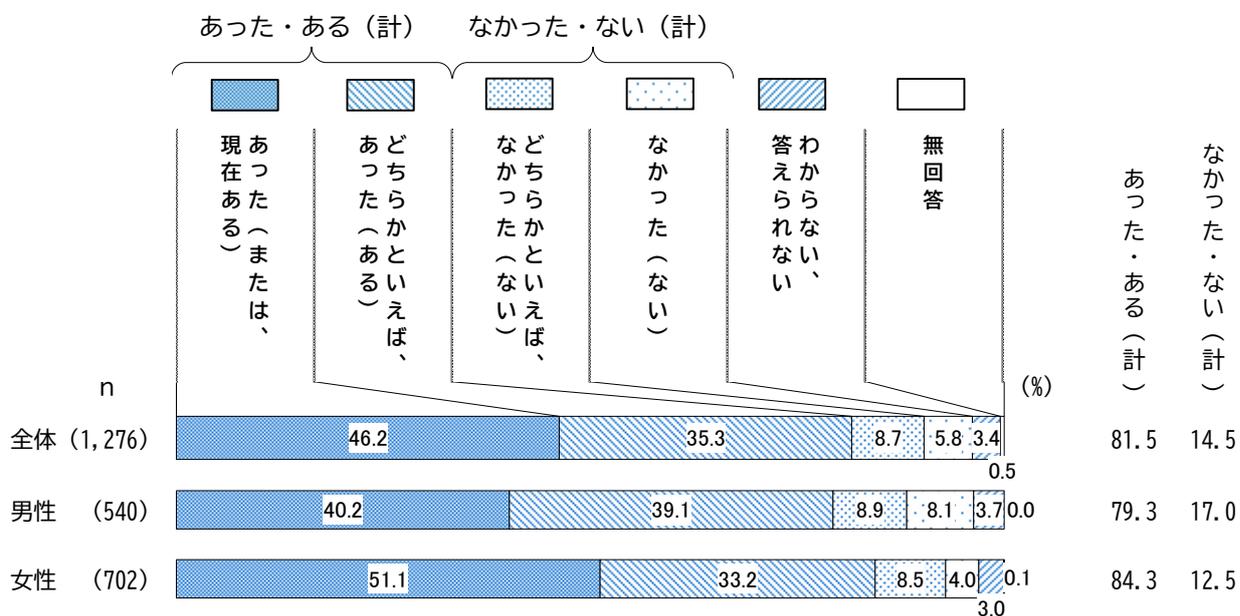
Q：あなたは今までに、ものごとがうまくいかず落ち込んだ経験があったと思いますか。または、現在、ありますか。最もあてはまるものを選んでください。（○は1つ）

今までにものごとがうまくいかず落ち込んだ経験があったかについて、「あった（または、現在ある）」と「どちらかといえば、あった（ある）」を合わせた《あった・ある 計》は中学生（90.0%）と高校生（90.4%）で9割、小学生（81.5%）で8割を超えて高くなっています。



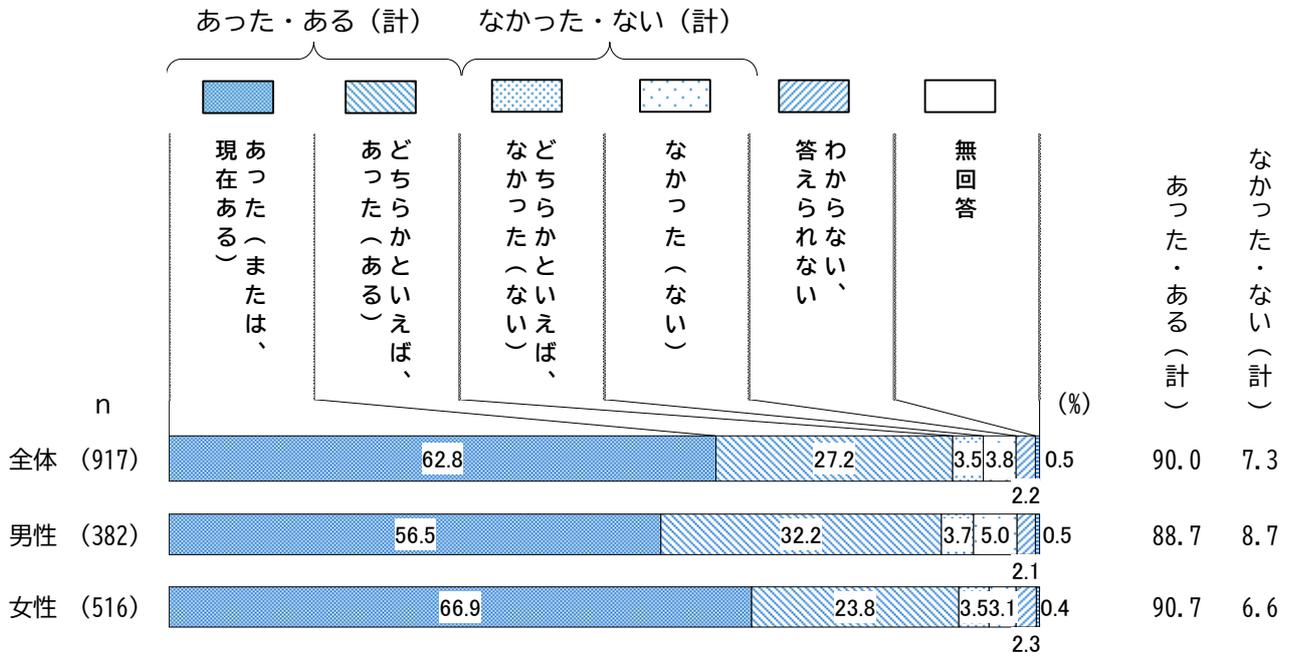
#### 【小学生調査】

落ち込んだ経験を小学生の性別でみると、「あった（または、現在ある）」は女性（51.1%）が男性（40.2%）を10.9ポイント上回っています。《あった・ある 計》でみると、女性（84.3%）が男性（79.3%）を5.0ポイント上回っています。



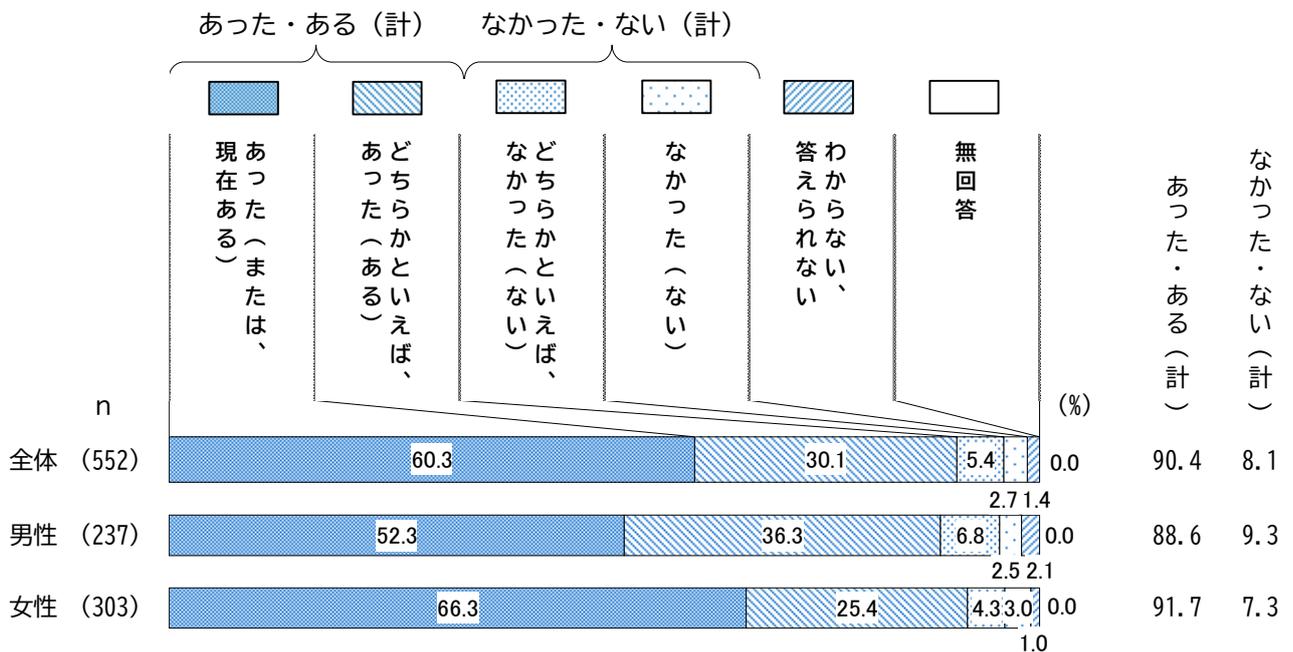
【中学生調査】

落ち込んだ経験を中学生の性別でみると、「あった（または、現在ある）」は女性（66.9%）が男性（56.5%）を10.4ポイント上回っています。《あった・ある 計》でみると、男女ともに9割前後で女性の方が落ち込んだ経験はやや高いものの、大きな違いはみられません。



【高校生調査】

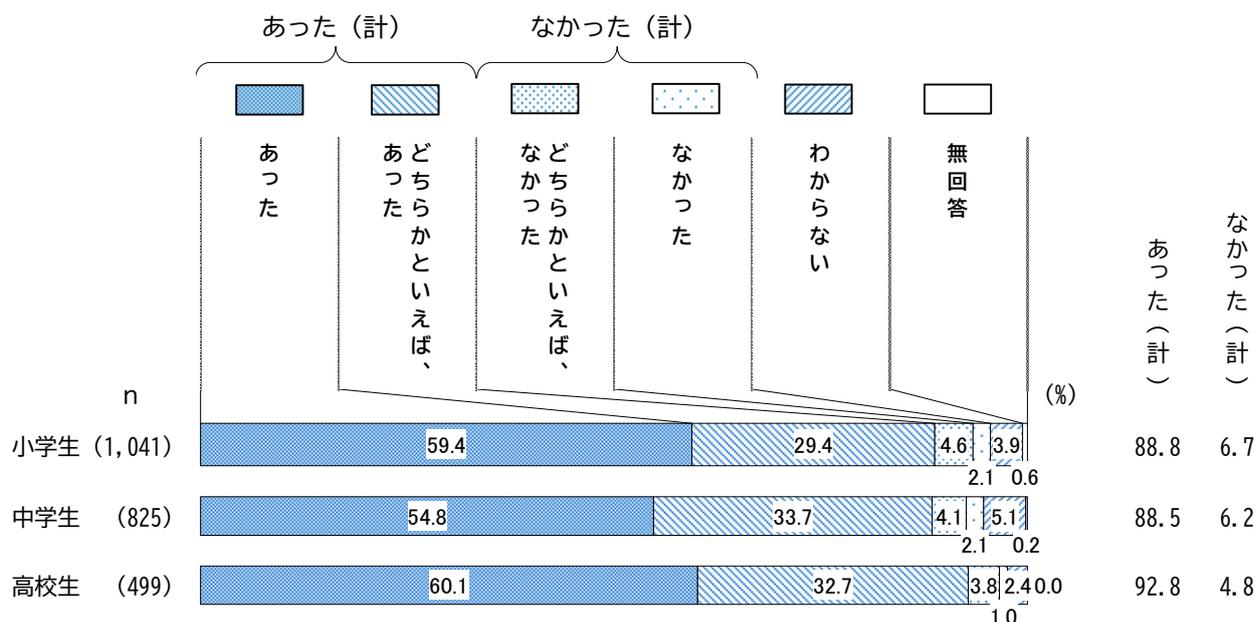
落ち込んだ経験を高校生の性別でみると、「あった（または、現在ある）」は女性（66.3%）が男性（52.3%）を14.0ポイント上回っています。《あった・ある 計》でみると、男女ともに9割前後で女性の方が落ち込んだ経験はやや高いものの、大きな違いはみられません。



(2) 落ち込んだ状態から元に戻った経験

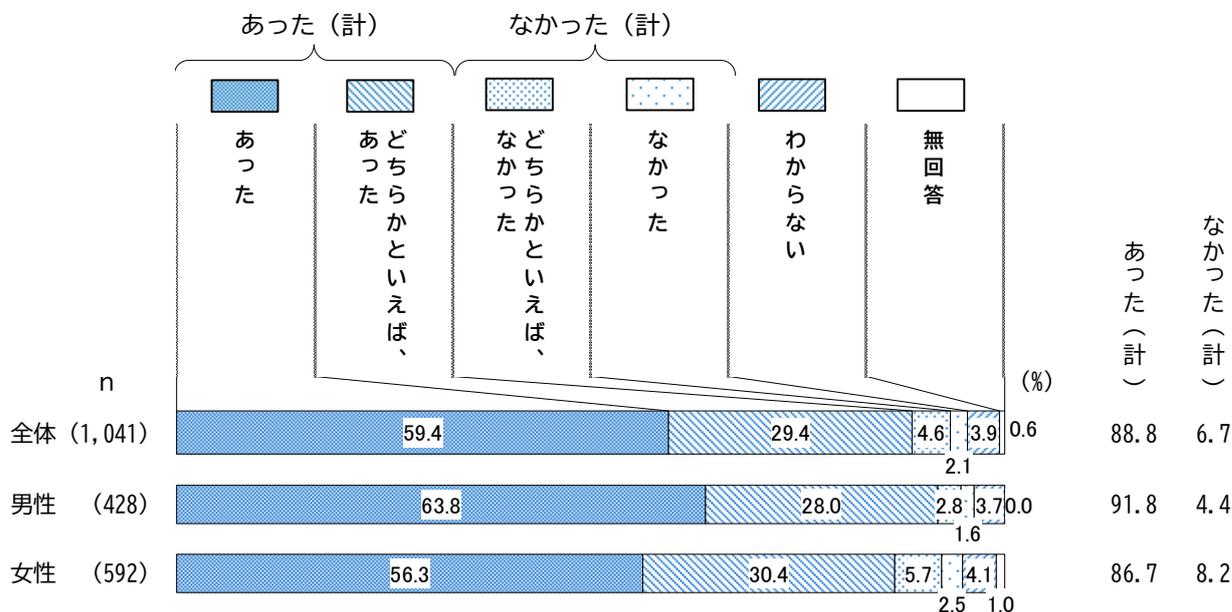
※落ち込んだ経験で「あった（または、現在ある）」、「どちらかといえば、あった（ある）」を選んだ方のみ回答  
 Q：あなたは今までに、ものごとがうまくいかず落ち込んだ状態から元に戻った経験があったと思いますか。最もあてはまるものを選んでください。（○は1つ）

今までにものごとがうまくいかず落ち込んだ状態から元に戻った経験について、「あった」と「どちらかといえば、あった」を合わせた《あった計》は小学生、中学生、高校生のいずれも9割前後と高くなっています。



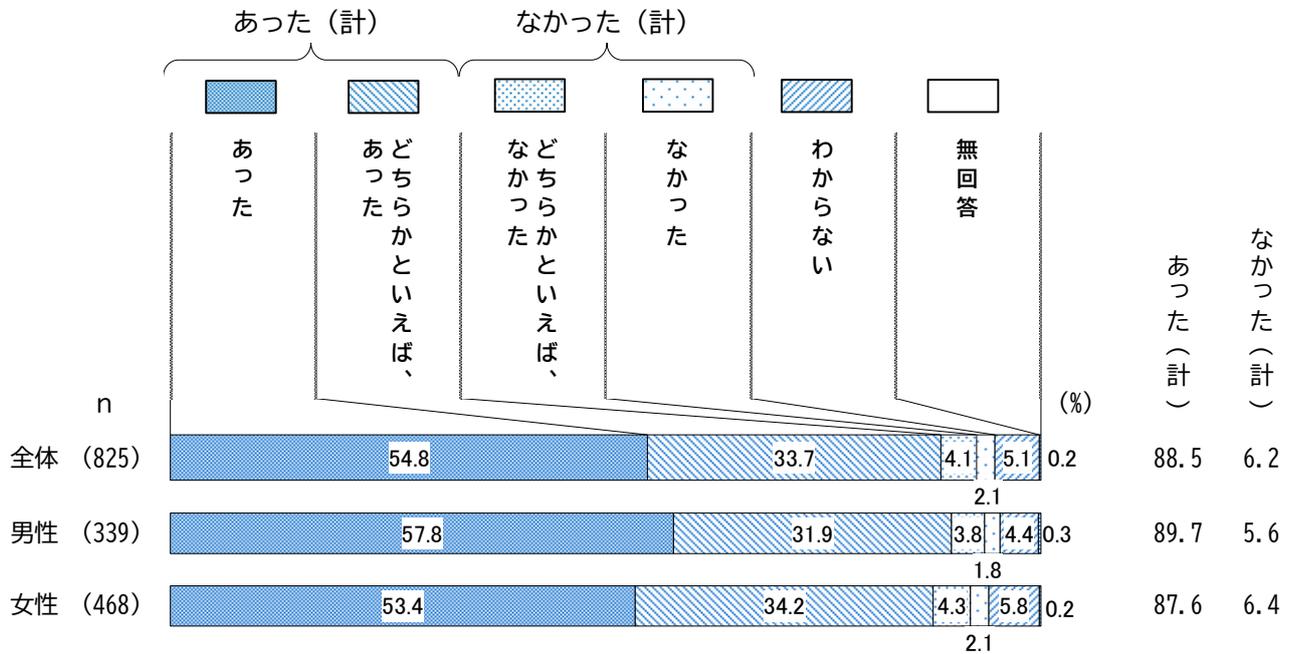
【小学生調査】

落ち込んだ状態から元に戻った経験を小学生の性別でみると、「あった」は男性（63.8%）が女性（56.3%）を7.5ポイント上回っています。《あった計》でも男性（91.8%）が女性（86.7%）を5.1ポイント上回っています。



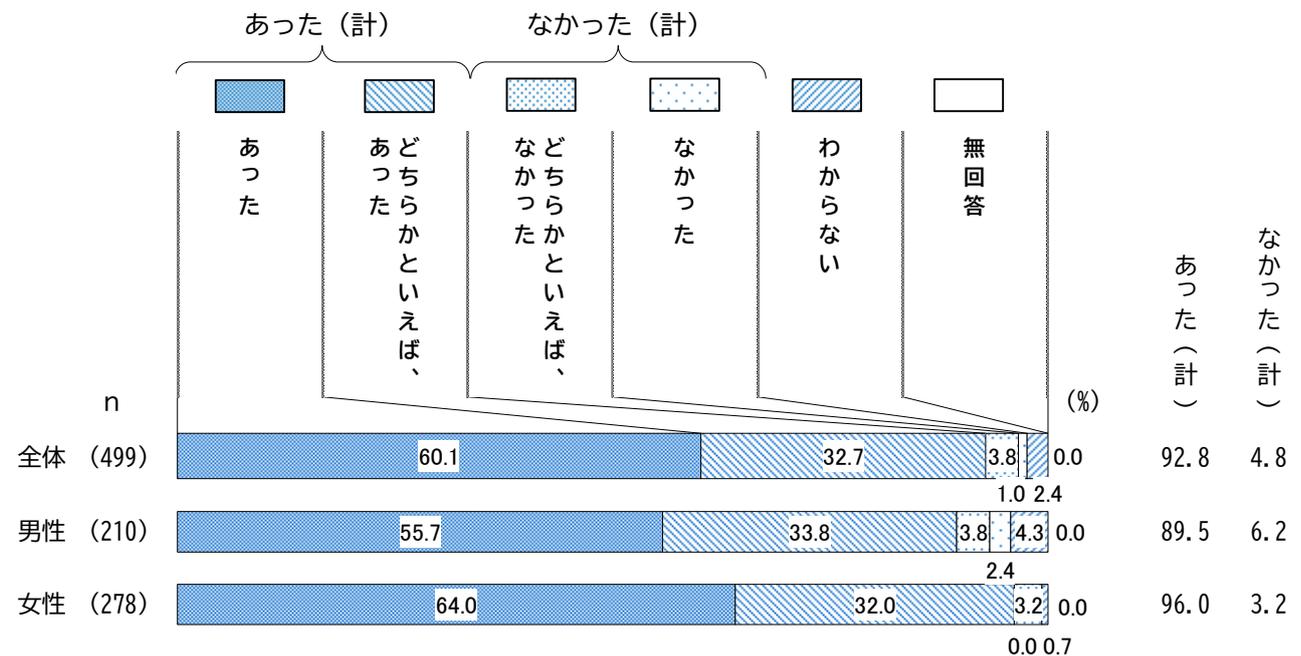
【中学生調査】

落ち込んだ状態から元に戻った経験を中学生の性別でみると、《あった 計》は男女とも8割台で、男性の方が落ち込んだ状態から元に戻った経験はやや高いものの、大きな違いはみられません。



【高校生調査】

落ち込んだ状態から元に戻った経験を高校生の性別でみると、「あった」は女性（64.0%）が男性（55.7%）を8.3ポイント上回っています。《あった 計》でも女性（96.0%）が男性（89.5%）を6.5ポイント上回っています。

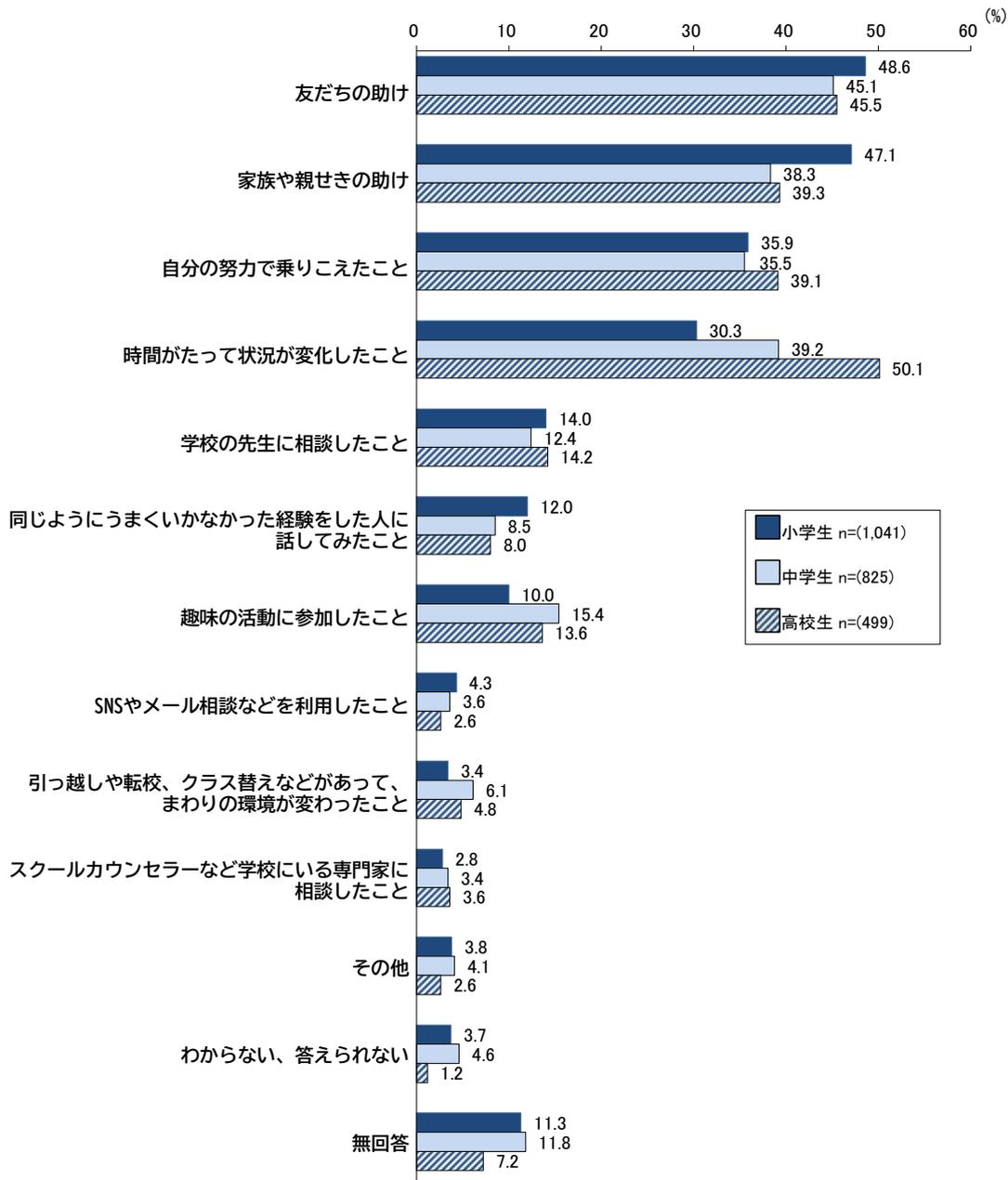


(3) 落ち込んだ状態から元に戻ったきっかけ

※落ち込んだ状態から元に戻った経験で「あった」、「どちらかといえば、あった」を選んだ方のみ回答

Q：落ち込んだ状態から元に戻ったのは、どのようなことがきっかけだったと思いますか。（〇はいくつでも）

落ち込んだ状態から元に戻ったきっかけについて、小学生、中学生では「友だちの助け」（小学生48.6%、中学生45.1%）、高校生では「時間がたって状況が変化したこと」（50.1%）が最も高くなっています。



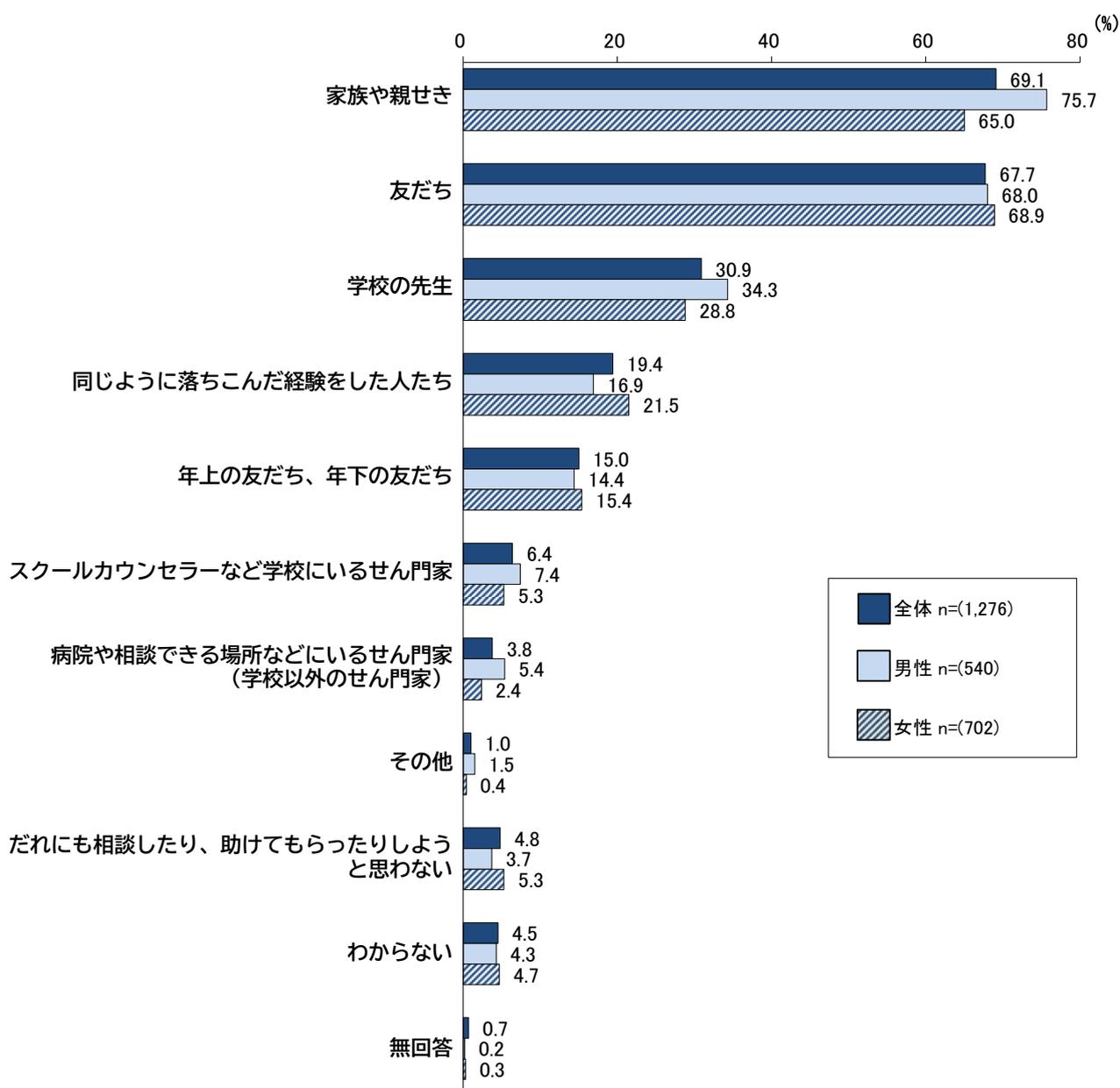
(4) 落ち込んだときの相談相手

Q：あなたが、ものごとがうまくいかず落ち込んだときに、どういった人なら、相談したり、助けてもらったりしやすいと感じますか。あてはまるものすべてを選んでください。（○はいくつでも）

【小学生調査】

落ち込んだときの相談相手について、小学生の全体は、「家族や親せき」（69.1%）、「友だち」（67.7%）が約7割で高くなっており、次いで「学校の先生」（30.9%）、「同じように落ちこんだ経験をした人たち」（19.4%）と続きます。

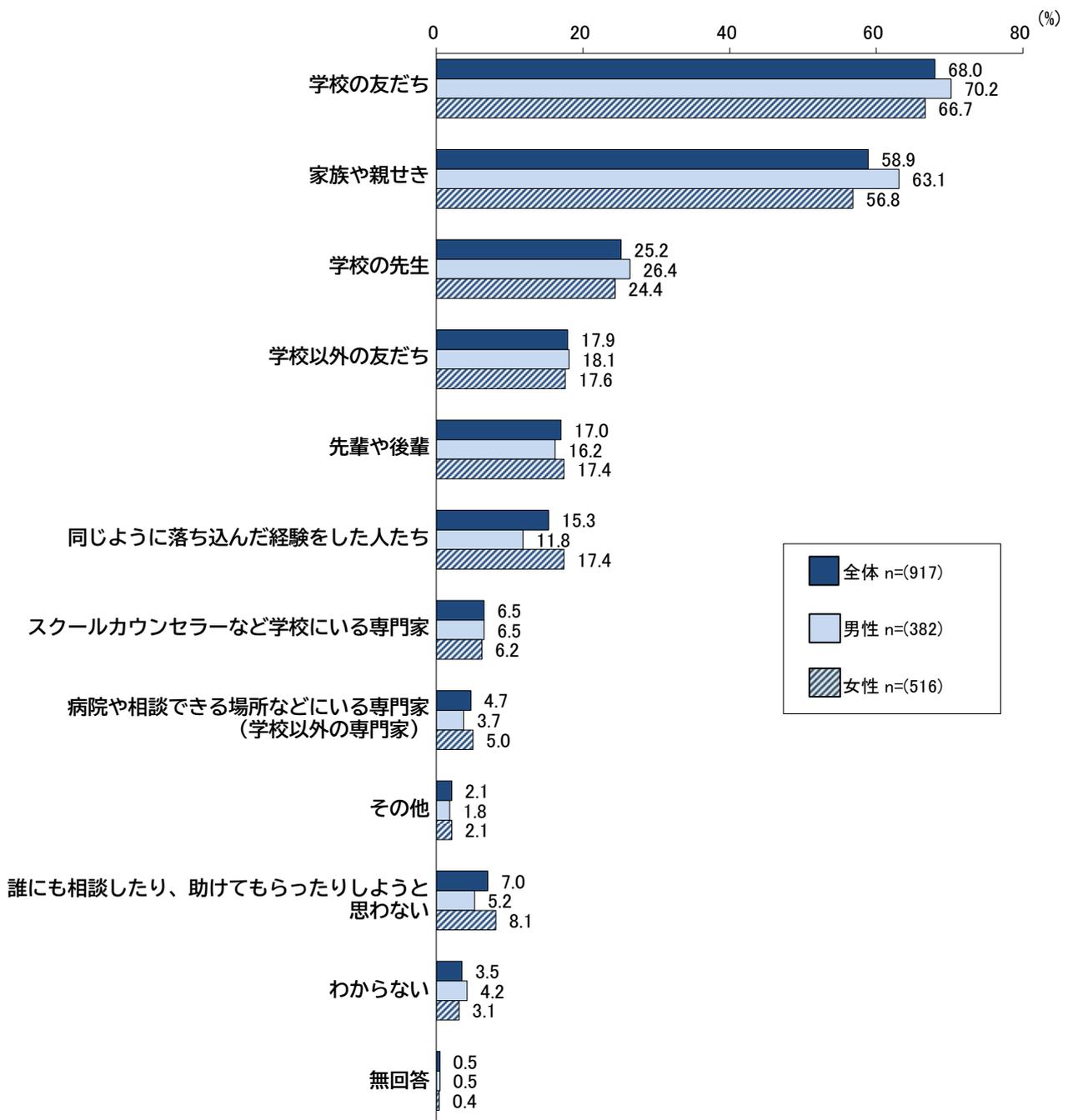
性別で見ると、男性では「家族や親せき」（75.7%）、女性では「友だち」（68.9%）が最も高くなっています。



【中学生調査】

落ち込んだときの相談相手について、中学生の全体は、「学校の友だち」（68.0％）が最も高く、次いで「家族や親せき」（58.9％）、「学校の先生」（25.2％）、「学校以外の友だち」（17.9％）と続きます。

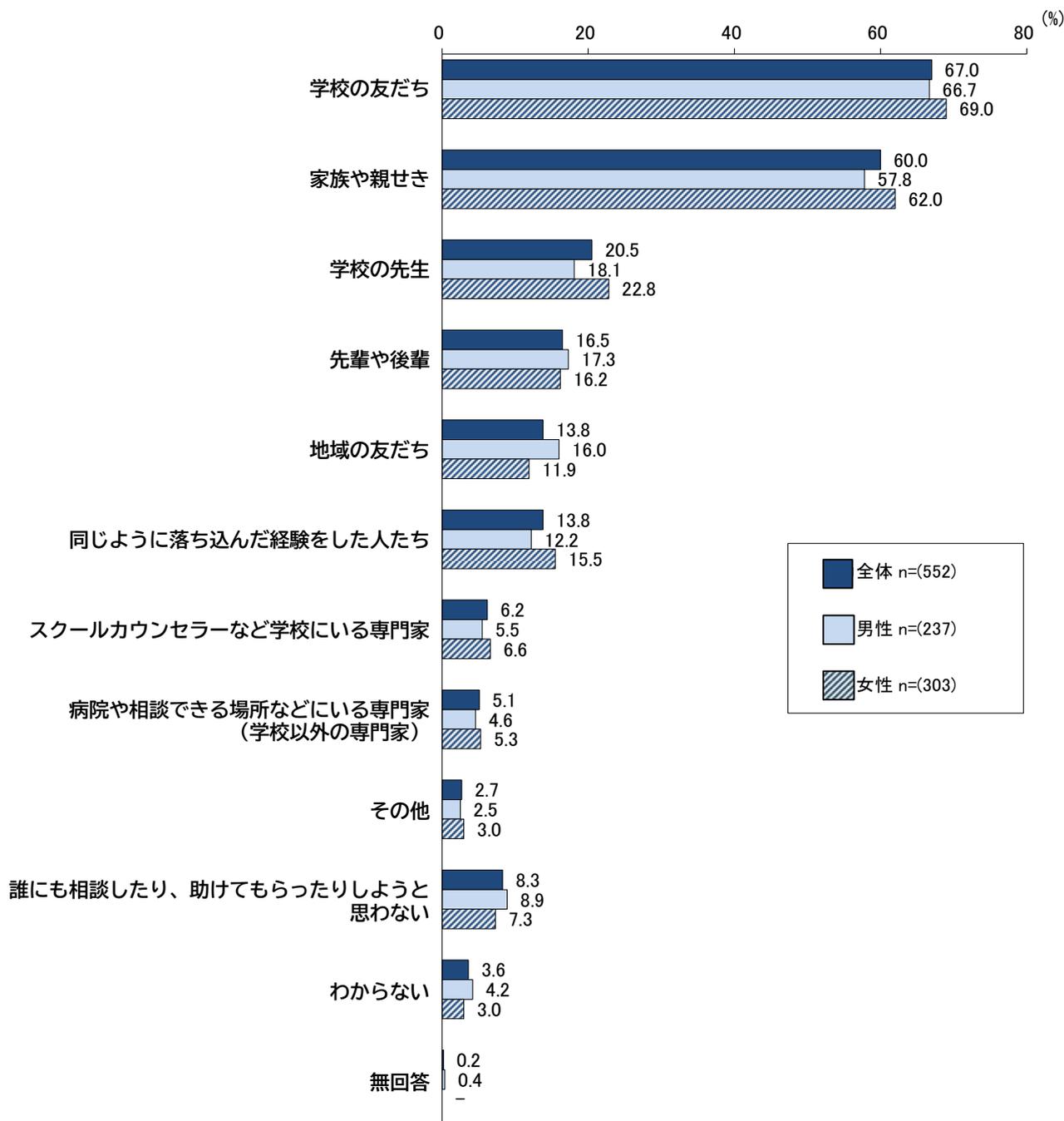
性別でみると、男女ともに「学校の友だち」が最も高く、「家族や親せき」は男性（63.1％）が女性（56.8％）を6.3ポイント上回っています。



【高校生調査】

落ち込んだときの相談相手について、高校生の全体は、「学校の友だち」（67.0％）が最も高く、次いで「家族や親せき」（60.0％）、「学校の先生」（20.5％）、「先輩や後輩」（16.5％）と続きます。

性別で見ると、男女ともに「学校の友だち」が最も高く、「学校の先生」は女性（22.8％）が男性（18.1％）を4.7ポイント上回っています。

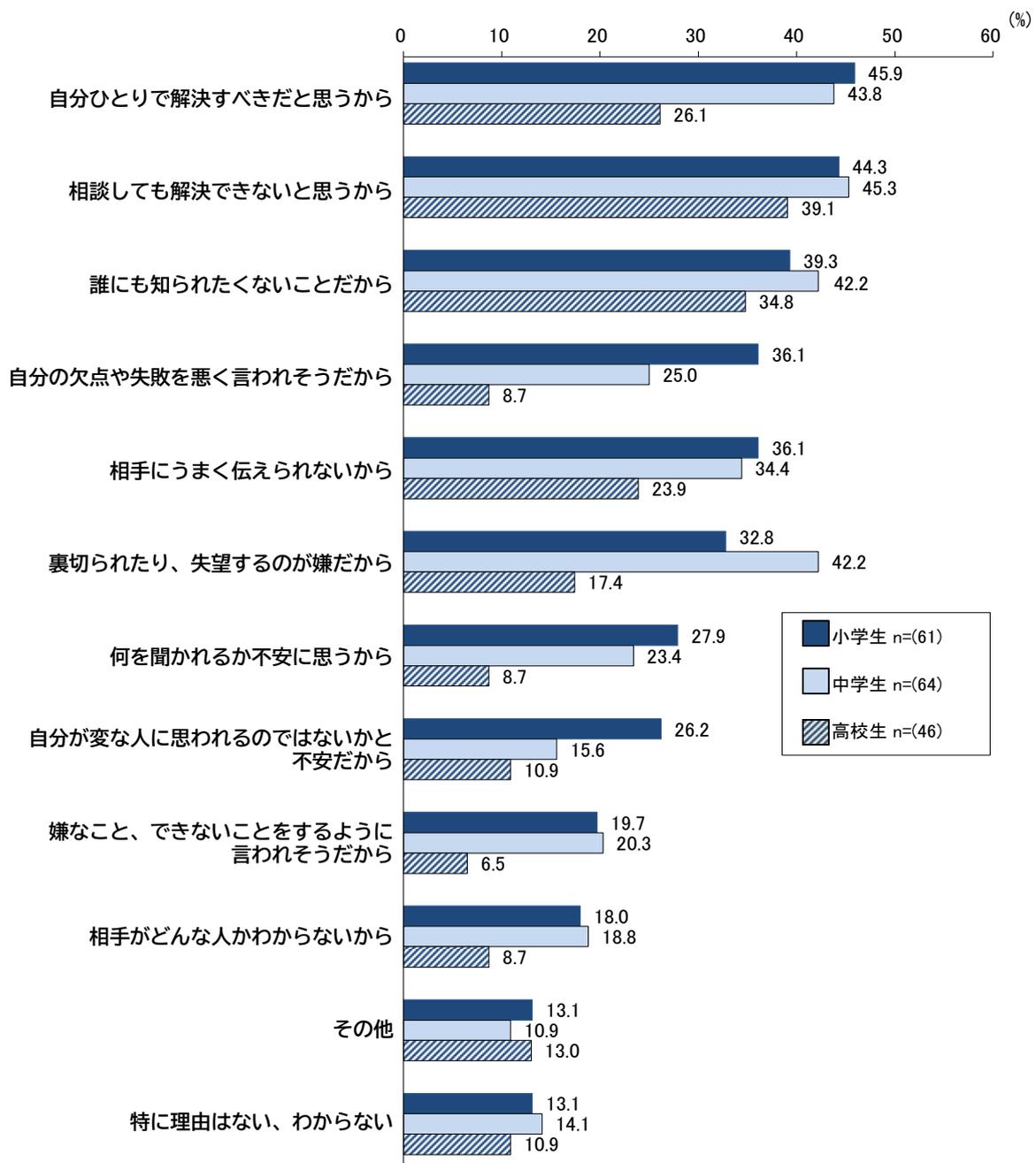


(5) 相談しようと思わない理由

※落ち込んだときの相談相手で「誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない」を選んだ方のみ回答

Q:「誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない」の理由をお答えください。(〇はいくつでも)

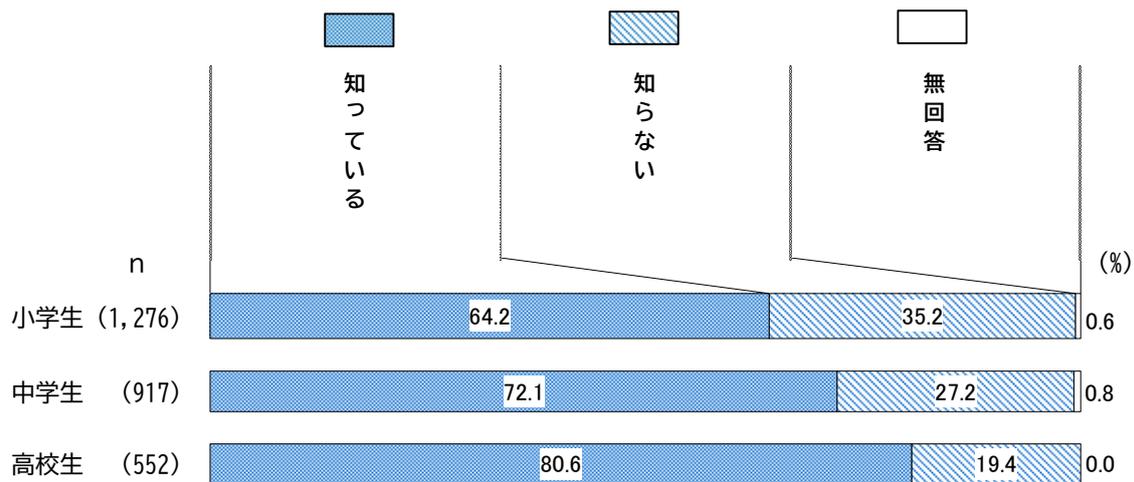
「誰にも相談したくない」と答えた人の理由は、小学生は「自分ひとりで解決すべきだと思うから」(45.9%)、中学生と高校生は「相談しても解決できないと思うから」(中学生45.3%、高校生39.1%)が特に高くなっています。



（6）相談場所の認知度

Q：あなたは、家庭や学校以外で、悩みや困りごとなどを相談できる場所があることを知っていますか。（○は1つ）

悩みや困りごとの認知度について、「知っている」は小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて割合は増加しており、高校生では8割となっています。



## 6 人とのつながりについて

## &lt;孤独の把握方法&gt;

本調査では、孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、2種類の設問を採用しています。

## ①間接質問

「UCLA孤独感尺度」の日本語版3項目短縮版に基づく質問であり、3つの設問への回答を点数化し、その合計スコア（本調査では最低点3点～最高点12点）が高いほど孤独感が高いと評価している。「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査では「間接質問」と呼称する。

ア) 自分には話せる人がいないと感ずることがある

1 まったくない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 いつもある

イ) 自分はまわりから、取りのこされていると感ずることがある

1 まったくない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 いつもある

ウ) 自分はひとりぼっちだと感ずることがある

1 まったくない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 いつもある

## ②直接質問

孤独感を直接的に質問。この調査では「直接質問」と呼称する。

**(参考) UCLA孤独感尺度**

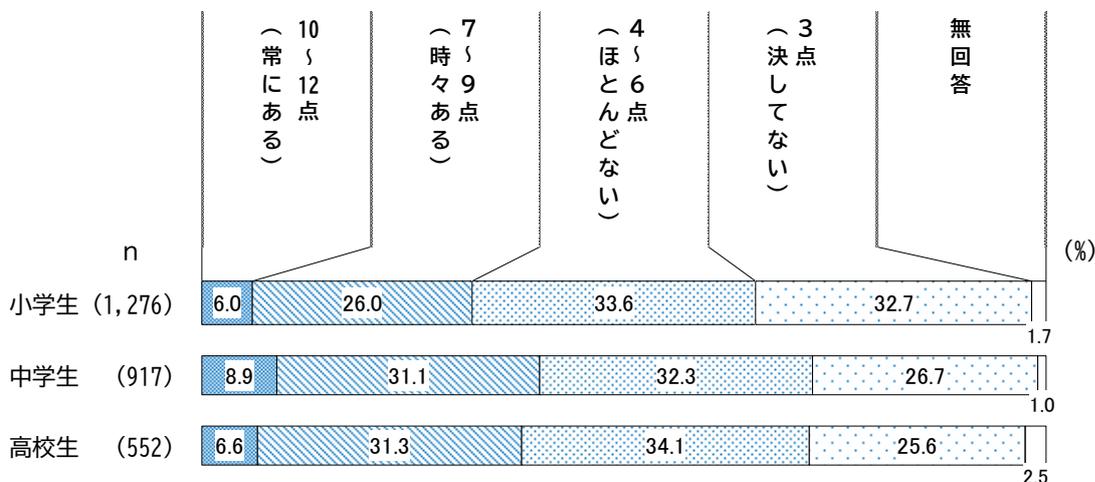
カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の研究者が孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定しようと考案したもの。本調査では上記の3項目の設問について、それぞれ**4つの回答選択肢（4件法）を設定**。「まったくない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「いつもある」を4点とし、その合計スコアにより孤独感の高さを測定。なお、調査によって尺度がアレンジされることがあり、英国では「しばしばある」（3点）、「時々ある」（2点）、「ほとんど・決してない」（1点）の3つの回答選択肢（3件法）を設定。

(1) 孤独感（間接質問）

以下のア) からウ) の項目について、あなたはどのくらいよく感じていますか。（○は1つ）

※項目	ア) 自分には話せる人がいないと感じることがある
	イ) 自分はまわりから、取りのこされていると感じることがある
	ウ) 自分はひとりぼっちだと感じるということがある

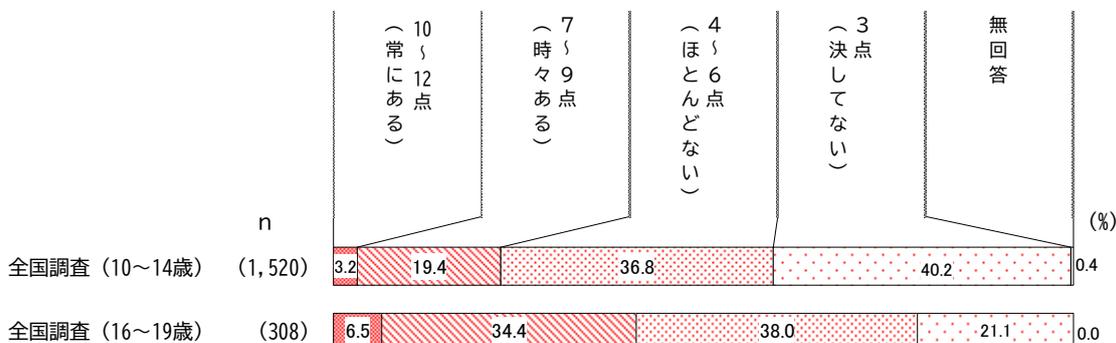
「UCLA孤独感尺度」に基づく孤独感スコアでは、「10～12点（常にある）」は中学生がやや高く8.9%、「7～9点（時々ある）」は中学生、高校生が3割を超えています。一方、「3点（決してない）」は小学生で32.7%と高くなっています。



全国調査※との比較

全国調査の合計スコアが「10～12点」の人は、10～14歳では3.2%、16～19歳では6.5%となっており、市調査において調査年齢の近い小学生（6.0%）、中学生（8.9%）は全国調査より割合が高く、高校生（6.6%）はほぼ同率です。

また、全国調査で「3点」の人は、10～14歳では40.2%、16～19歳では21.1%となっており、市調査の小学生（32.7%）、中学生（26.7%）は全国調査より低くなっています。市調査の高校生（25.6%）は全国調査より高くなっています。

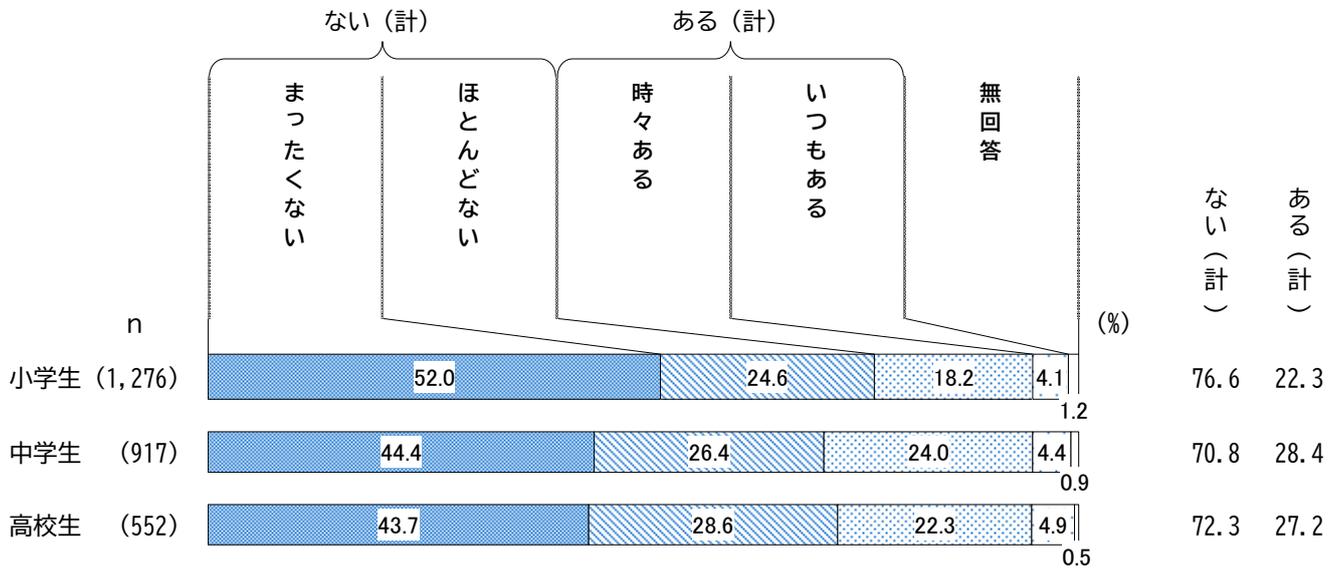


※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

※内閣官房孤独・孤立対策担当室 人々のつながりに関する基礎調査（令和5年度） / 16歳～19歳集計結果

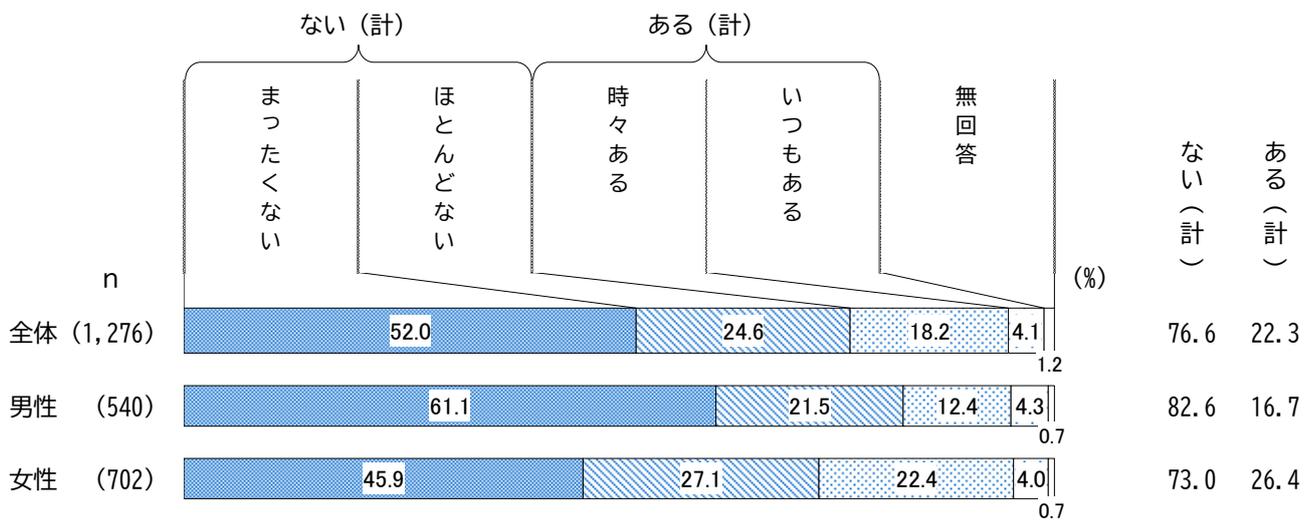
ア) 自分には話せる人がいないと感じることがある

自分には話せる人がいないと感じることがあるかについて、「いつもある」と「時々ある」を合わせた《ある 計》は中学生（28.4%）と高校生（27.2%）で約3割となっています。



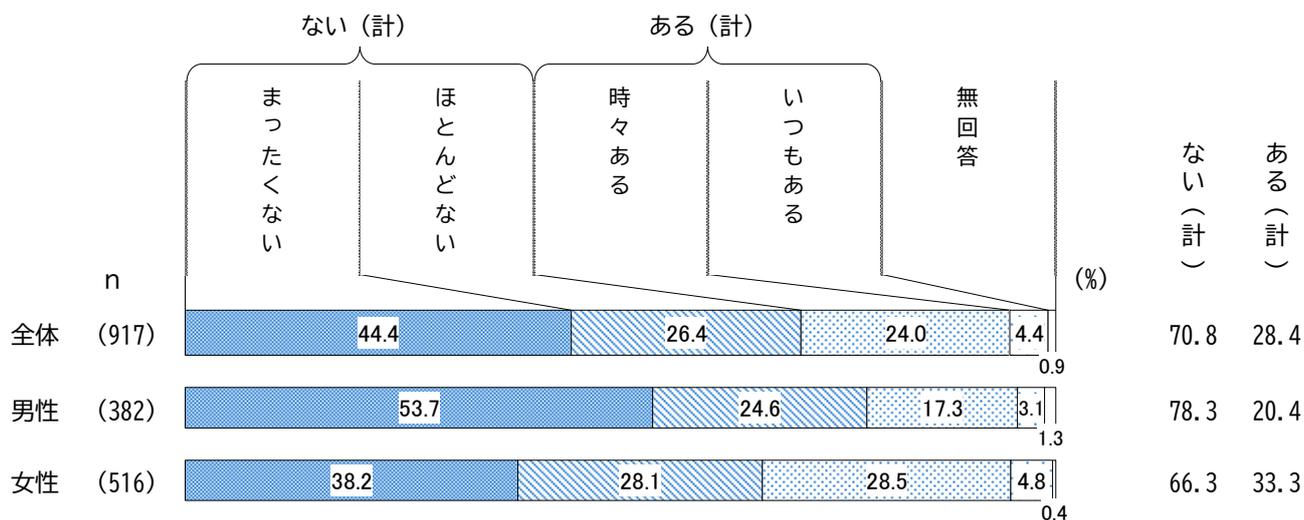
【小学生調査】

自分には話せる人がいないと感じるかを小学生の性別でみると、《ある 計》は女性（26.4%）が男性（16.7%）を9.7ポイント上回っています。一方、「まったくない」は男性（61.1%）が女性（45.9%）を15.2ポイント上回っています。



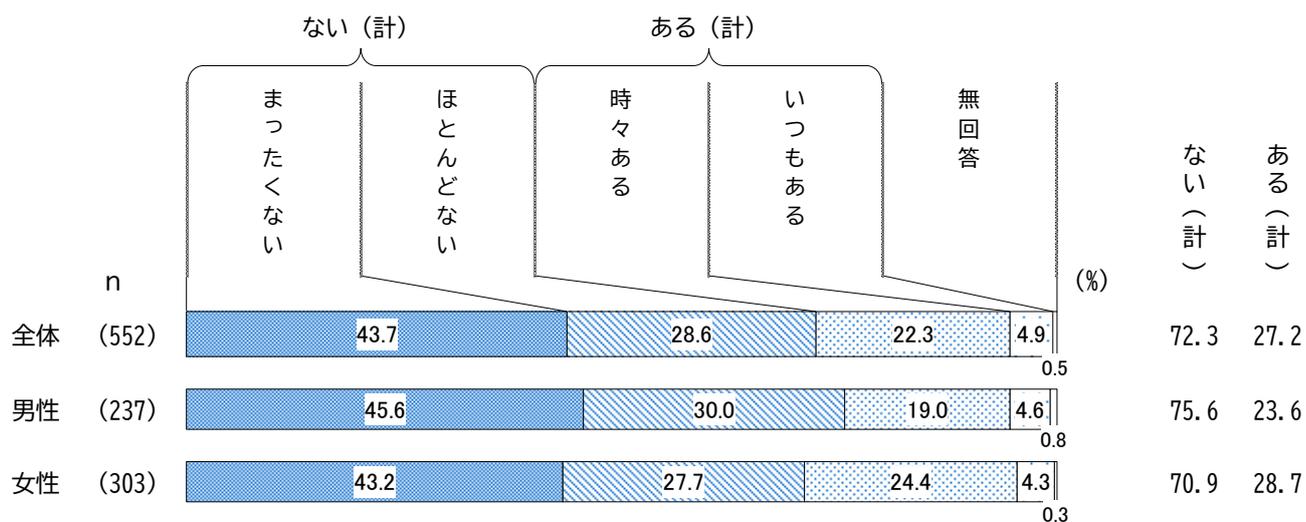
【中学生調査】

自分には話せる人がいないと感じるかを中学生の性別でみると、《ある 計》は女性（33.3%）が男性（20.4%）を12.9ポイント上回っています。一方、「まったくない」は男性（53.7%）が女性（38.2%）を15.5ポイント上回っています。



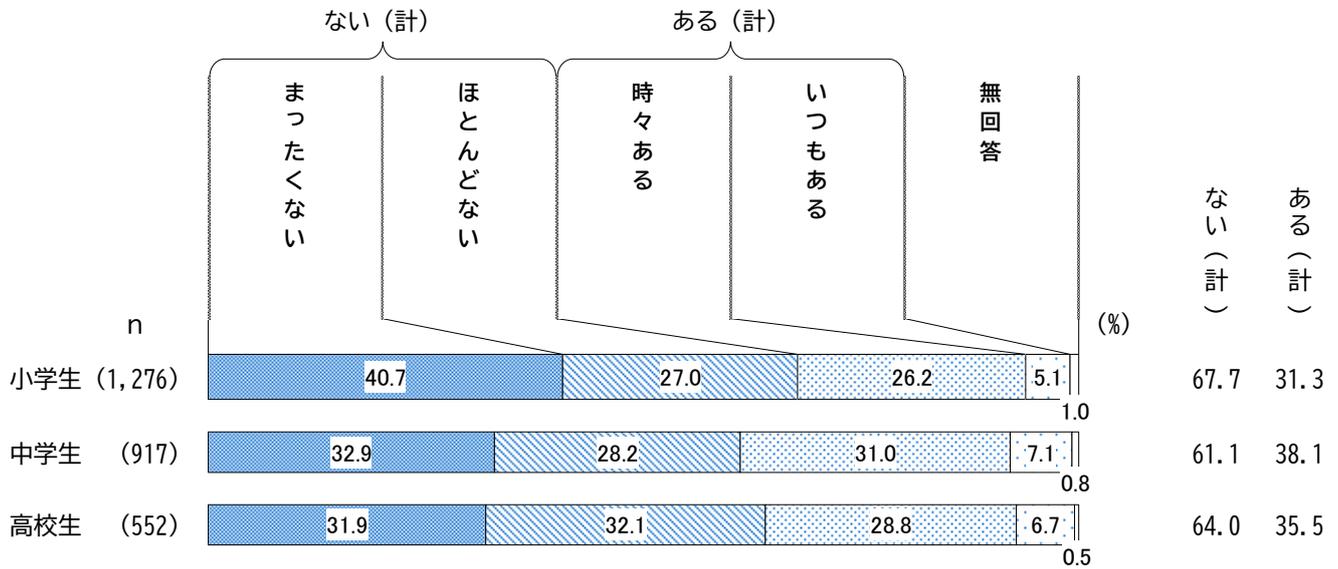
【高校生調査】

自分には話せる人がいないと感じるかを高校生の性別でみると、《ある 計》は男女ともに2割台となっており、女性の方がやや高いものの大きな違いはみられません。



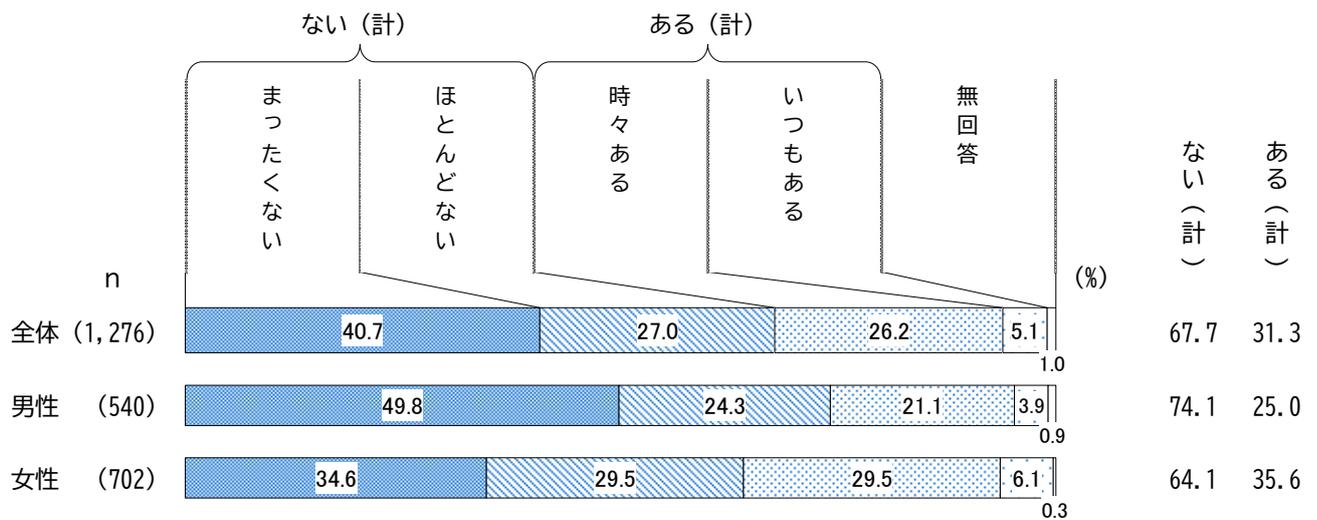
イ) 自分はまわりから、取りのこされていると感じることがある

自分はまわりから、取りのこされていると感じることがあるかについて、「いつもある」と「時々ある」を合わせた《ある 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも3割台となっており、特に中学生が38.1%と高くなっています。



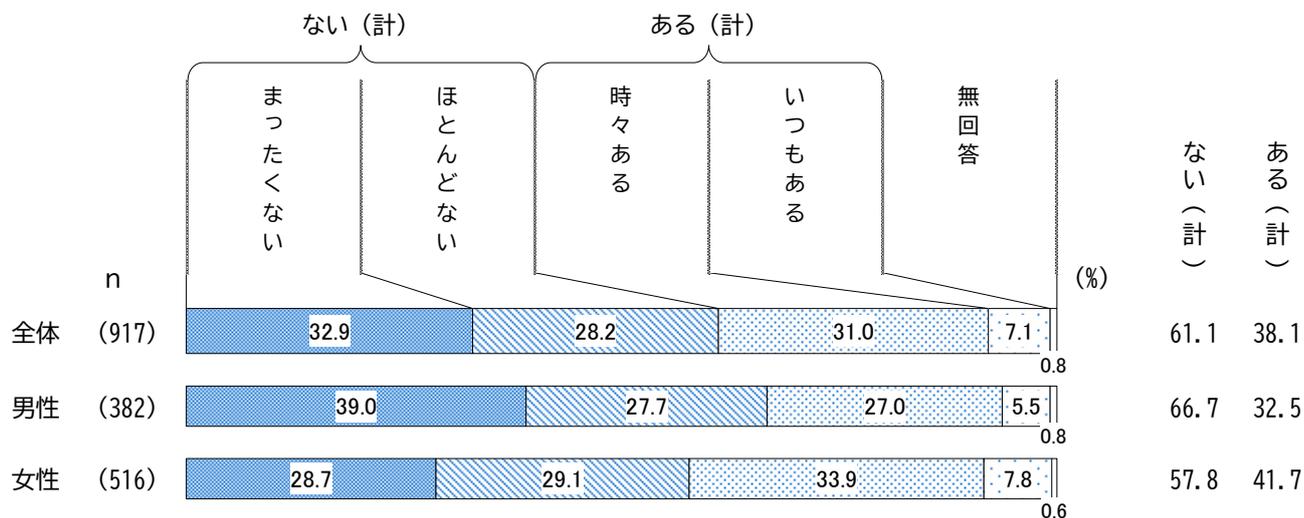
【小学生調査】

自分はまわりから、取りのこされていると感じるかを小学生の性別でみると、《ある 計》は女性 (35.6%) が男性 (25.0%) を10.6ポイント上回っています。一方、「まったくない」は男性 (49.8%) が女性 (34.6%) を15.2ポイント上回っています。



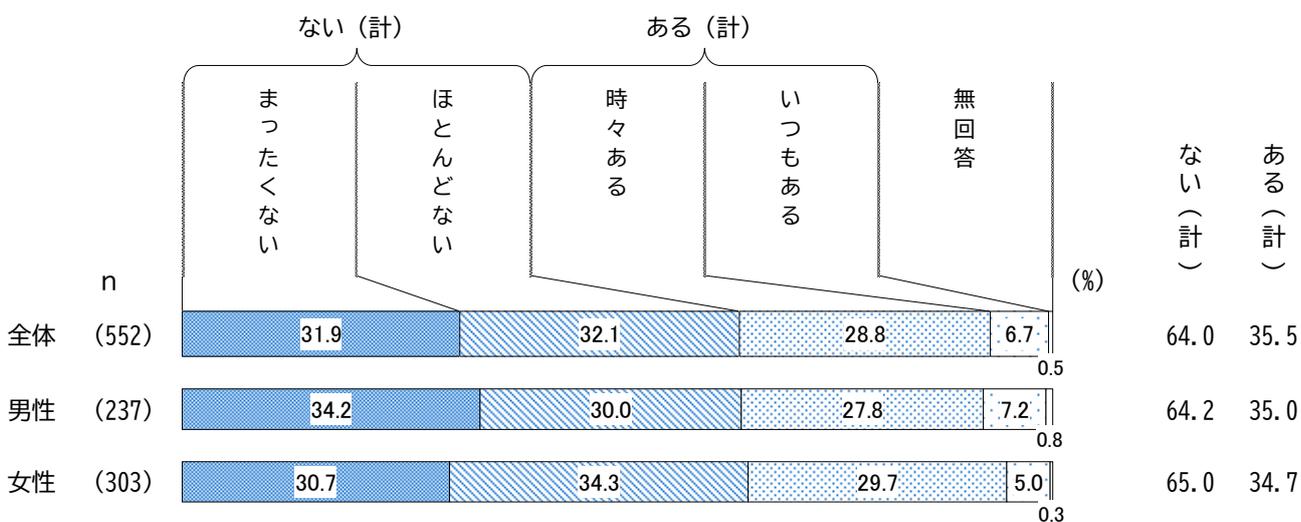
【中学生調査】

自分はまわりから、取りのこされていると感じるかを中学生の性別でみると、《ある 計》は女性（41.7%）が男性（32.5%）を9.2ポイント上回っています。一方、「まったくない」は男性（39.0%）が女性（28.7%）を10.3ポイント上回っています。



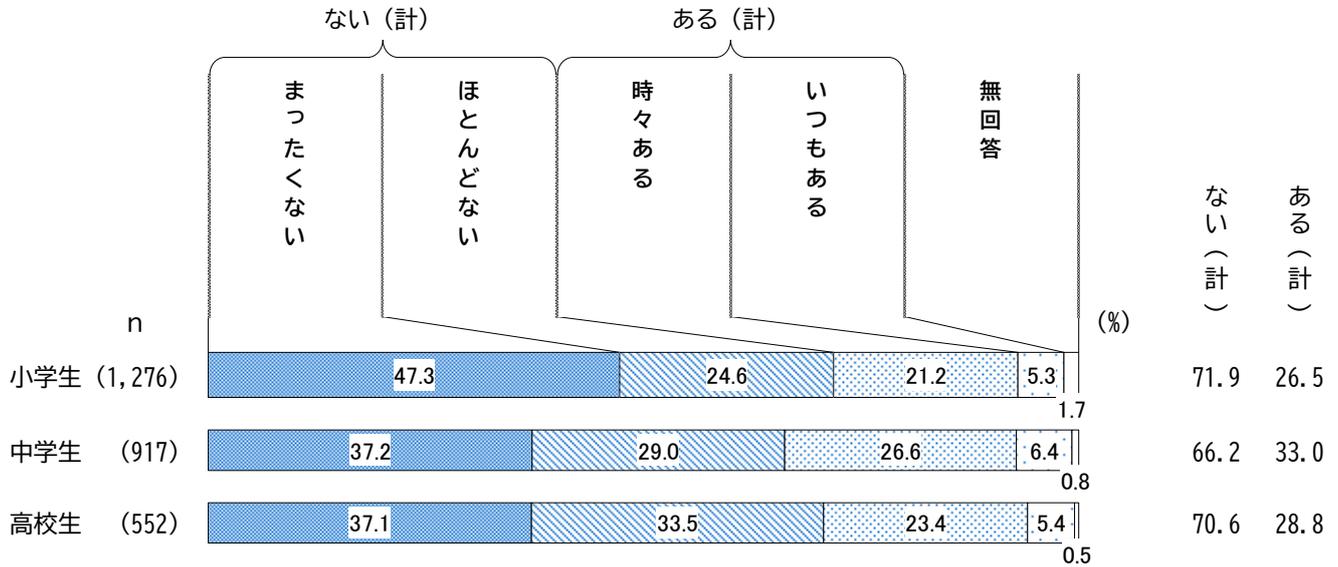
【高校生調査】

自分はまわりから、取りのこされていると感じるかを高校生の性別でみると、《ある 計》は男女ともに3割台半ばとなっており、大きな違いはみられません。



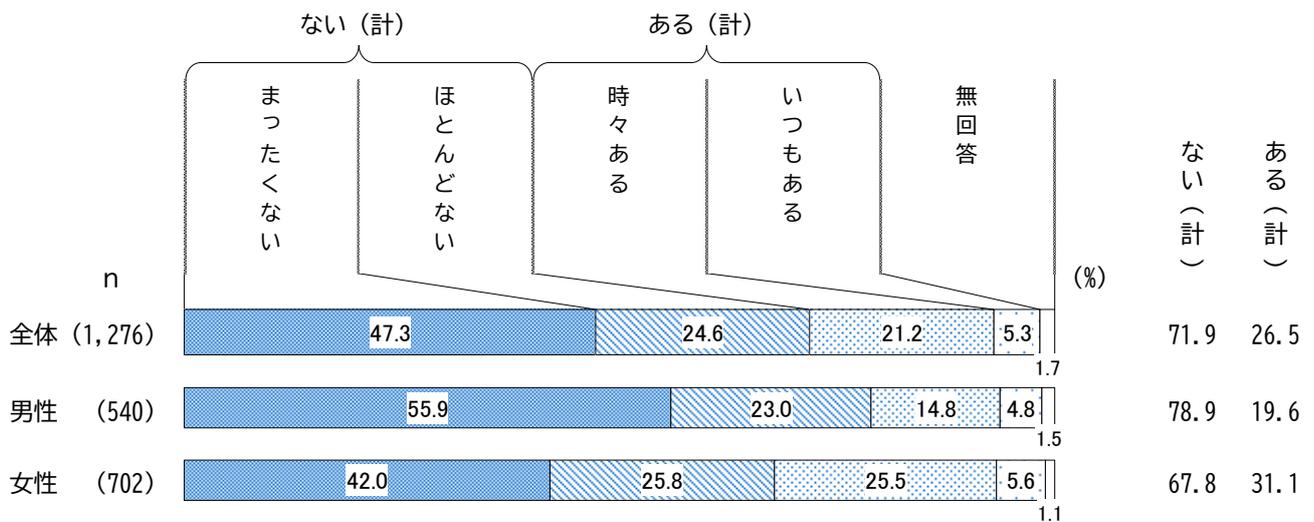
ウ) 自分はひとりぼっちだと感じることもある

自分はひとりぼっちだと感じることもあるかについて、「いつもある」と「時々ある」を合わせた《ある計》は中学生（33.0%）が3割台半ばと特に高くなっています。



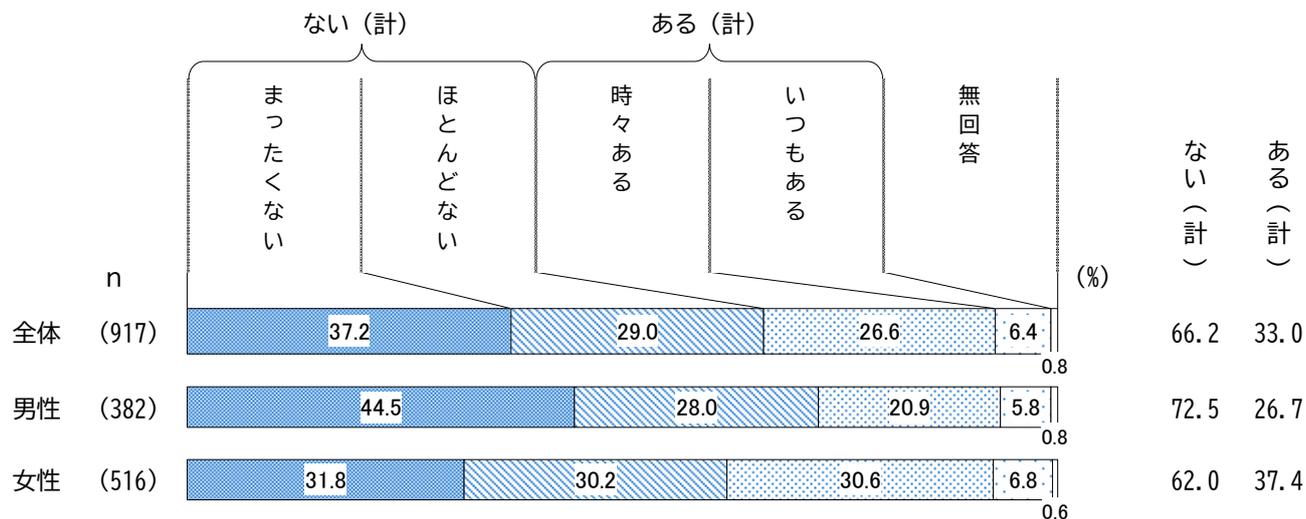
【小学生調査】

自分はひとりぼっちだと感じるかを小学生の性別でみると、《ある計》は女性（31.1%）が男性（19.6%）を11.5ポイント上回っています。「まったくない」は男性（55.9%）が女性（42.0%）を13.9ポイント上回っています。



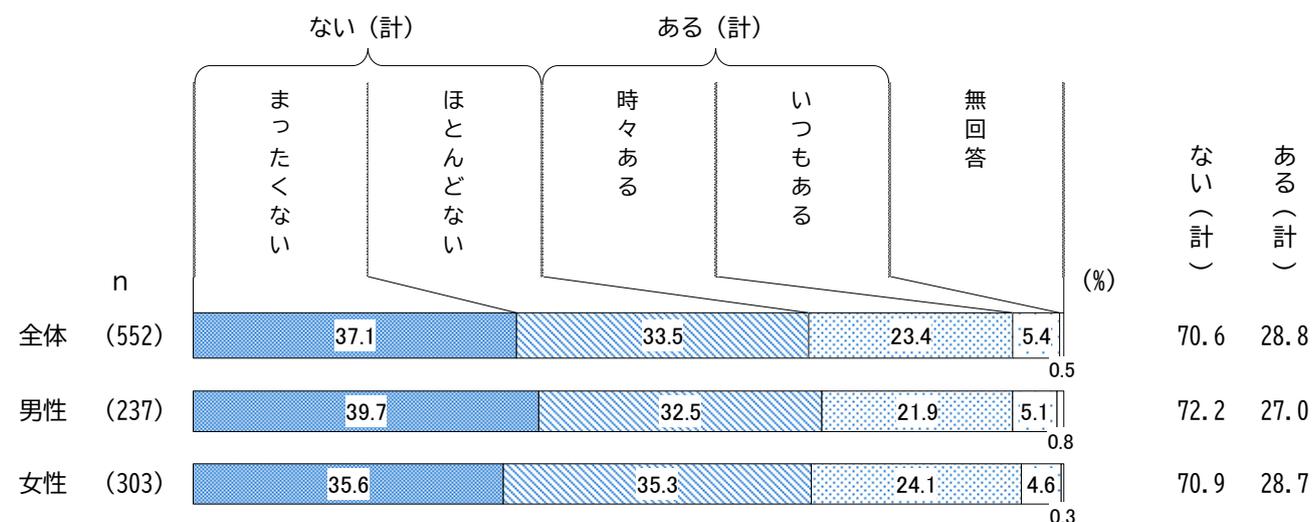
【中学生調査】

自分はひとりぼっちだと感じるかを中学生の性別で見ると、《ある 計》は女性（37.4%）が男性（26.7%）を10.7ポイント上回っています。「まったくない」は男性（44.5%）が女性（31.8%）を12.7ポイント上回っています。



【高校生調査】

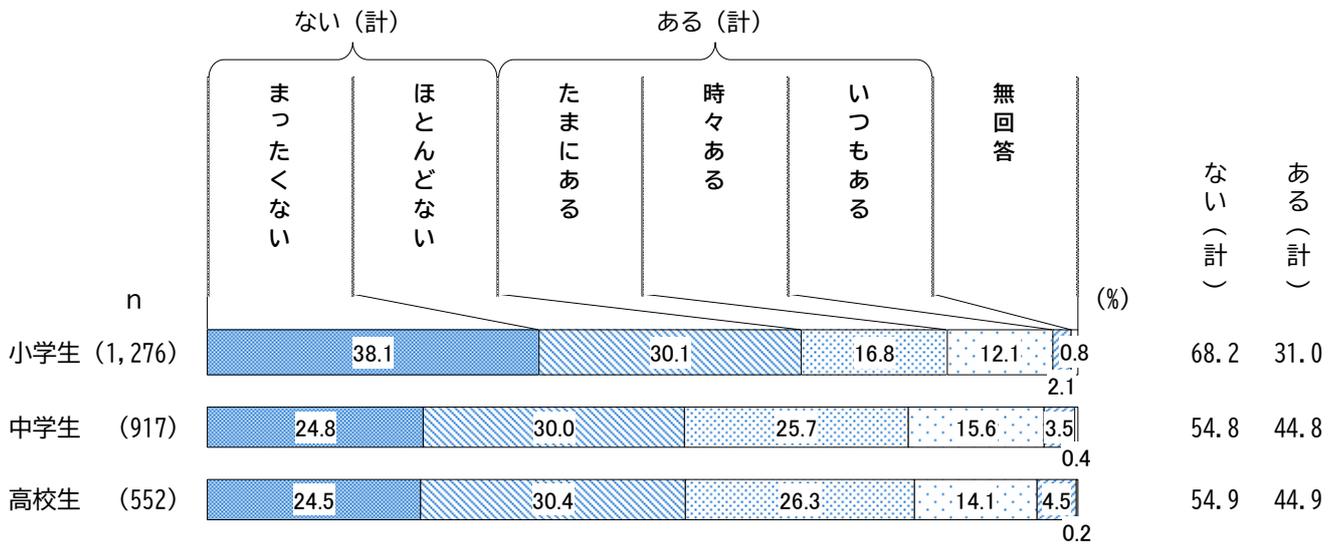
自分はひとりぼっちだと感じるかを高校生の性別で見ると、《ある 計》は男女ともに約3割となっており、大きな違いはみられません。



（2）孤独感（直接質問）

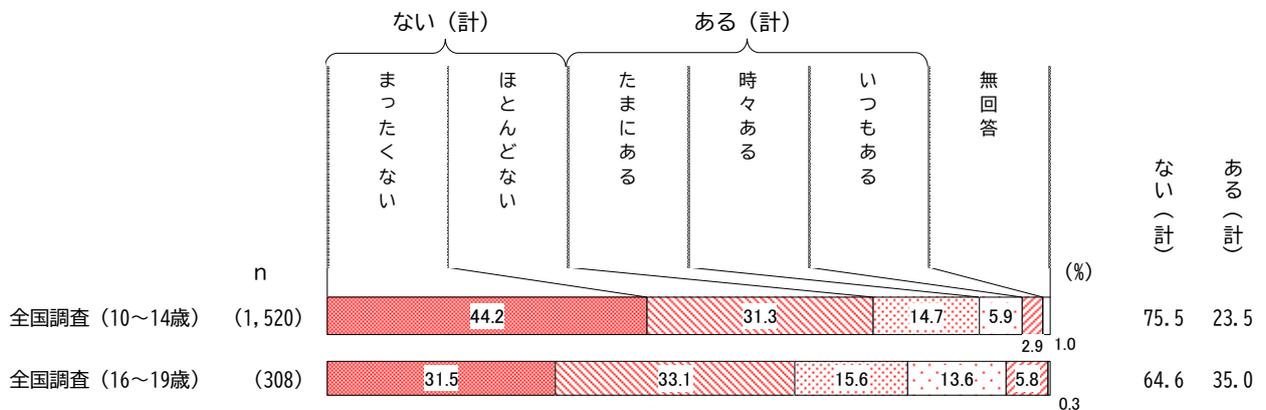
Q：あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。（○は1つ）

孤独であると感じるかについて、「いつもある」、「時々ある」、「たまにある」を合わせた《ある計》は中学生（44.8%）と高校生（44.9%）で4割台半ばと特に高くなっています。



全国調査※との比較

直接質問を全国調査と比較した結果、孤独感が《ある計》は10～14歳では23.5%、16～19歳では35.0%となっており、市調査において調査年齢に近い小学生（31.0%）、中学生（44.8%）、高校生（44.9%）いずれも全国調査を上回り、孤独感が高いことがみてとれます。

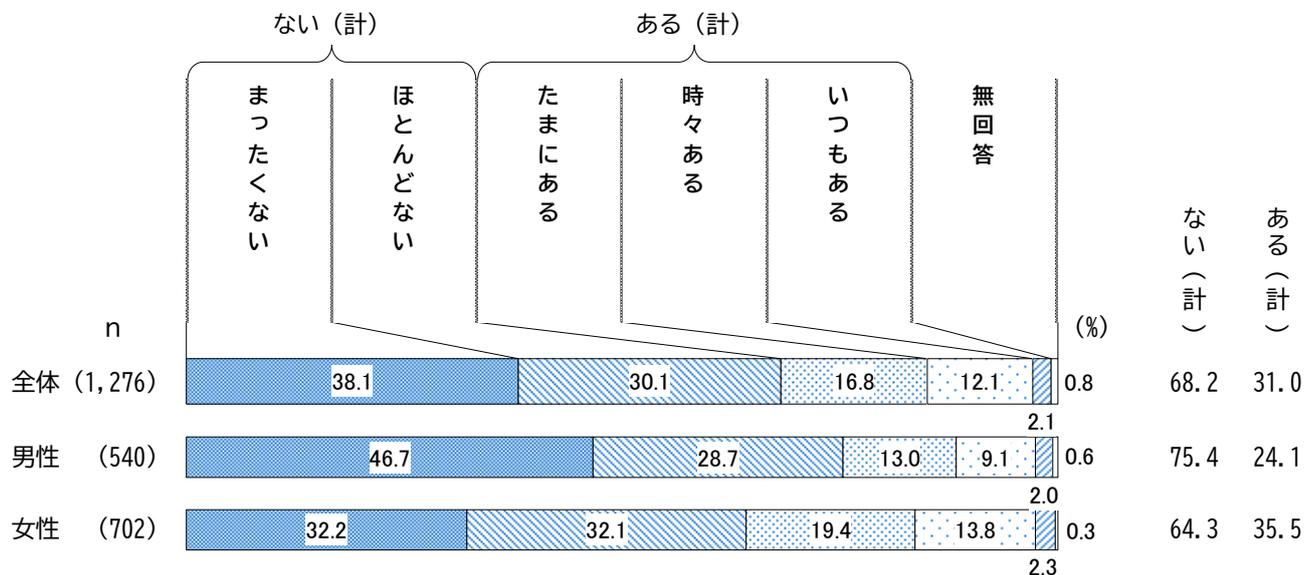


※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

※内閣官房孤独・孤立対策担当室 人々のつながりに関する基礎調査（令和5年度） / 16歳～19歳集計結果

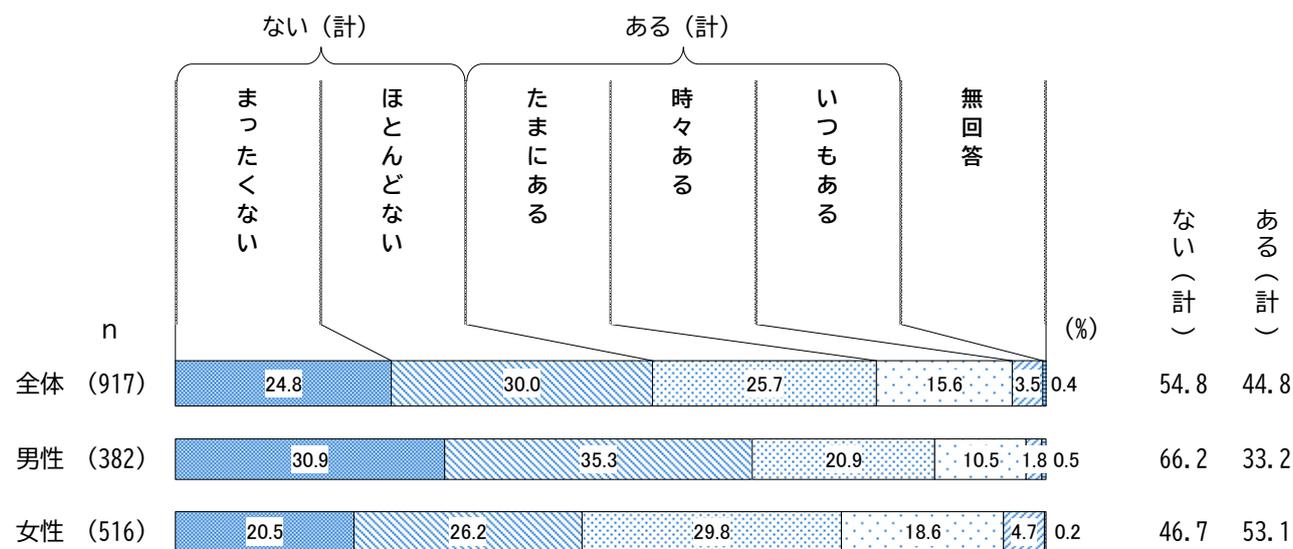
【小学生調査】

孤独であると感じるかを小学生の性別でみると、《ある 計》は女性（35.5%）が男性（24.1%）を11.4ポイント上回っています。



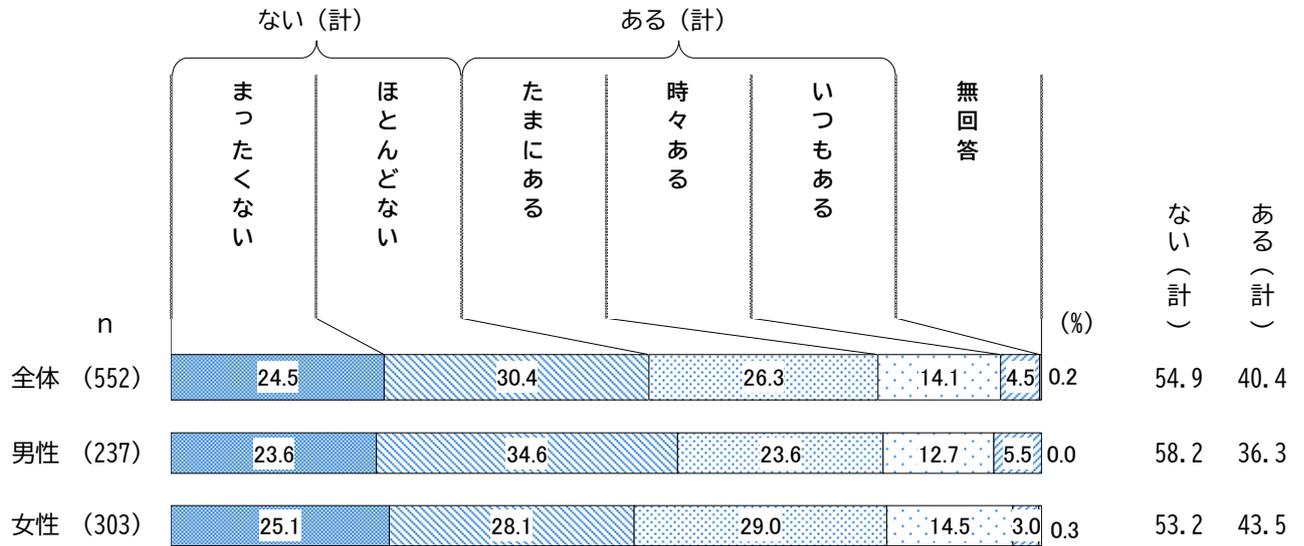
【中学生調査】

孤独であると感じるかを中学生の性別でみると、《ある 計》は女性（53.1%）が男性（33.2%）を19.9ポイント上回っています。



【高校生調査】

孤独であると感じるかを高校生の性別で見ると、《ある 計》は女性（43.5%）が男性（36.3%）を7.2ポイント上回っています。

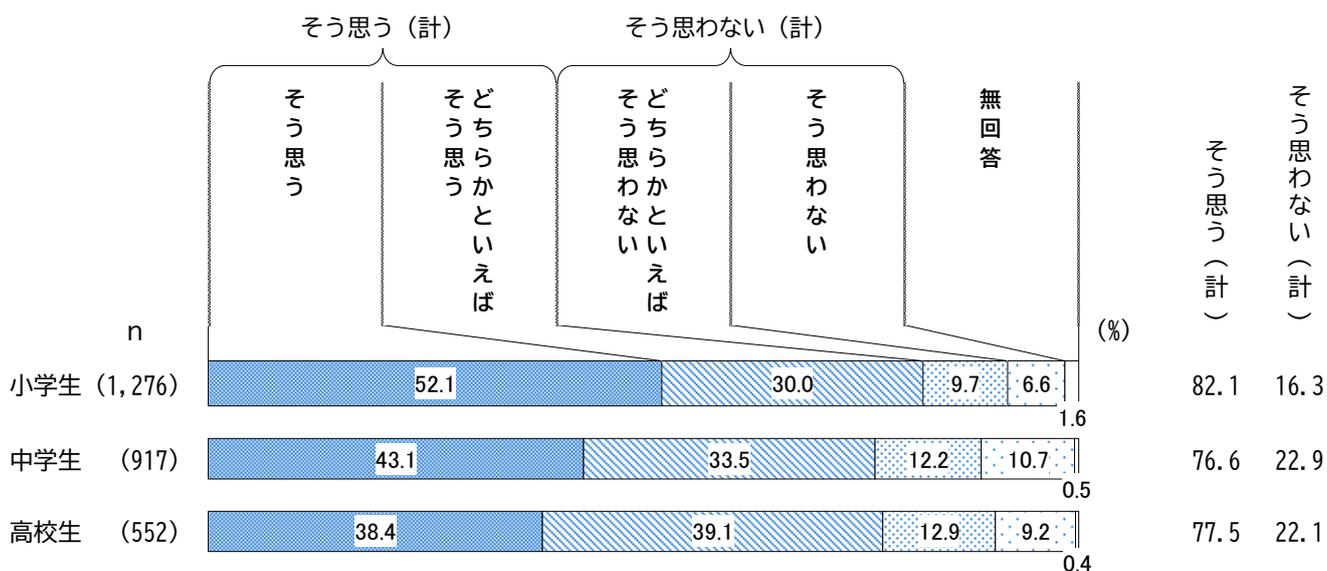


(3) 家族・親族との関わり方

Q：家族・親せきとあなたのかかわりは、どのようなものですか。（○は1つ）

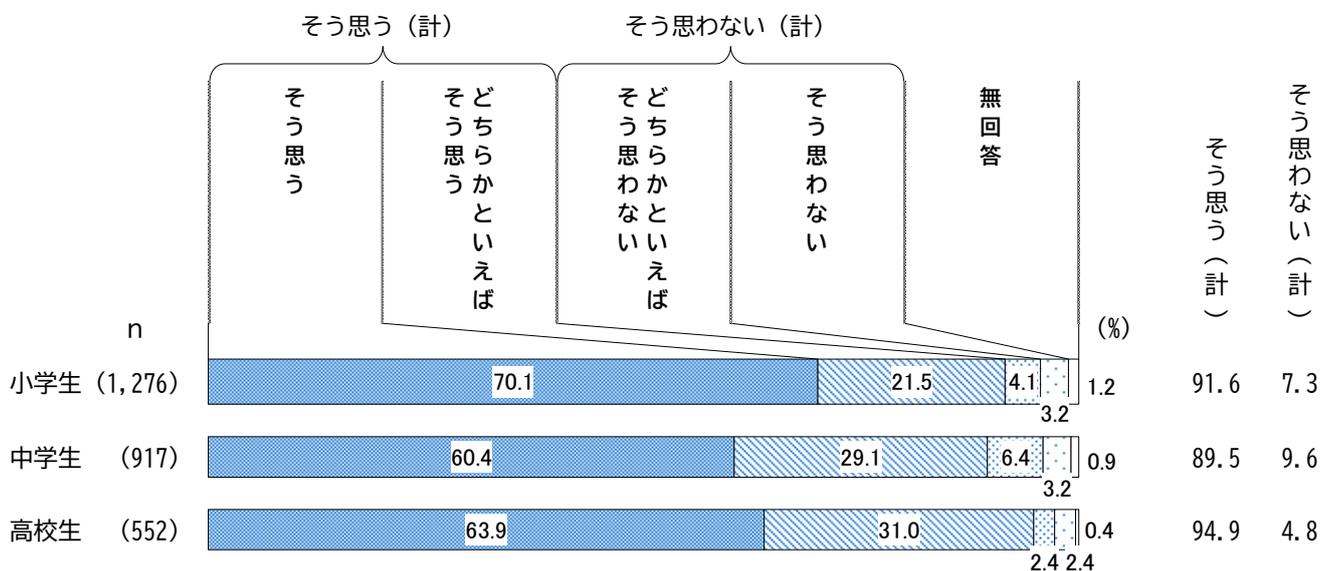
■何でも悩みを相談できる人がいる

家族・親族との関わり方について、何でも悩みを相談できる人がいるかを聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う 計》は小学生（82.1%）が特に高くなっています。



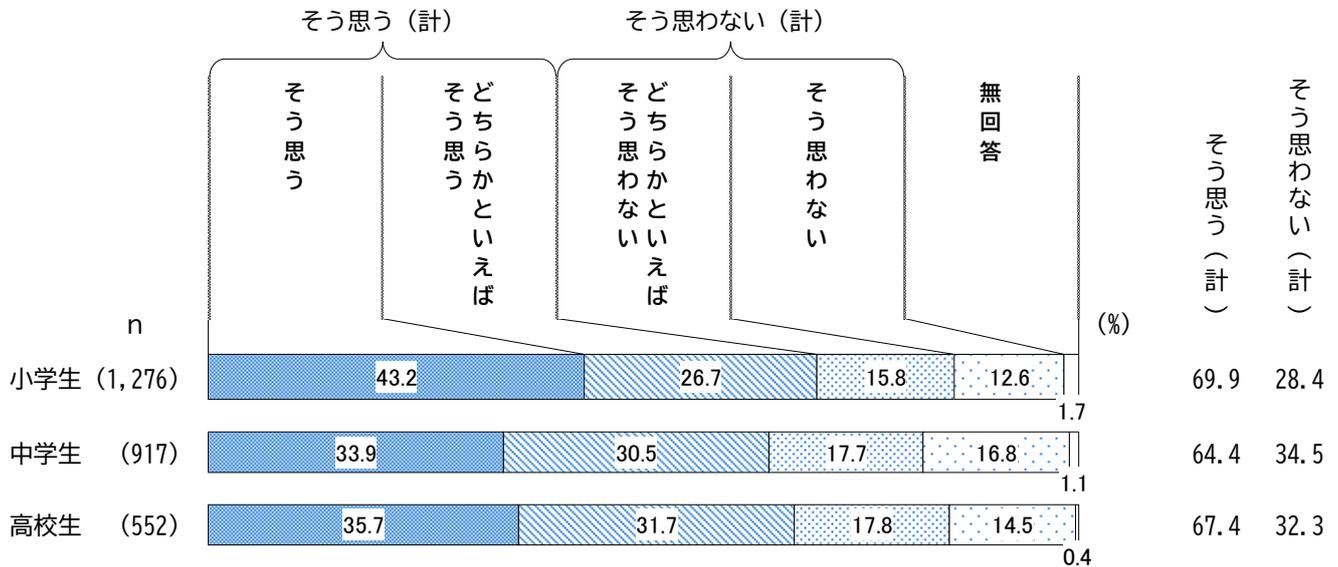
■困ったときは助けてくれる

家族・親族との関わり方について、困ったときは助けてくれるかを聞いたところ、《そう思う 計》は高校生が94.9%と特に高く、小学生、中学生も9割前後となっています。



■他の人には言えない本音を話せることがある

家族・親族との関わり方について、他の人には言えない本音を話せることがあるかを聞いたところ、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも6割台となっています。

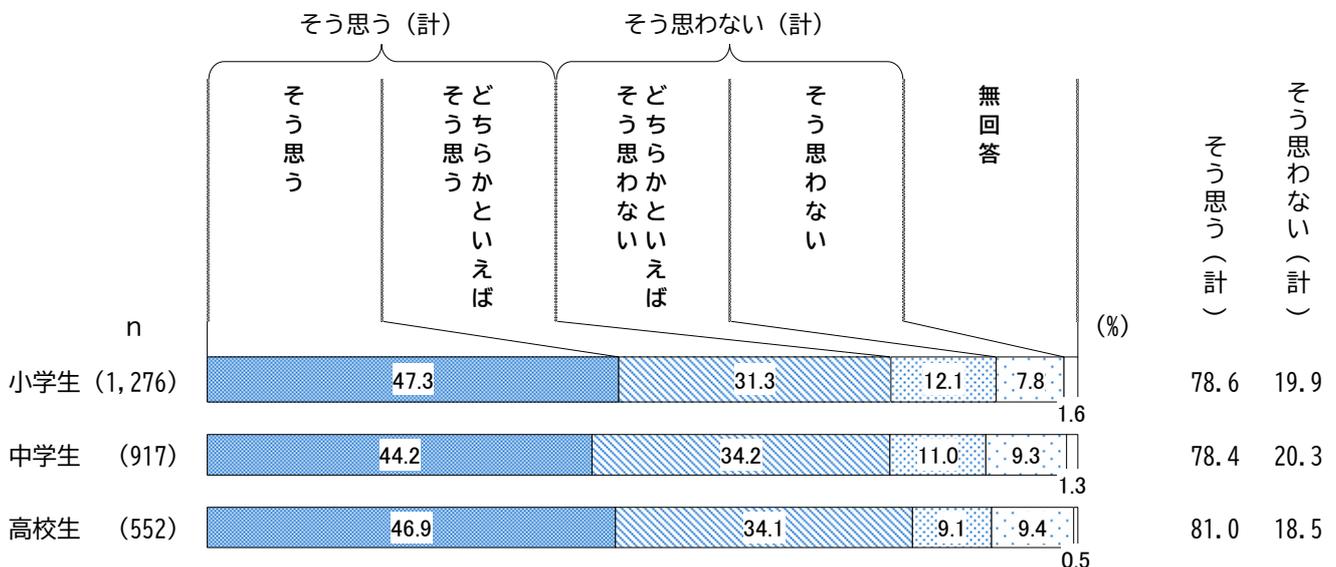


(4) 学校で出会った友人との関わり方

Q：学校で出会った友達（現在通っている学校やこれまでに通っていた学校の友達など）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（○は1つ）

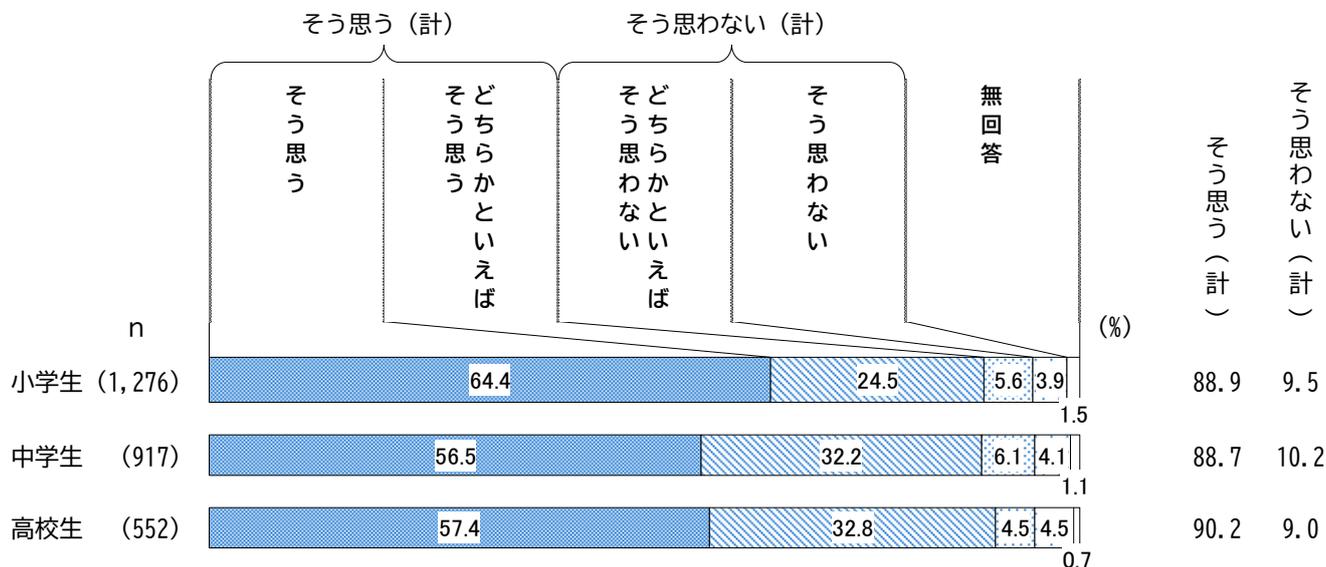
■何でも悩みを相談できる人がいる

学校で出会った友人との関わり方について、何でも悩みを相談できる人がいるかを聞いたところ、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも8割前後となっています。



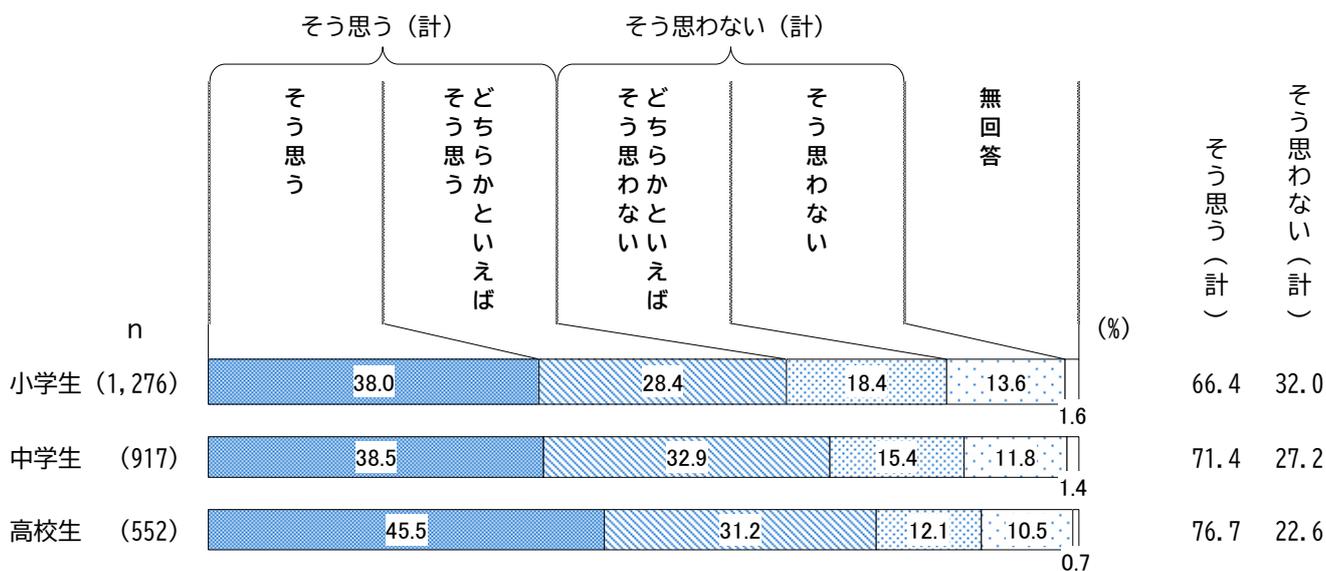
■困ったときは助けてくれる

学校で出会った友人との関わり方について、困ったときは助けてくれるかを聞いたところ、《そう思う 計》は小学生、中学生、高校生のいずれも9割前後となっています。



■他の人には言えない本音を話せることがある

学校で出会った友人との関わり方について、他の人には言えない本音を話せることがあるかを聞いたところ、《そう思う 計》は高校生が76.7%と特に高くなっており、「そう思う」も小学生、中学生と比べて高くなっています。

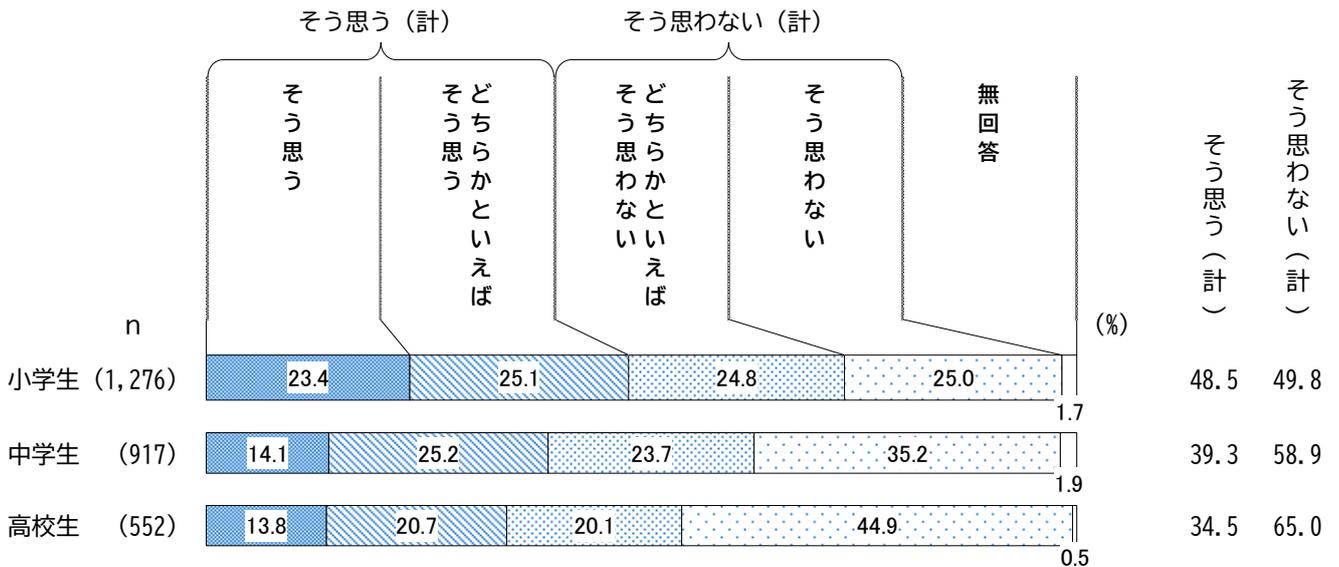


（5）地域の人との関わり方

Q：地域の人（近所の人、塾や習い事での友達など）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（○は1つ）

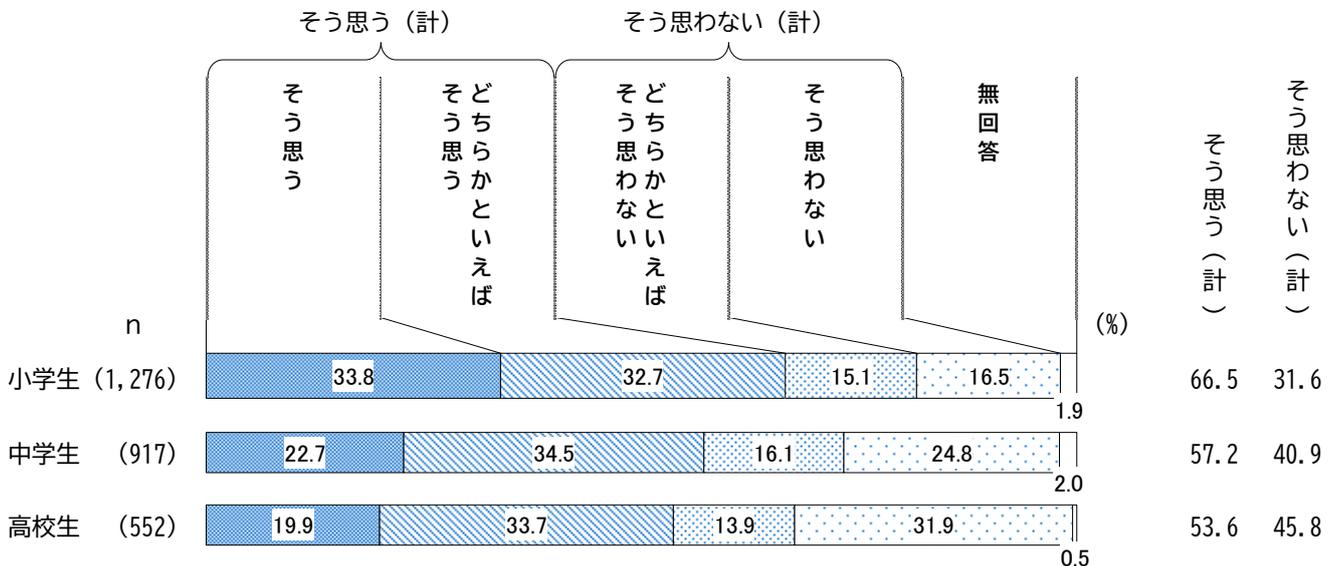
■何でも悩みを相談できる人がいる

地域の人との関わり方について、何でも悩みを相談できる人がいるかを聞いたところ、《そう思わない 計》の割合が、小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて高くなっています。



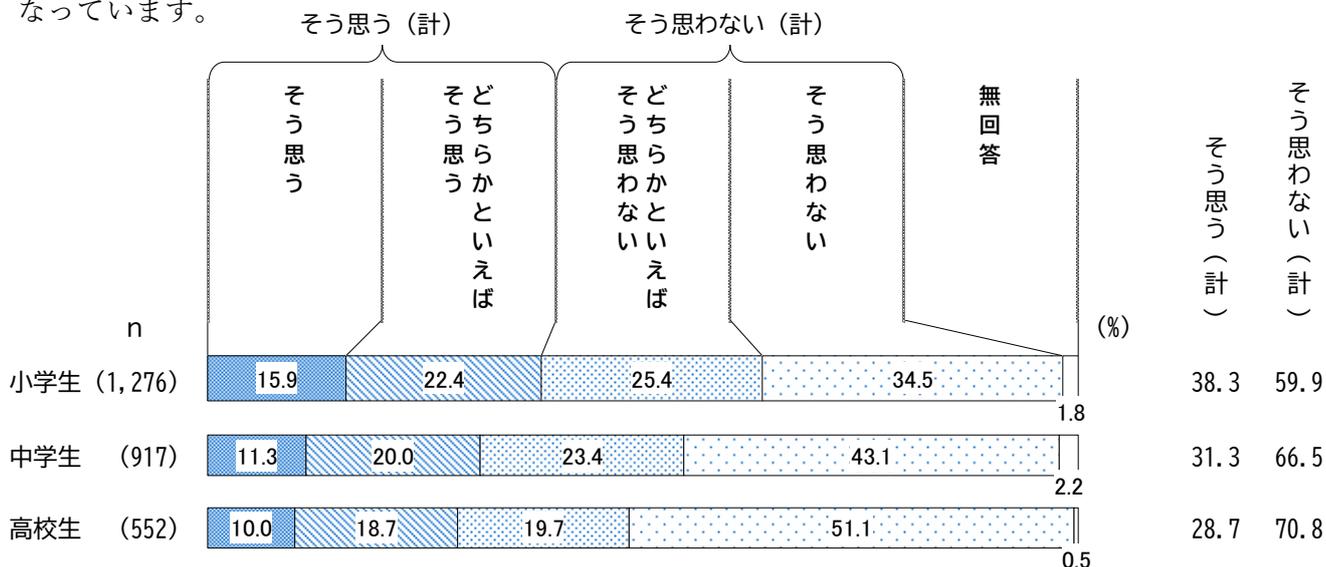
■困ったときは助けてくれる

地域の人との関わり方について、困ったときは助けてくれるかを聞いたところ、《そう思う 計》は小学生（66.5%）が6割台半ばと特に高くなっています。「そう思う」でも、小学生は33.8%と、中学生、高校生と比べて高くなっています。



■他の人には言えない本音を話せることがある

地域の人との関わり方について、他の人には言えない本音を話せることがあるかを聞いたところ、《そう思わない 計》の割合が、小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて高くなっています。

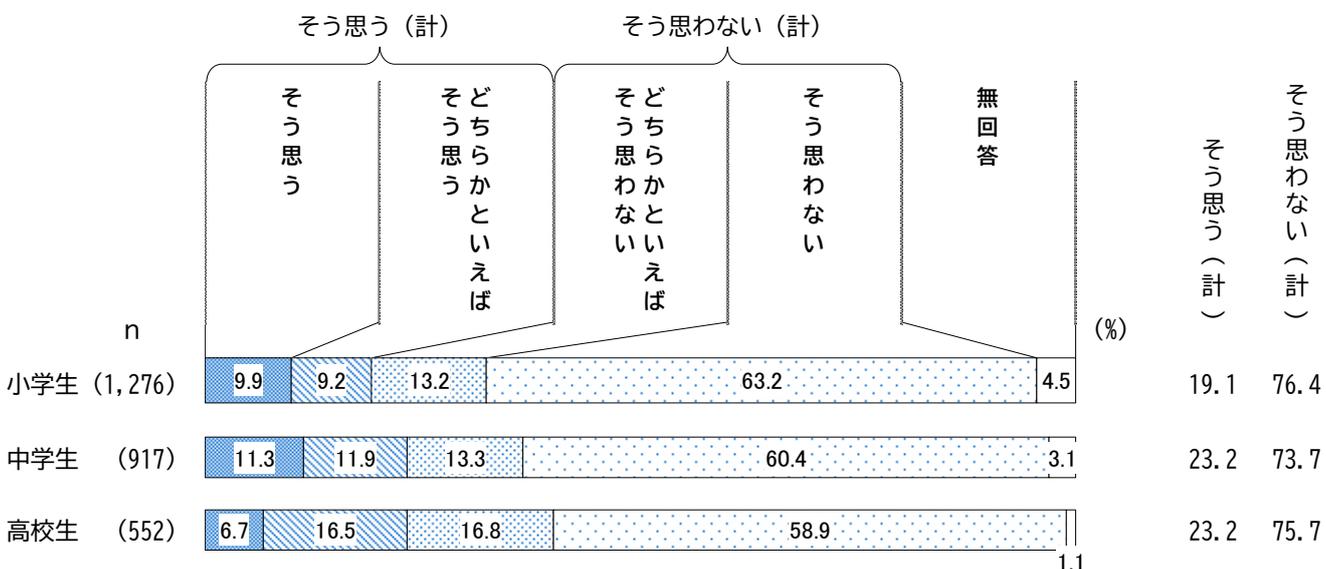


(6) インターネット上での他者との関わり方

Q：インターネット上で出会った人やグループ（基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（○は1つ）

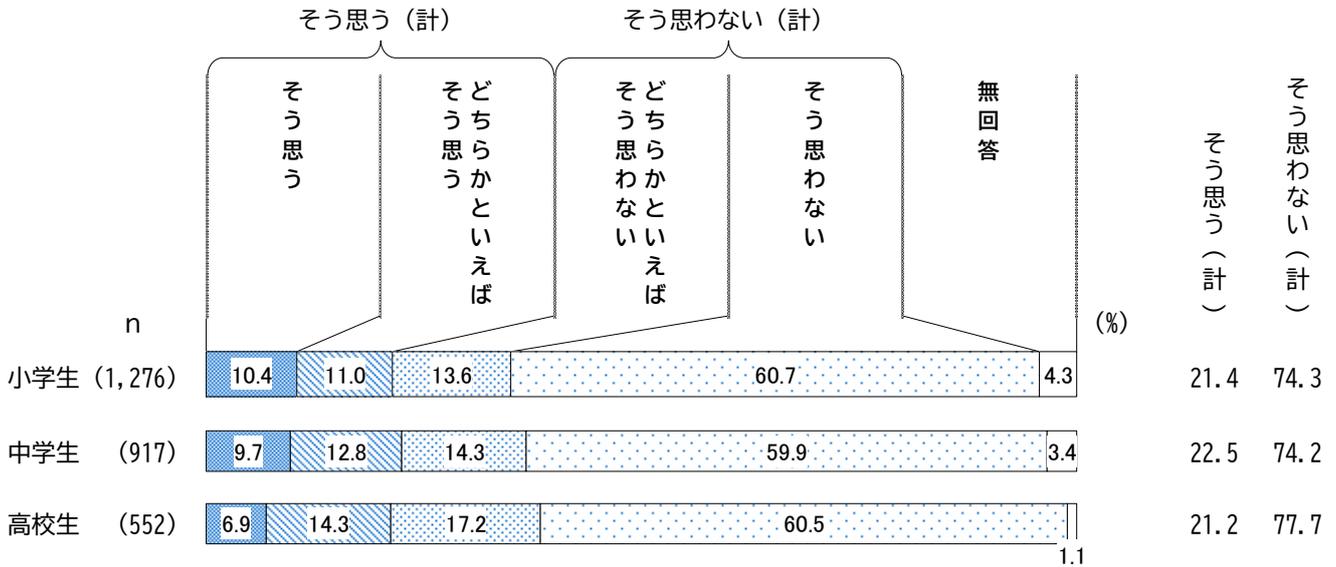
■何でも悩みを相談できる人がいる

インターネット上での他者との関わり方について、何でも悩みを相談できる人がいるかを聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも《そう思わない 計》が7割を超えています。



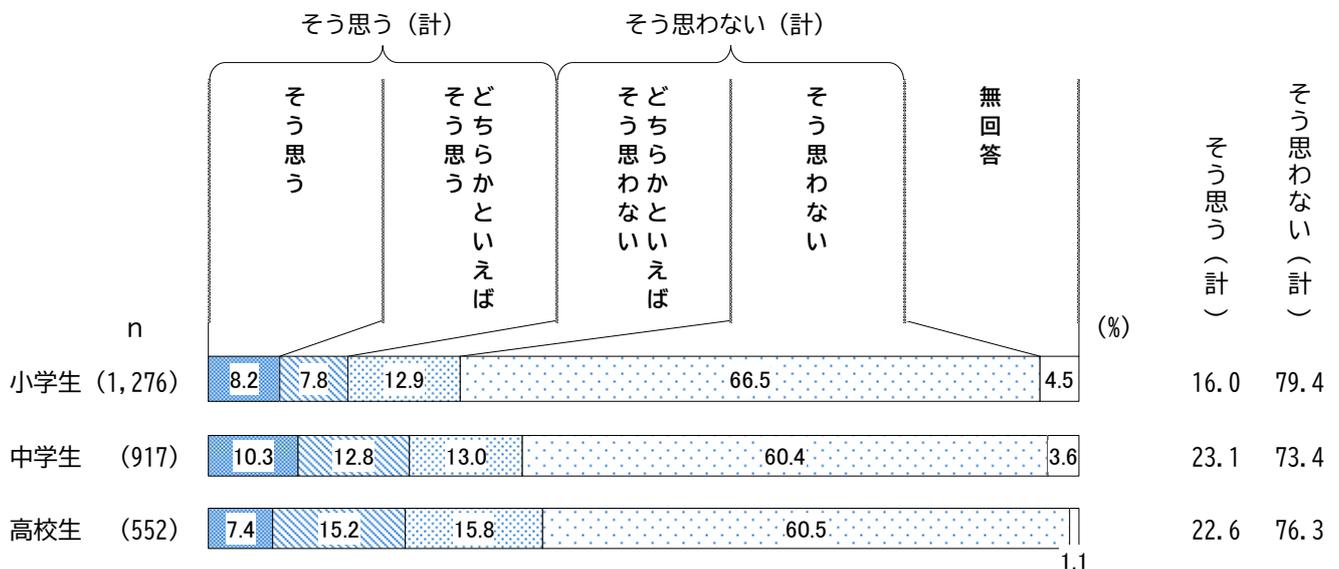
■困ったときは助けてくれる

インターネット上での他者との関わり方について、困ったときは助けてくれるかを聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも《そう思わない 計》が7割台を占めており、特に高校生（77.7%）が高くなっています。



■他の人には言えない本音を話せることがある

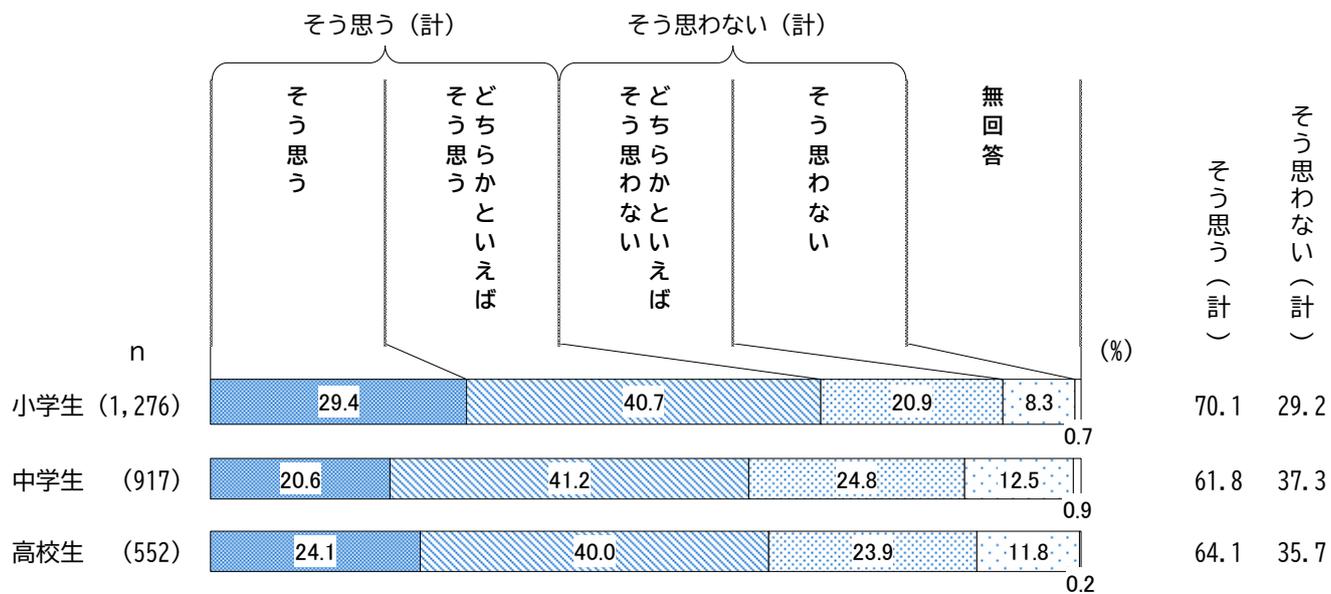
インターネット上での他者との関わり方について、他の人には言えない本音を話せることがあるかを聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも《そう思わない 計》が7割台を占めており、特に小学生（79.4%）が高くなっています。



(7) 他者との付き合い方

Q：あなたは、誰とでもすぐに仲良くなれる方ですか。（○は1つ）

誰とでもすぐ仲良くなれるかについて、《そう思う 計》は小学生（70.1%）が特に高くなっています。

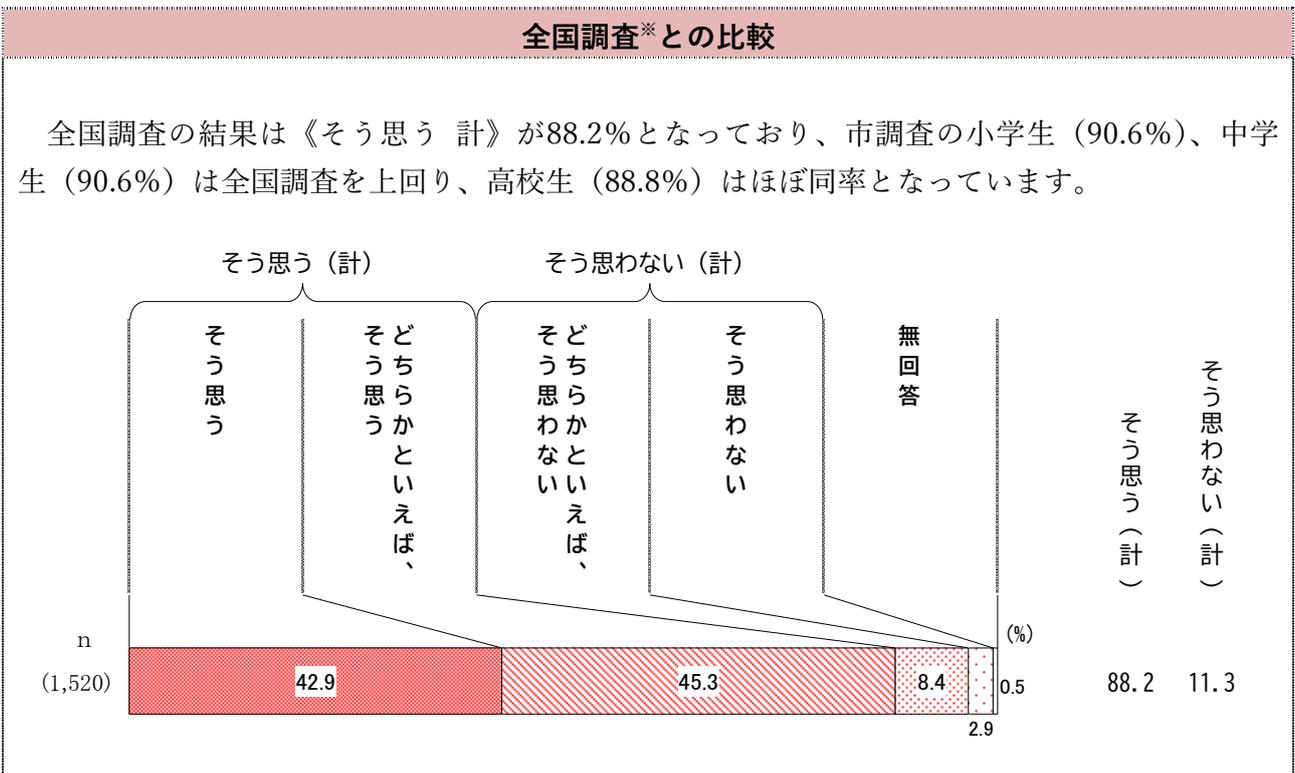
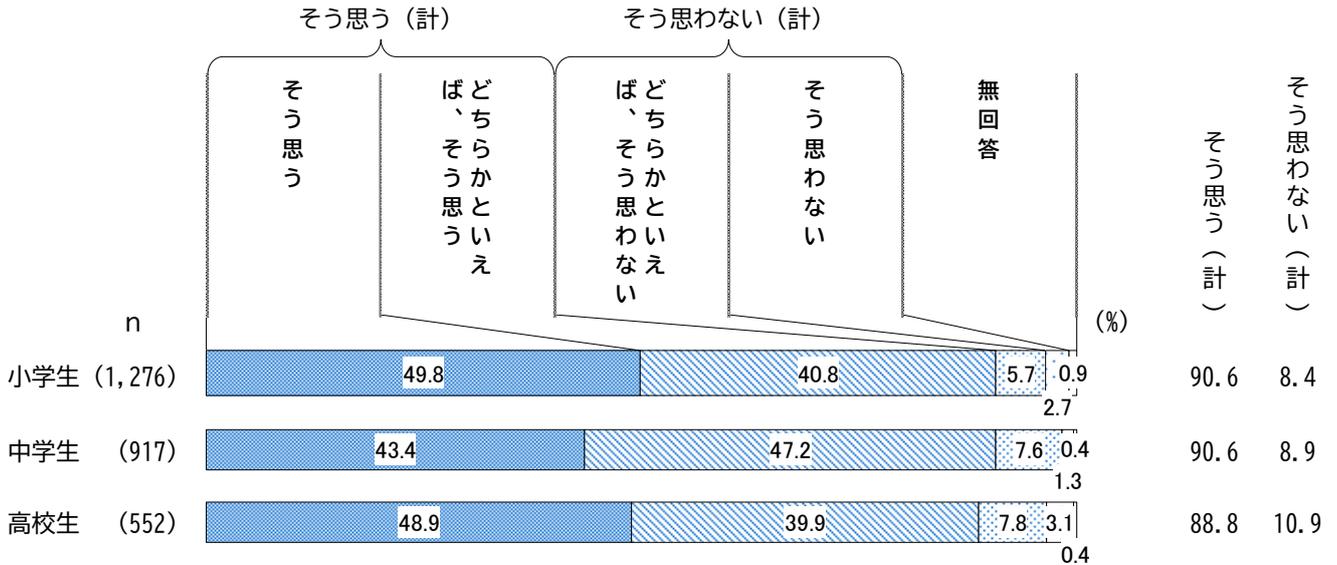


## 7 社会参加について

### (1) 社会貢献への意欲

Q：あなたは、「社会のために役立つことをしたい」と思いますか。（○は1つ）

社会貢献への意欲について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う 計》は、小学生、中学生、高校生のいずれも約9割を占めています。



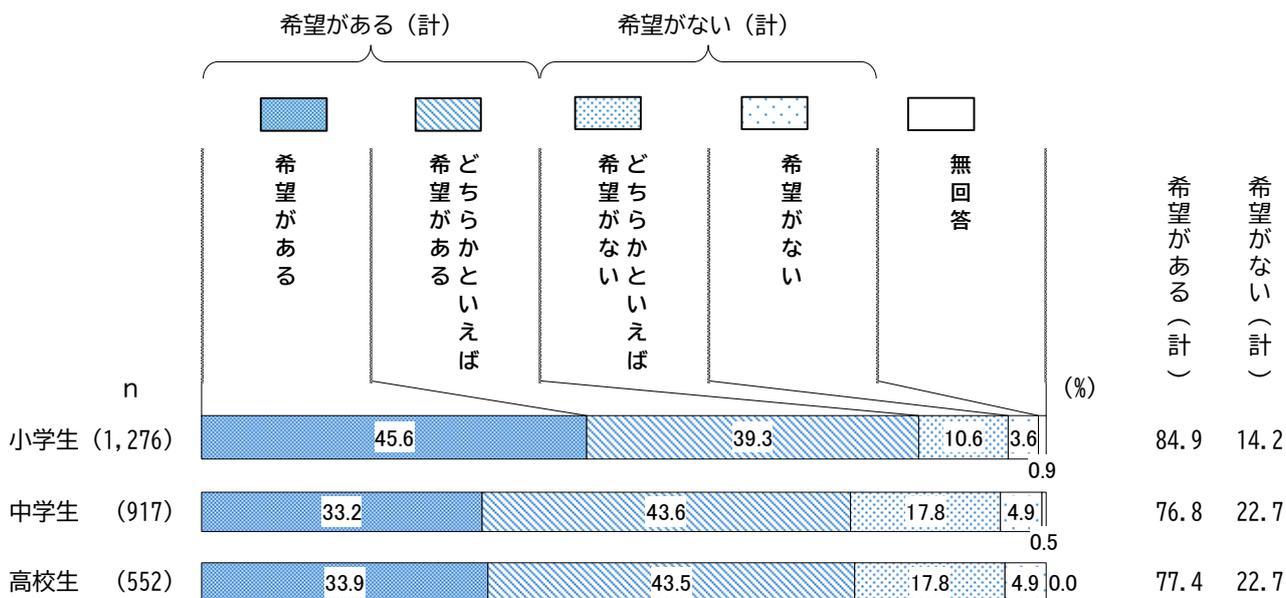
※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

## 8 将来像について

### (1) 将来への希望

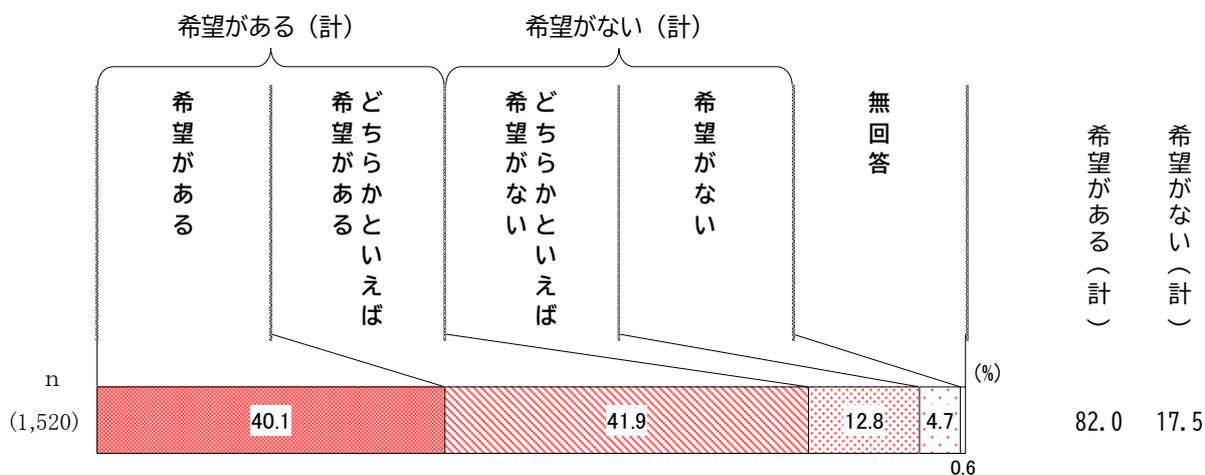
Q：あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。（○は1つ）

将来への希望について、「希望がある」と「どちらかといえば希望がある」を合わせた《希望がある 計》は小学生が84.9%と特に高くなっています。



### 全国調査※との比較

全国調査の結果は《希望がある 計》が82.0%となっており、市調査の小学生（84.9%）は全国調査を上回っています。一方、中学生（76.8%）、高校生（77.4%）は全国調査を下回っています。



※内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度） / 10歳～14歳対象調査

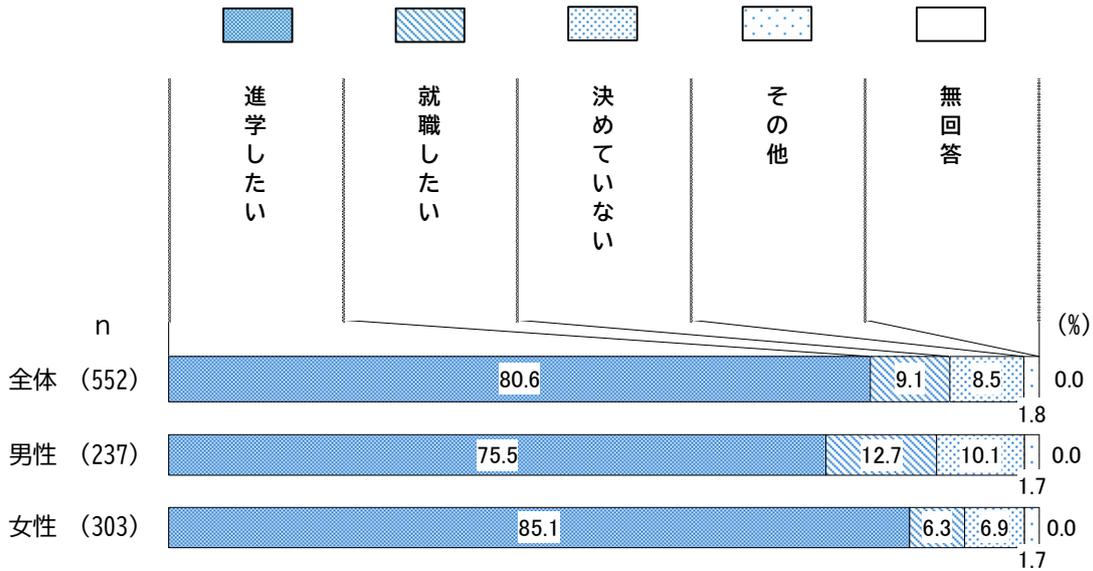
（2）高校卒業後の進路【高校生調査】

Q：あなたは、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。（○は1つ）

高校卒業後の進路について、全体では「進学したい」が80.6%を占めています。

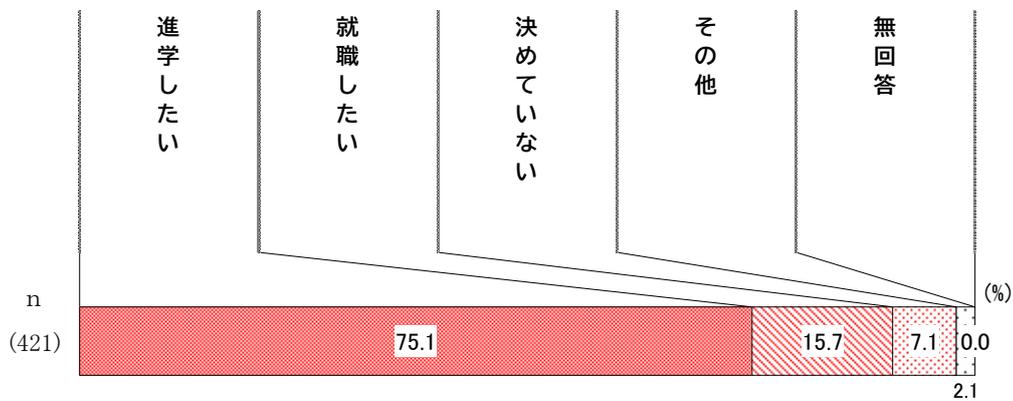
性別にみると、「進学したい」は女性（85.1%）が男性（75.5%）を9.6ポイント上回っています。

「就職したい」は男性（12.7%）が女性（6.3%）を6.4ポイント上回っています。



県調査\*との比較

県調査の結果は「進学したい」が75.1%となっており、市調査の高校生（80.6%）の結果は県調査を上回っています。



\*群馬県 第8回ぐんま青少年基本調査（令和5年度）

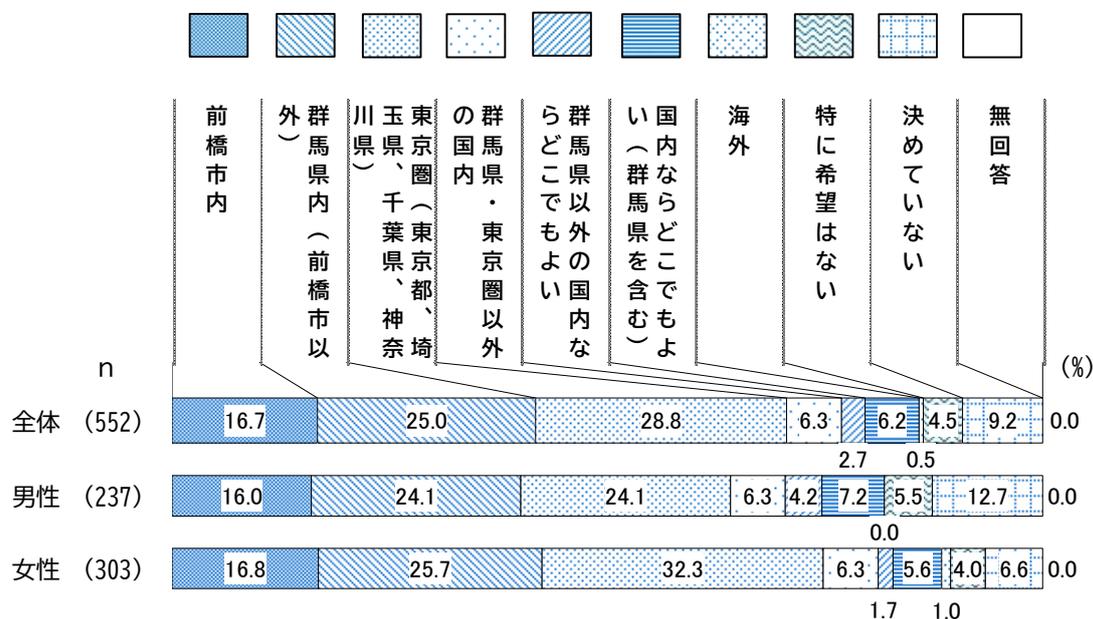
（3）高校卒業後に進路や就職などを考えている地域【高校生調査】

Q：あなたが高校卒業後、進学や就職などを考えている地域はどこですか。（○は1つ）

高校卒業後に進路や就職などを考えている地域について、全体では「東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）」が28.8%と最も高く、「群馬県内（前橋市以外）」（25.0%）、「前橋市内」（16.7%）と続いています。

性別にみると、「前橋市内」と「群馬県内（前橋市以外）」は男女ともに同様の傾向がみられます。「東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）」は女性（32.3%）が男性（24.1%）を8.2ポイント上回っています。

また、「決めていない」は男性で1割を超えています。



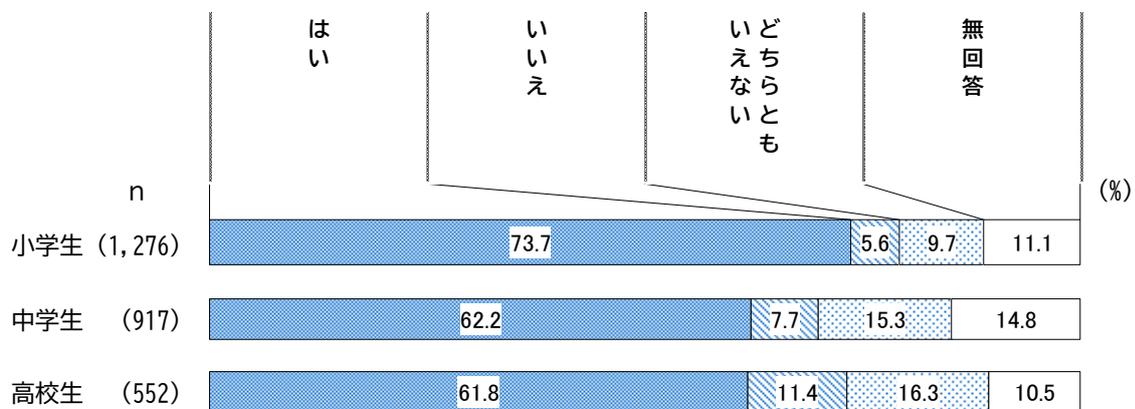
## 9 家庭生活・学校教育について

### (1) 父親との関係

Q：あなたのお父さんについてお聞きします。（現在、お父さんと一緒に住んでいない人は答えなくてよいです。）（○は1つ）

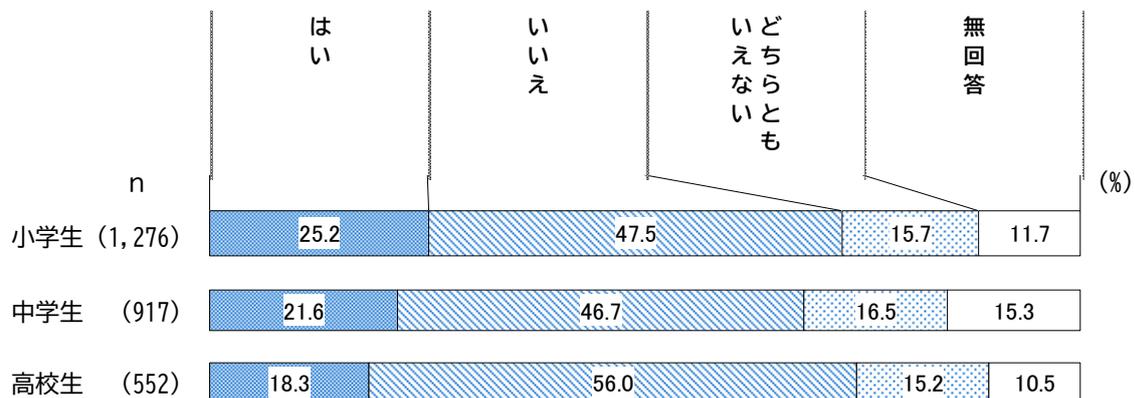
#### ■あなたとよく話をする

父親とよく話をするかについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に小学生では7割台半ばを占めています。



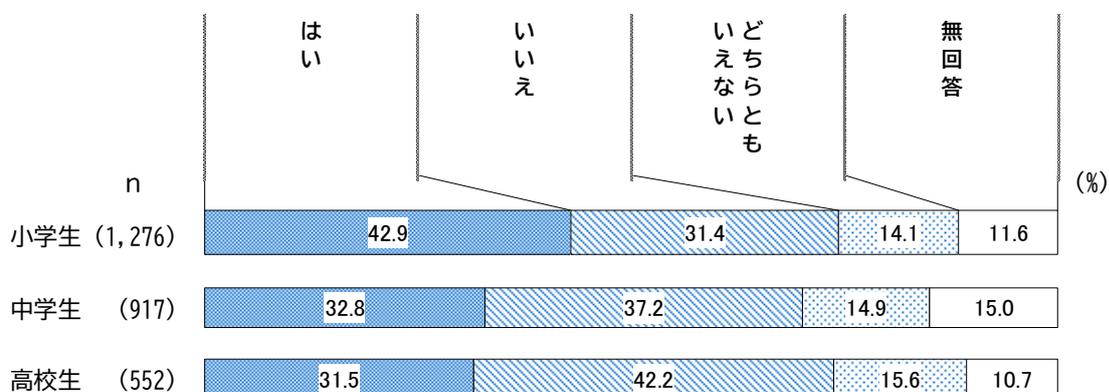
#### ■あいさつやことばづかいについて、うるさく言う

父親からあいさつや言葉づかいに関するしつけについてうるさく言われるかを聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも「いいえ」が高く、特に高校生では5割台半ばとなっています。



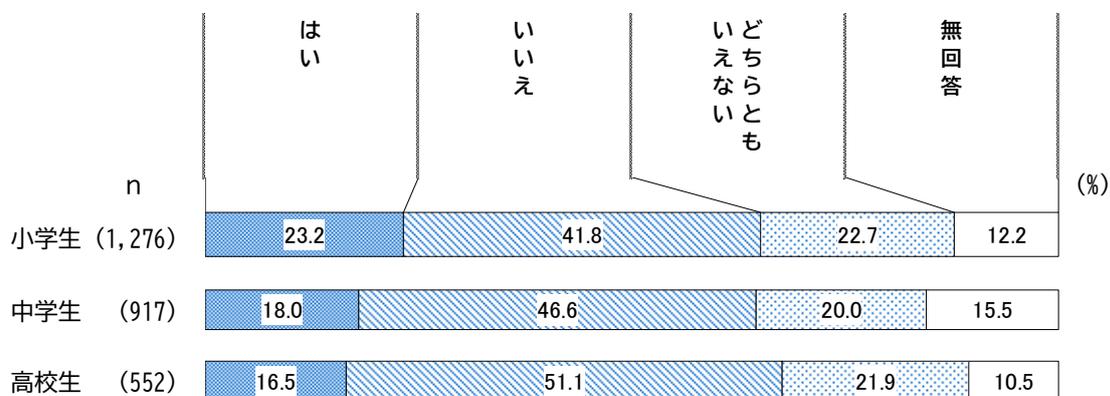
■ 「人に迷惑をかけないように」とよく言う

父親から「人に迷惑をかけないように」とよく言われるかについて、小学生は「はい」（42.9%）が高く、中学生と高校生は「いいえ」（中学生37.2%、高校生42.2%）が高くなっています。



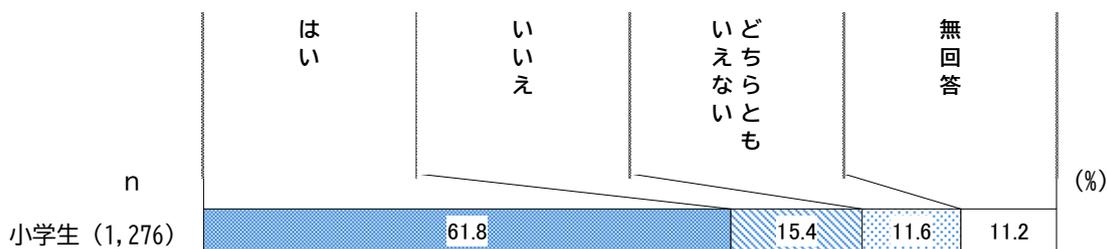
■ 「お年寄りやからだの不自由な人をいたわるように」とよく言う

父親から「お年寄りやからだの不自由な人をいたわるように」とよく言われるかについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「いいえ」が高く、特に高校生では5割を超えています。



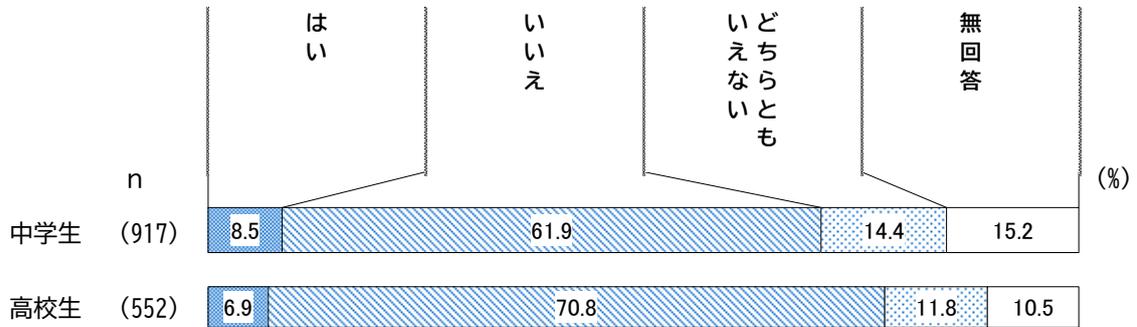
■ おこるとこわい 【小学生調査】

父親はおこるとこわいかを聞いたところ、「はい」が61.8%と高くなっています。



■服装や頭髪などについてうるさく言う【中学生・高校生調査】

父親から服装や頭髪などについてうるさく言われるかを聞いたところ、中学生、高校生のいずれも「いいえ」が高く、特に高校生では7割となっています。

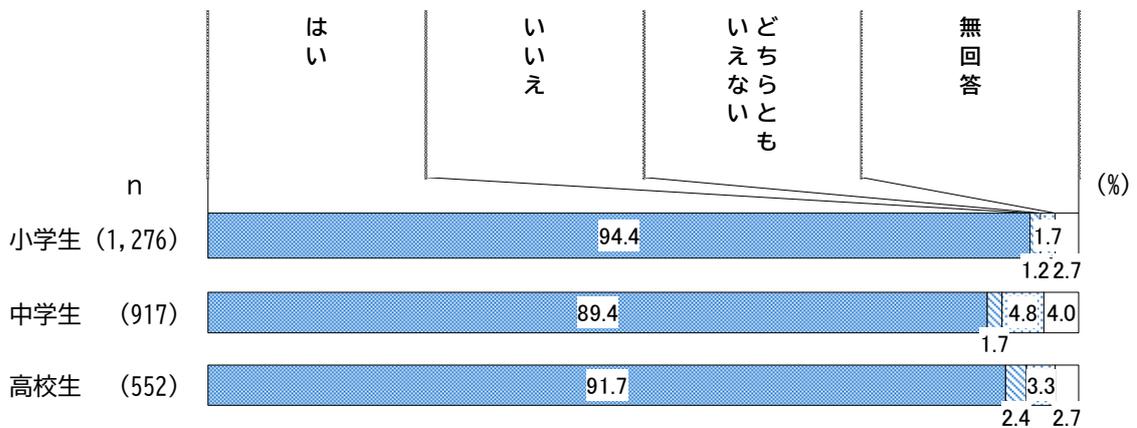


(2) 母親との関係

Q：あなたのお母さんについてお聞きします。（現在、お母さんと一緒に住んでいない人は答えなくてよいです。）（○は1つ）

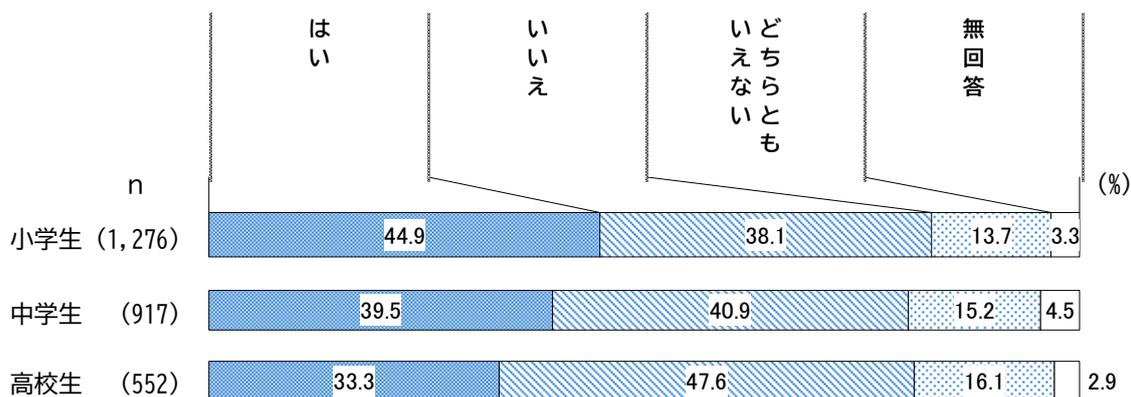
■あなたとよく話をする

母親とよく話をするかについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に小学生では9割台半ばを占めています。



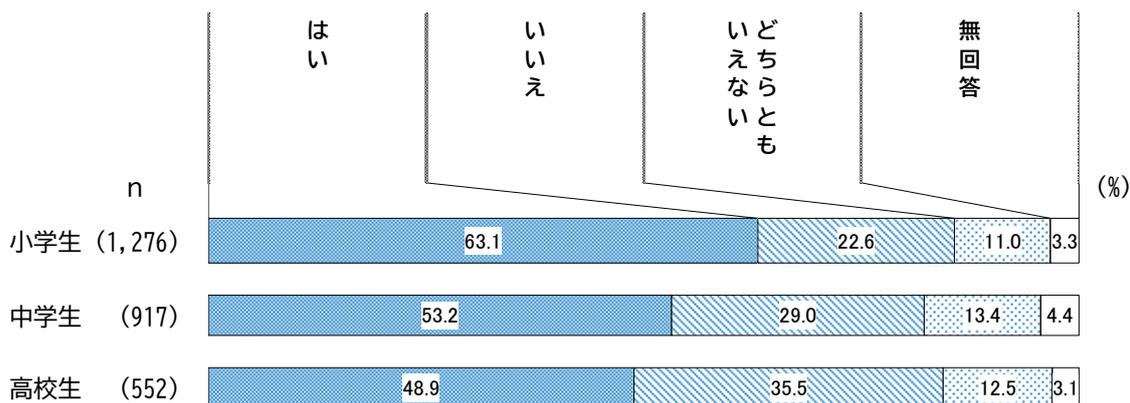
■あいさつやことばづかいについて、うるさく言う

母親からあいさつや言葉づかいに関するしつけについてうるさく言われるかを聞いたところ、小学生は「はい」（44.9%）が高く、中学生は「はい」と「いいえ」が4割前後とほぼ同率、高校生は「いいえ」（47.6%）が高くなっています。



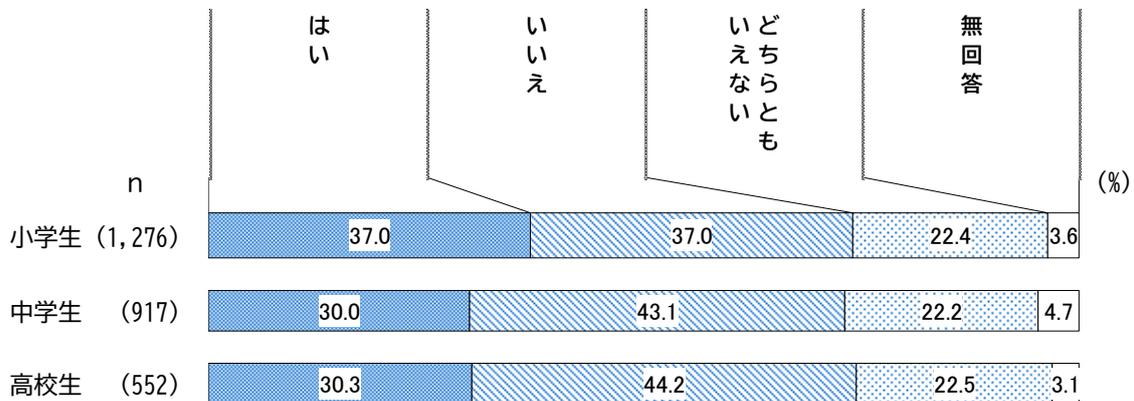
■「人に迷惑をかけないように」とよく言う

母親から「人に迷惑をかけないように」とよく言われるかについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に小学生では6割台半ばを占めています。



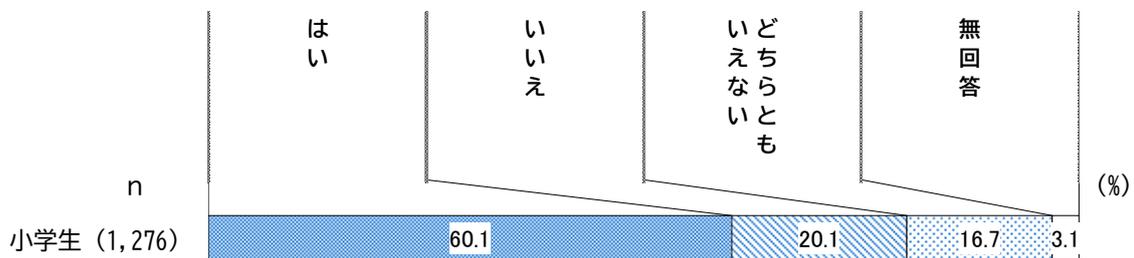
■「お年寄りやからだの不自由な人をいたわるように」とよく言う

母親から「お年寄りやからだの不自由な人をいたわるように」とよく言われるかについて、小学生は「はい」と「いいえ」が37.0%と同率、中学生と高校生は「いいえ」（中学生43.1%、高校生44.2%）が高くなっています。



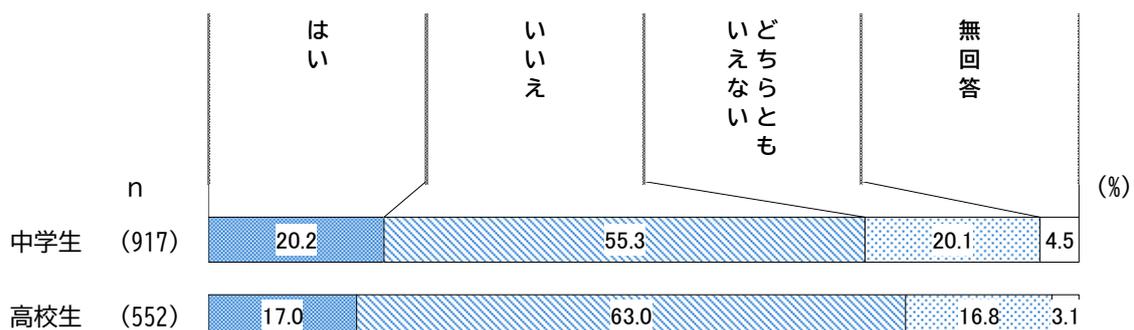
■おこるとこわい【小学生調査】

母親はおこるとこわいかを聞いたところ、「はい」が60.1%と高くなっています。



■服装や頭髪などについてうるさく言う【中学生・高校生調査】

母親から服装や頭髪などについてうるさく言われるかを聞いたところ、中学生、高校生のいずれも「いいえ」が高く、特に高校生では6割台半ばとなっています。



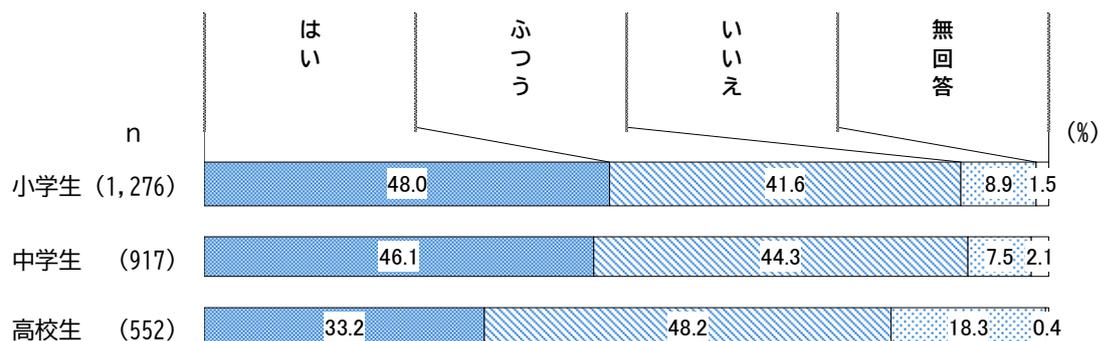
## 10 学校生活について

### (1) クラスや学校の様子

Q：あなたのクラスや学校はどちらにあてはまりますか。（○は1つ）

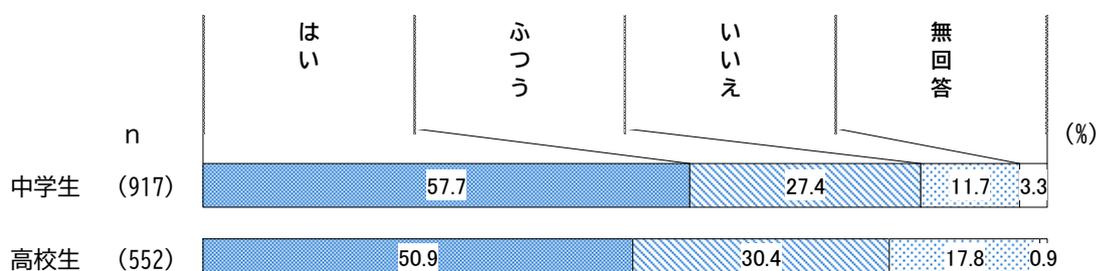
#### ■授業がおもしろい

授業がおもしろいかについて、小学生と中学生は「はい」（小学生48.0%、中学生46.1%）が高く、高校生は「いいえ」（48.2%）が高くなっています。



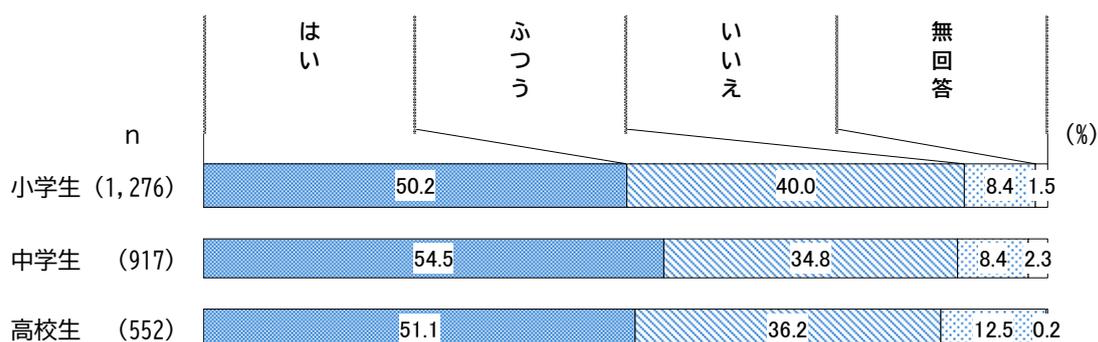
#### ■クラブや部活が楽しい【中学生・高校生調査】

クラブ活動や部活動が楽しいかについて、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に中学生では約6割となっています。



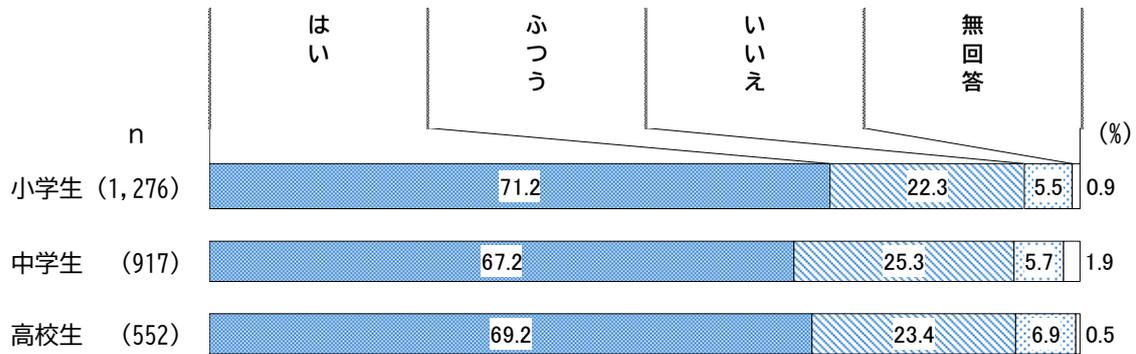
#### ■楽しい学校行事が多い

楽しい学校行事が多いかについて聞いたところ、小学生、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に中学生では5割台半ばとなっています。



■ いい友達や先輩・後輩にめぐまれている

いい友達や先輩にめぐまれているかについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「はい」が高く、特に小学生では7割を超えています。

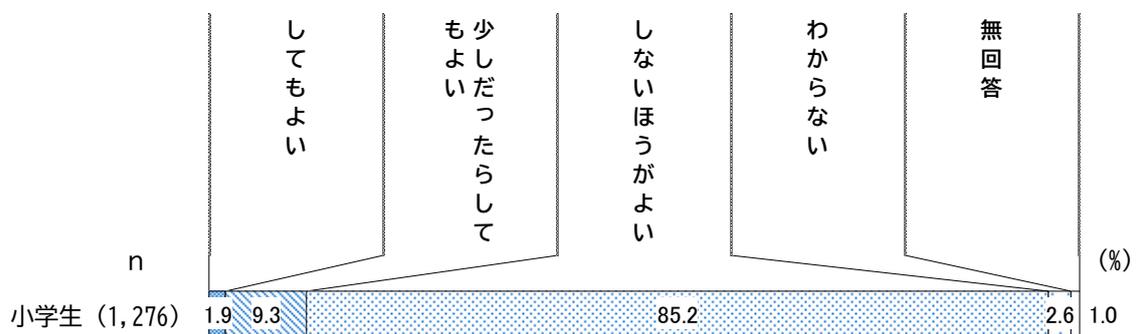


(2) 規範意識

Q：小学生・中学生・高校生が次のようなことをすることについて、あなたはどのように思いますか。  
(○は1つ)

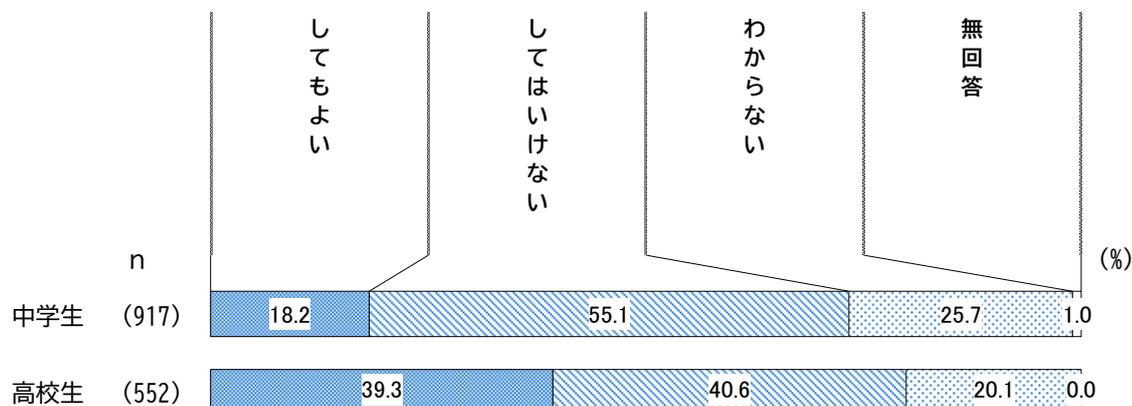
■ 係や当番の仕事をさぼる【小学生調査】

「係や当番の仕事をさぼる」ことについて、「しないほうがよい」が85.2%を占めています。



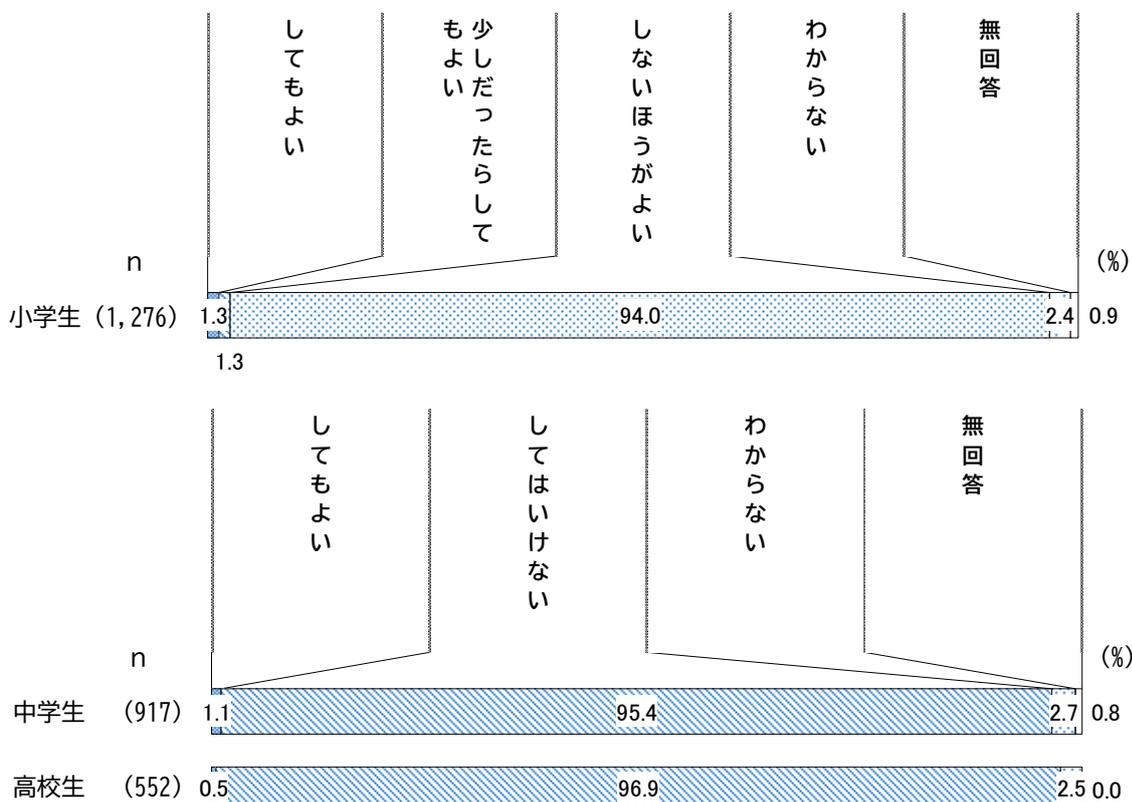
■学校をさぼる【中学生・高校生調査】

「学校をさぼる」ことについて、中学生は「してはいけない」が高く、高校生は「してもよい」と「してはいけない」が約4割とほぼ同率となっています。



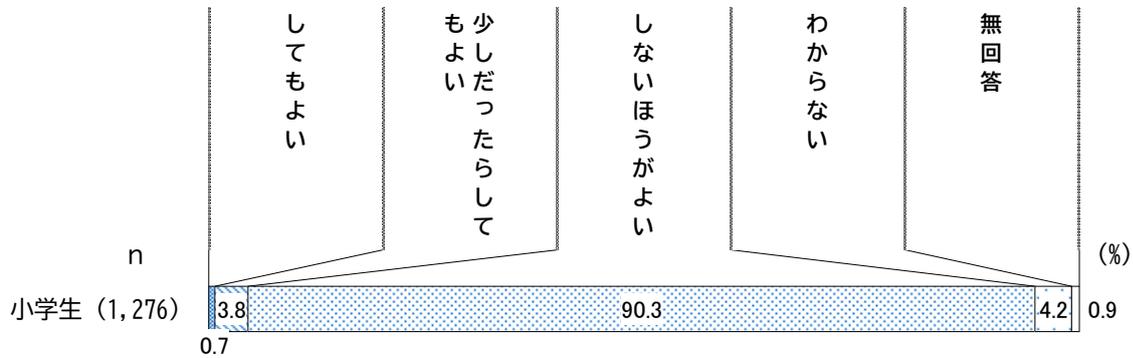
■空き缶やゴミを投げ捨てる

「空き缶やゴミを投げ捨てる」ことについて、小学生、中学生、高校生のいずれも「しないほうがよい」が高く、ほぼ全数を占めています。



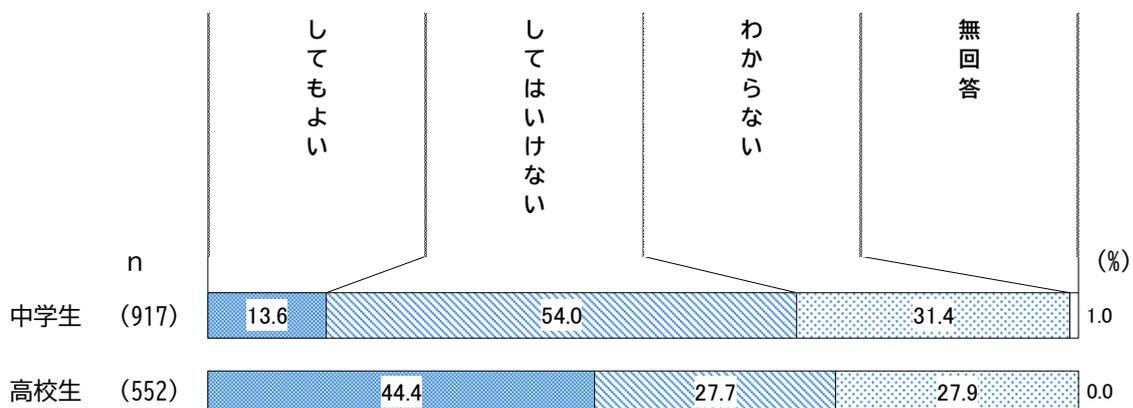
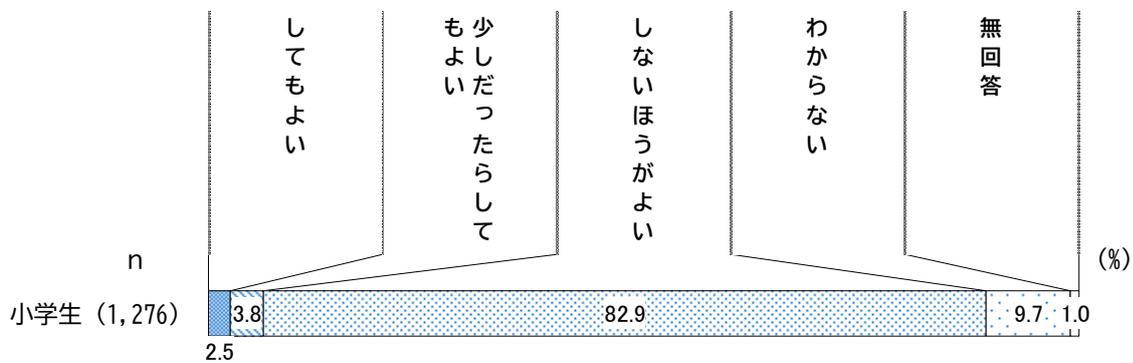
■友だちを無視する【小学生調査】

「友だちを無視する」ことについて「しないほうがよい」が90.3%を占めています。



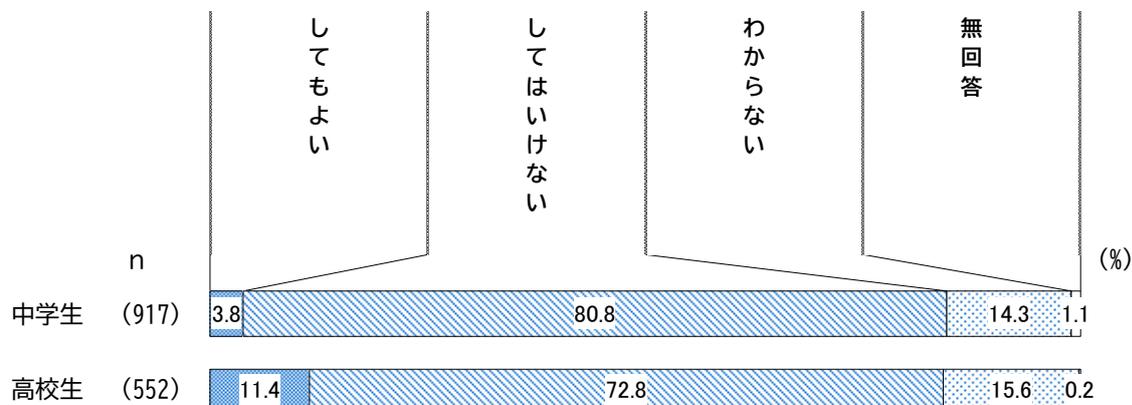
■いやらしい雑誌や動画を見る

「いやらしい雑誌や動画を見る」ことについて、小学生は「しないほうがよい」(82.9%)、中学生は「してはいけない」(54.0%)、高校生は「してもよい」(44.4%)がそれぞれ高くなっています。



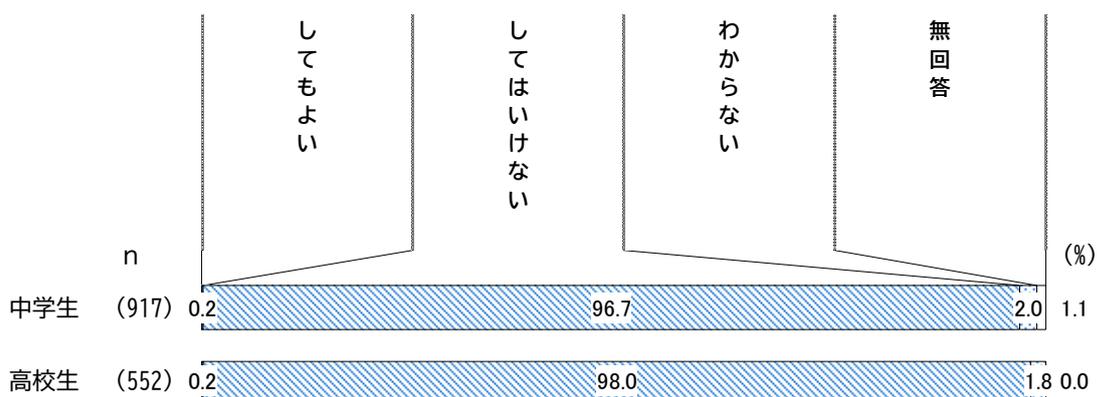
■無断外泊をする【中学生・高校生調査】

「無断外泊をする」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が高く、中学生は8割、高校生は7割を超えています。



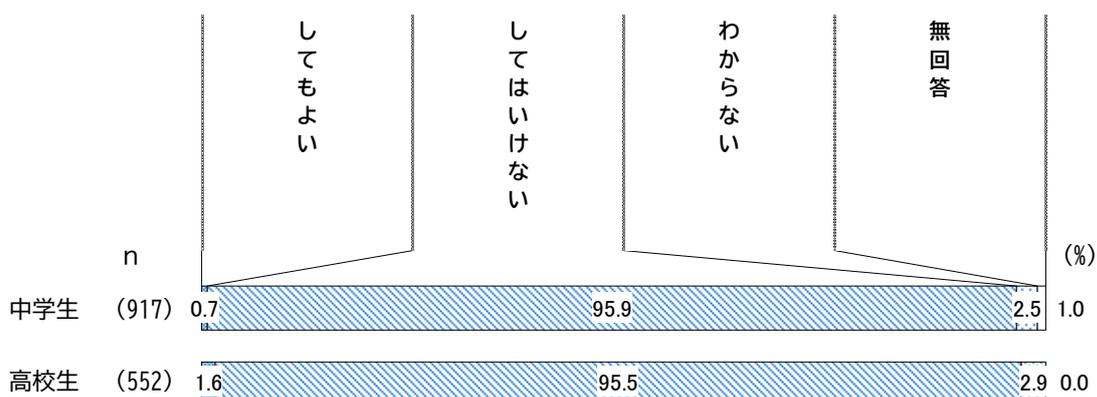
■万引きをする【中学生・高校生調査】

「万引きをする」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が高く、中学生は9割台半ば、高校生はほぼ全数を占めています。



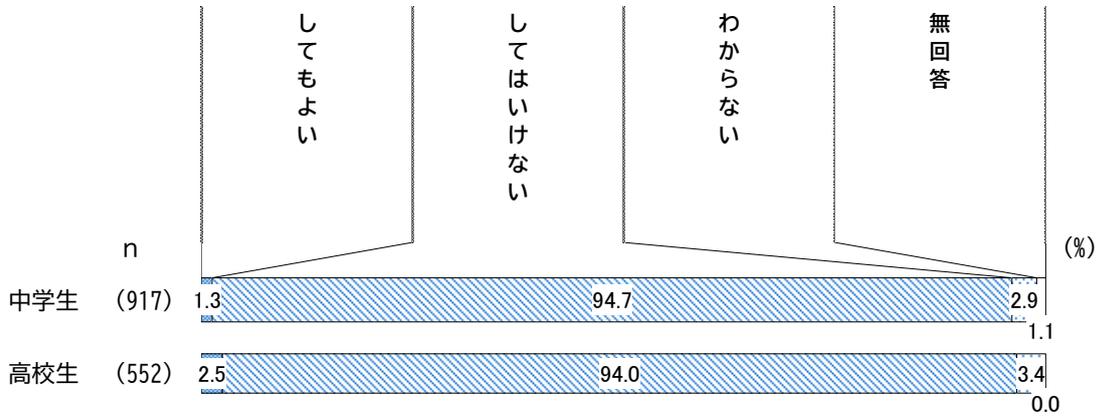
■タバコを吸う【中学生・高校生調査】

「タバコを吸う」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が9割台半ばを占めています。



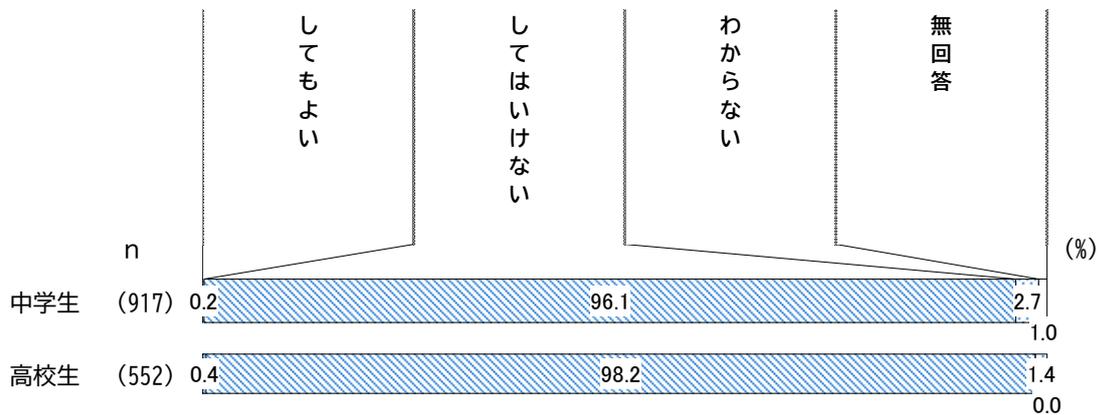
■酒を飲む【中学生・高校生調査】

「酒を飲む」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が高く、9割台半ばを占めています。



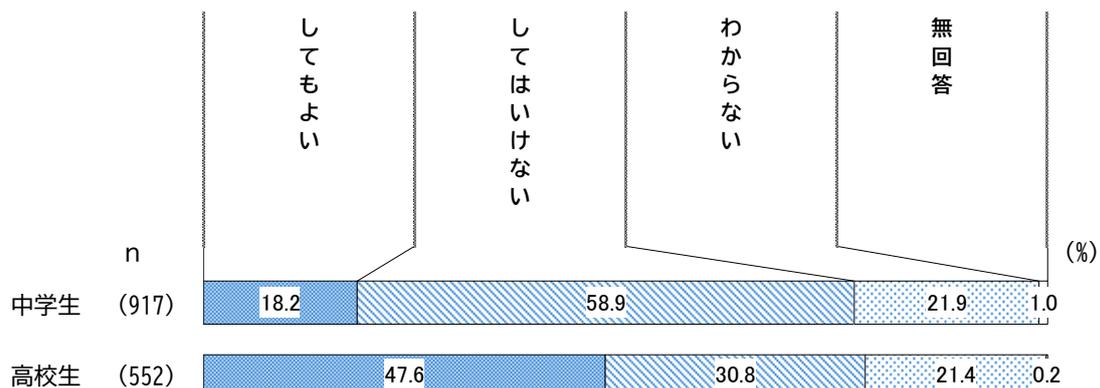
■覚せい剤等のドラッグ（薬物）を使用する【中学生・高校生調査】

「覚せい剤等のドラッグ（薬物）を使用する」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が高く、中学生は9割台半ば、高校生はほぼ全数を占めています。



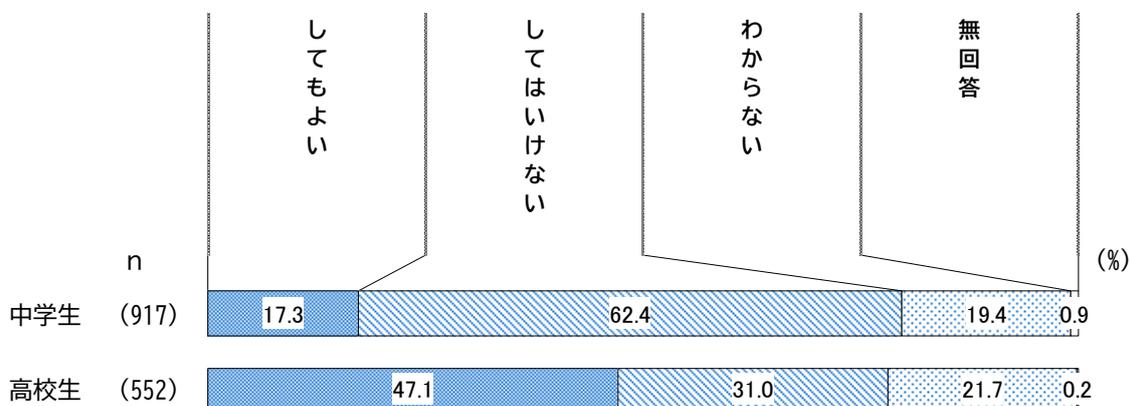
■髪を染めたり脱色したりする【中学生・高校生調査】

「髪を染めたり脱色したりする」ことについて、中学生は「してはいけない」(58.9%)、高校生は「してもよい」(47.6%) がそれぞれ高くなっています。



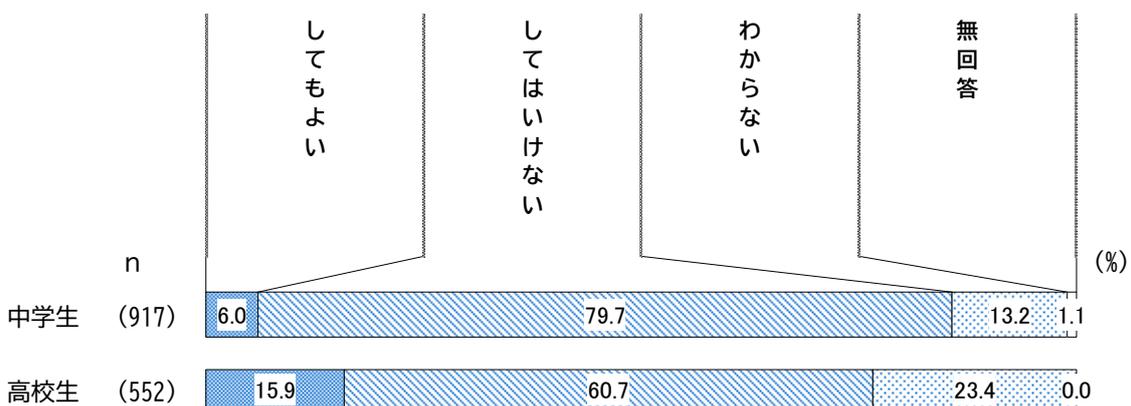
■ピアスをする【中学生・高校生調査】

「ピアスをする」ことについて、中学生は「してはいけない」（62.4%）、高校生は「してもよい」（47.1%）がそれぞれ高くなっています。



■タトゥー（入れ墨）を入れる【中学生・高校生調査】

「タトゥー（入れ墨）を入れる」ことについて、中学生、高校生のいずれも「してはいけない」が高く、特に中学生では約8割となっています。

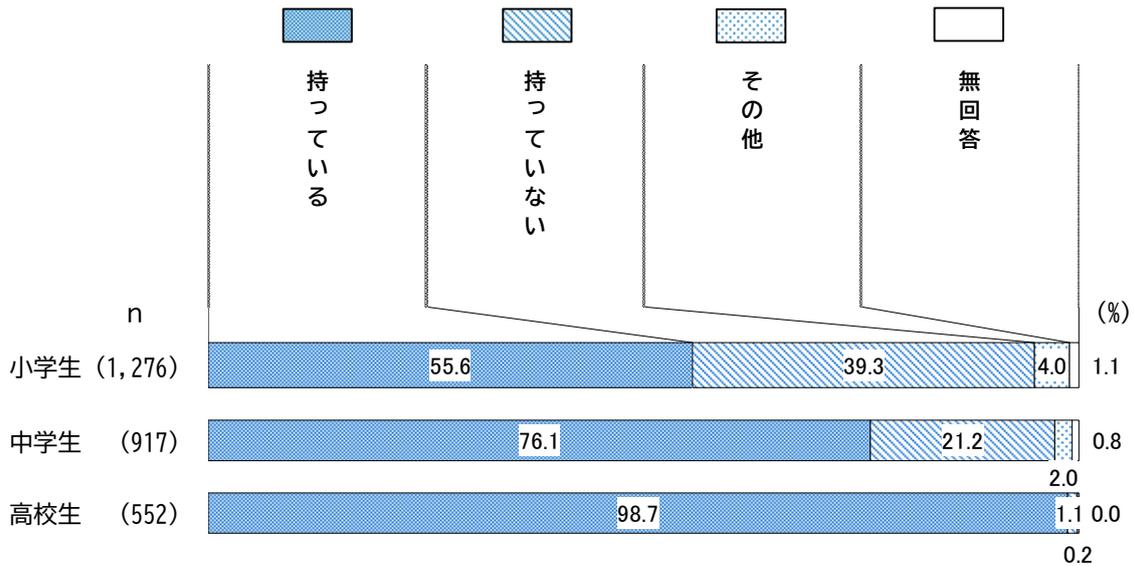


## 11 インターネットについて

### (1) スマートフォン等の所持状況

Q：インターネットのできるスマートフォンをはじめとした端末機器を自分用に持っていますか。（学校から貸し出されている端末は除く）（○は1つ）

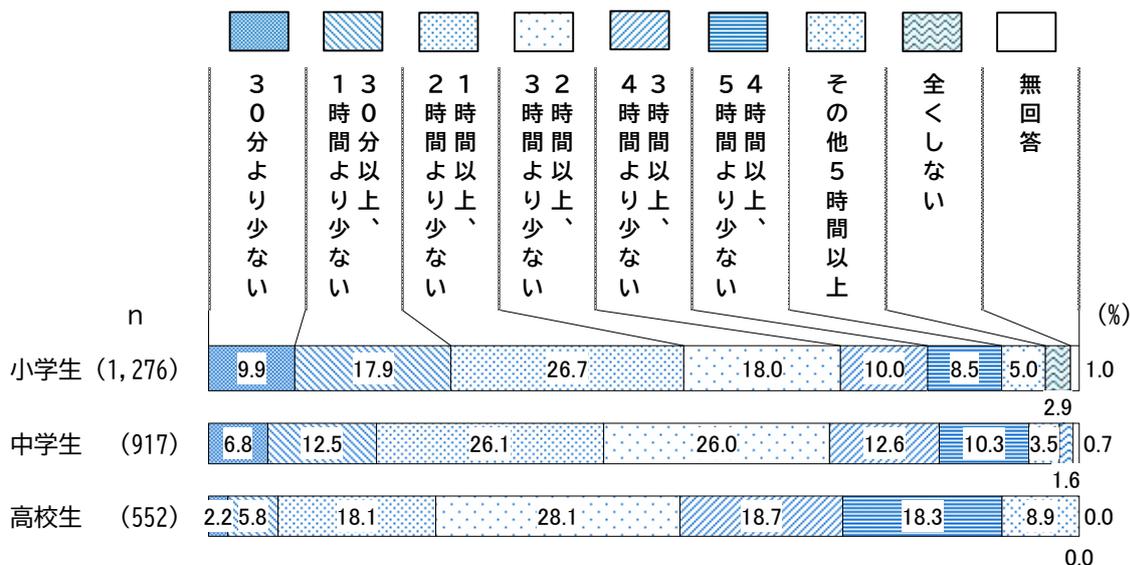
スマートフォン等を持っているかについて、小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて「持っている」割合は増加しており、高校生ではほぼ全数を占めています。



(2) スマートフォン等の利用状況

Q：1日あたりどれくらいの時間、スマートフォンやタブレットなどの端末機器を利用していますか。（○は1つ）

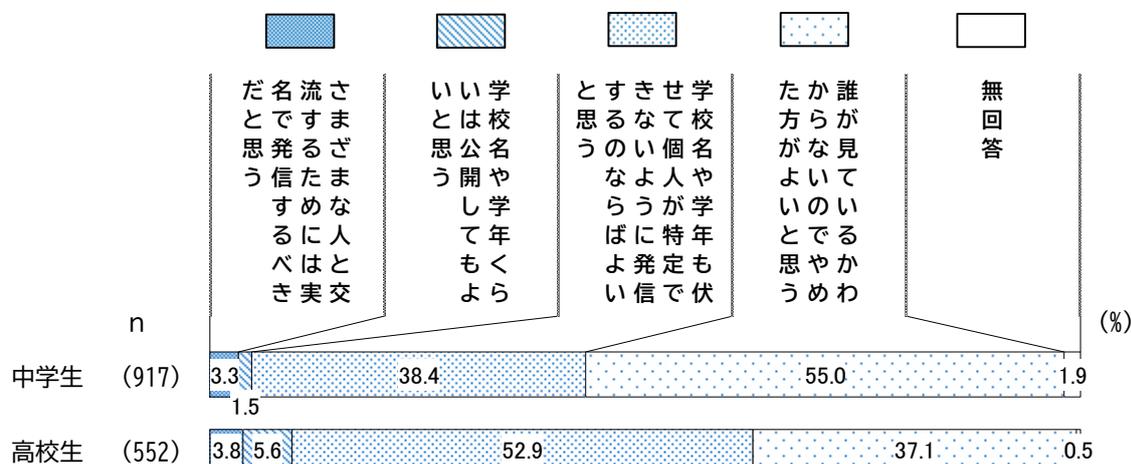
スマートフォン等の利用状況について、小学生は「1時間以上、2時間より少ない」（26.7%）、中学生は「1時間以上、2時間より少ない」（26.1%）、高校生は「2時間以上、3時間より少ない」（28.1%）がそれぞれ最も高くなっています。



(3) インターネット上に自分に関する情報を発信する【中学生・高校生調査】

Q：インターネット上に自分に関する情報を発信することについてどう思いますか。（○は1つ）

インターネット上に自分に関する情報を発信することについて、中学生は「誰が見ているかわからないのでやめた方がよいと思う」（55.0%）、高校生は「学校名や学年も伏せて個人が特定できないように発信するのならばよいと思う」（52.9%）がそれぞれ高くなっています。



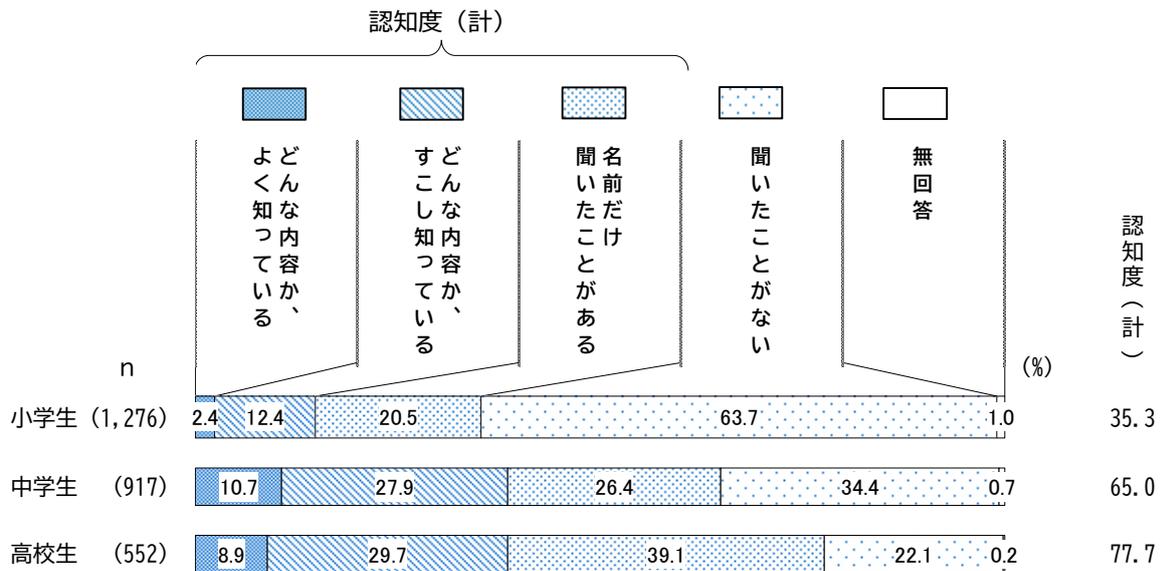
## 12 こどもの権利について

### (1) こどもの権利条約の認知度

Q：あなたは、「こどもの権利条約」※について聞いたことがありますか。（○は1つ）

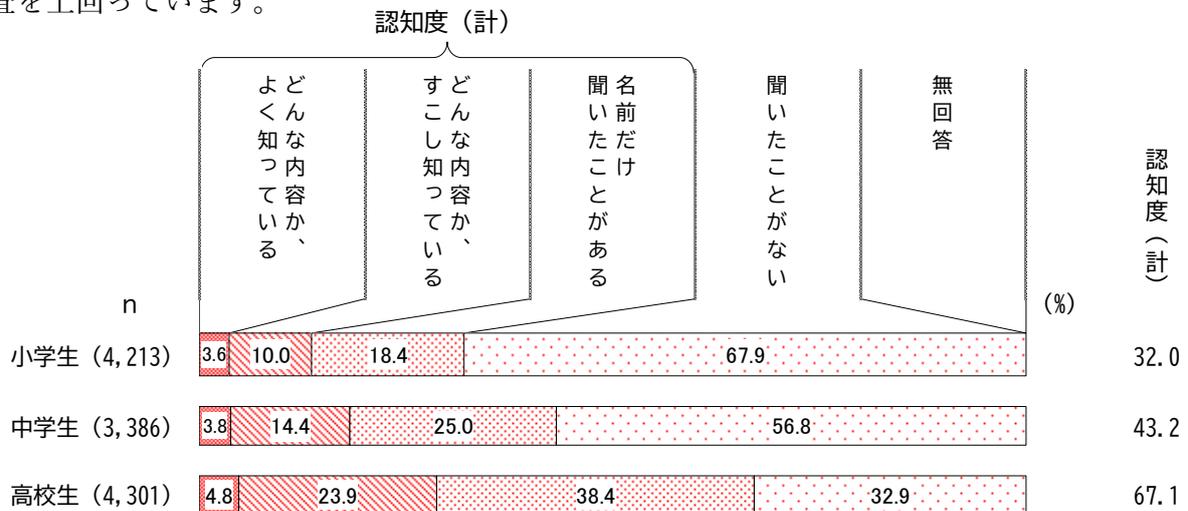
※「こどもの権利条約」とは、すべてのこどもが持つ人権を保証するために定められた、日本を含めた世界196の国・地域が批准している条約です。

こどもの権利条約について、「どんな内容か、よく知っている」、「どんな内容か、すこし知っている」、「名前だけ聞いたことがある」を合わせた《認知度計》は、小学生、中学生、高校生と学校の段階が上がるにつれて割合は増加しており、高校生では約8割となっています。



#### 全国調査※との比較

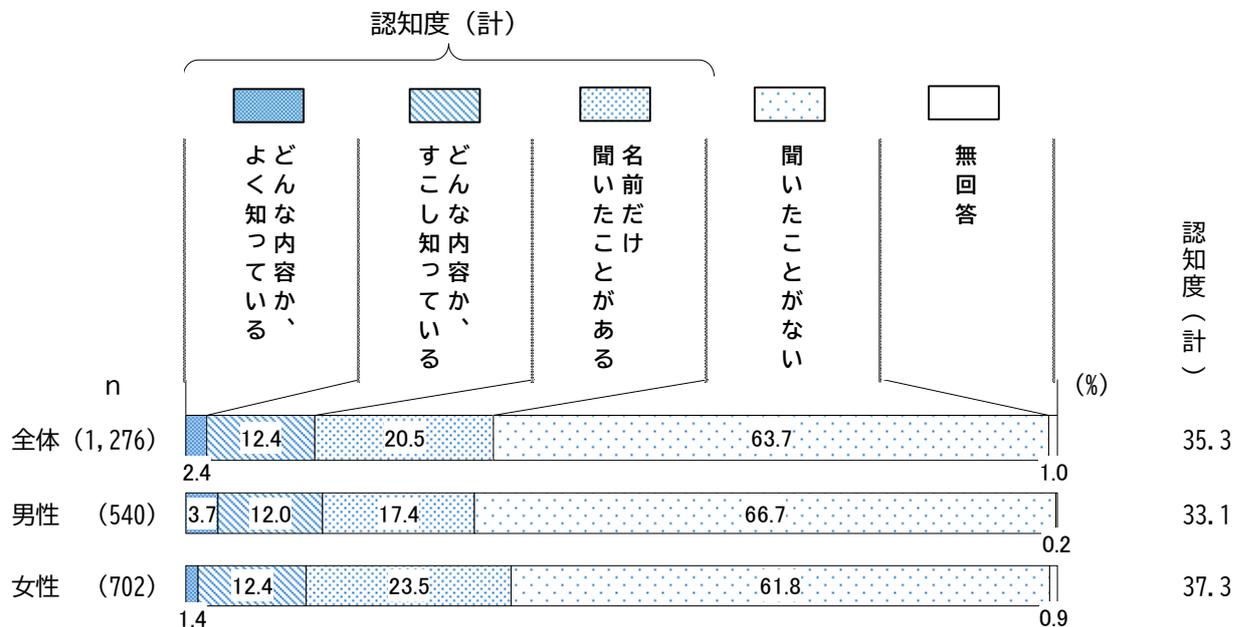
全国調査の結果をみると、認知度は小学生が32.0%、中学生が43.2%、高校生が67.1%となっており、市調査の小学生（35.3%）、中学生（65.0%）、高校生（77.7%）の結果はいずれも全国調査を上回っています。



※子ども家庭庁 児童の権利に関する条約の認知度等調査（令和5年度）

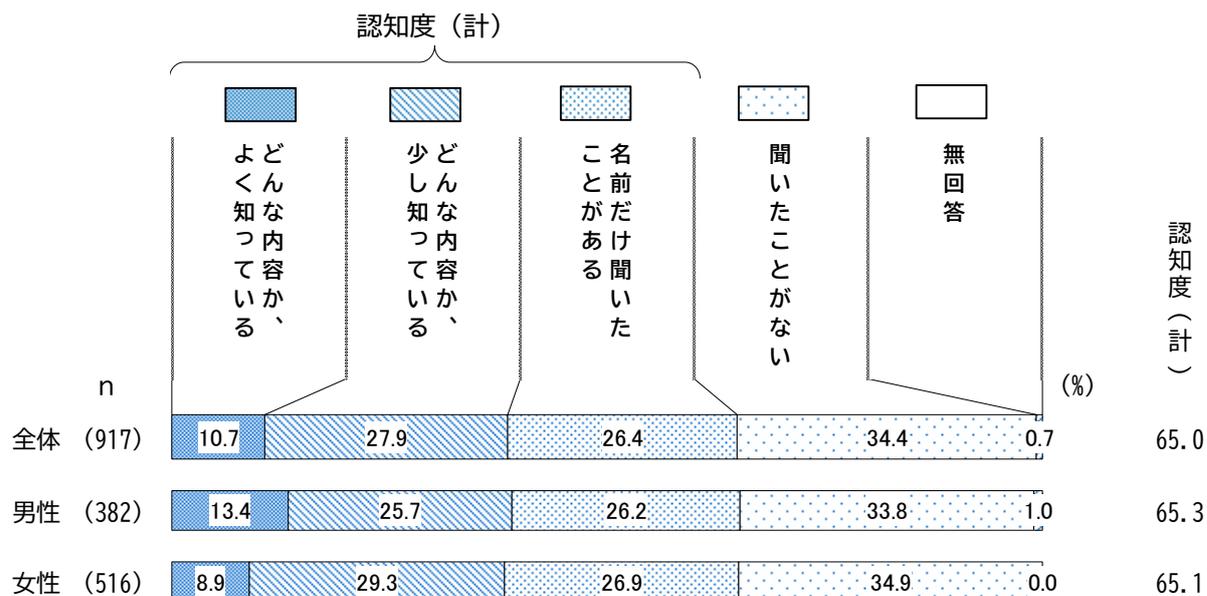
【小学生調査】

子どもの権利条約の認知度を小学生の性別でみると、《認知度 計》は女性の方がやや高いものの、大きな違いはみられません。



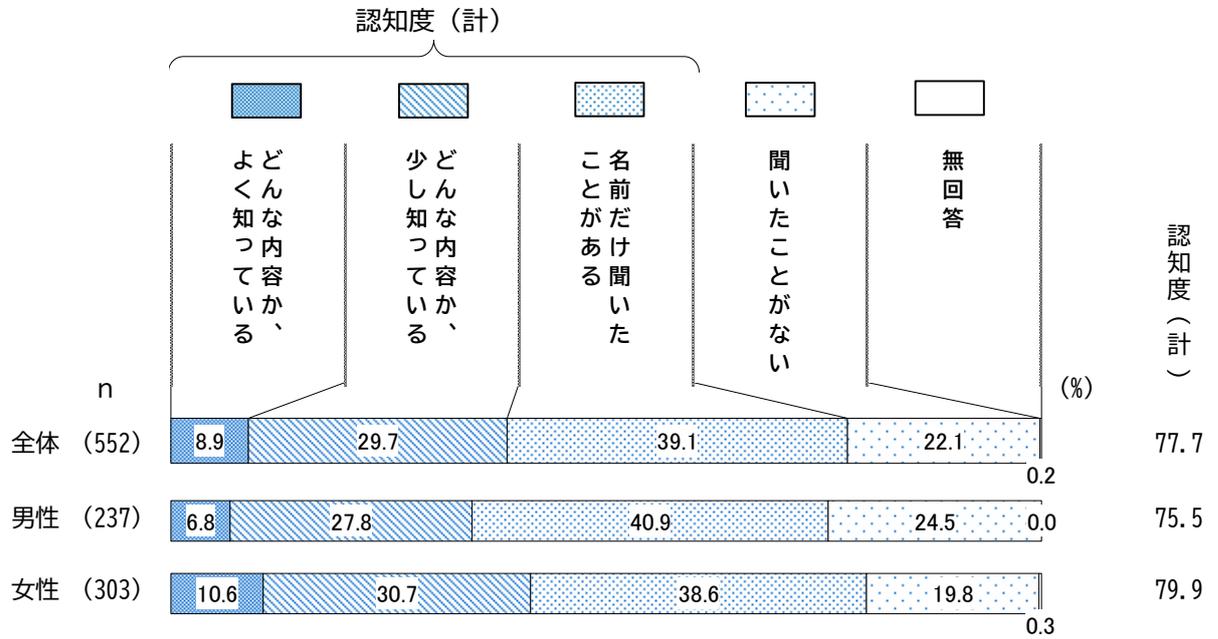
【中学生調査】

子どもの権利条約の認知度を中学生の性別でみると、男女で《認知度 計》は約65%とほぼ同率です。



【高校生調査】

子どもの権利条約の認知度を高校生の性別でみると、《認知度 計》は女性の方がやや高いものの、大きな違いはみられません。



## （2）前橋市に必要なこと

Q：前橋市は、こどもの権利が守られて、すべてのこどもたちが安心して、健やかに成長できる社会の実現を目指しています。すべてのこどもたちが安心して、健やかに成長できる市を実現するために、前橋市に必要なことについて、あなたの意見を聞かせてください。（自由記載）

市への意見・要望を自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

### ▼こどもの権利（意見尊重など）に関すること

小学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の話をもっとよく聞いてほしい。</li> <li>・大人に伝わる、子どもの話し合いの場を設ける。</li> <li>・大人たちが勝手に私たちのすることなどを決めつけるのではなく私たちの意見を聞いて自分たちの好きにさせる方がいいと思う。</li> <li>・一人一人の個性、意見を尊重していけるようにしたらいいと思います。</li> <li>・みんな平等に、平和に差別なく豊かに暮らすことが必要だと思う。</li> <li>・差別や嫌がらせなどの心が傷付くような事が無く、みんな平等に生活できるように。</li> <li>・いろいろな障害(診断がつかないグレーゾーンと言われている発達障害なども)に対してもっと理解・支援を広げていじめや差別がなくなるようにしてほしいです。</li> <li>・人々がいろいろ支え合って、みんなで社会を作るのがいいと思います。前橋市は事件や事故などが少ないと思うので、みんなでもっと平和な社会を作っていきたい！</li> </ul>
中学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の意見が尊重される社会の実現。</li> <li>・子供の意見を信じてくれる大人が居てくれる事。</li> <li>・いろんな子供達のことについて、理解しようとする事。子供達の気持ちについて、理解してあげること。</li> <li>・大人たちの判断で色々決めるのではなく、しっかりと子どもたちの意見を聞いて、それを取り入れるようにしてほしい。</li> <li>・誰もが平等に勉強や運動などができる環境をつくっていくことが必要だと思います。</li> <li>・自分や他人の個性を尊重できるような人間性を育む。</li> </ul>
高校生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達の意見をもっと聞き入れる体制を学校や市で整え、教師や権力のある大人に意見をしてもらい良い環境を整えるべき。</li> <li>・自分の気持ちや意見を素直に積極的に言えるような環境を作る。</li> </ul>

### ▼悩みや相談に関すること

小学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談できる場所を目立つ場所につくって欲しい。</li> <li>・もう少し子供が悩み事を相談できるところを増やしたほうがいいと思う。</li> <li>・スクールカウンセラーの人にもっと会う機会を多くして、悩み事を相談しやすくした方がいいと思う。</li> <li>・いじめられている人や何か悩んでいる人が、このタブレットで簡単にお悩み相談をできるアプリを入れたらいいと思います。</li> </ul>

## ▼悩みや相談に関すること（続き）

小学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供だけでも相談できる場所があるといい。</li> <li>・病院や学校の専門の人に悩みを聞いてもらうことが出来ると知っていても、気軽に相談が出来ない(親や先生に話さないとだったり、そもそもどうしたら聞いてもらえるか分からなかったり)ので、子どもだけで、休み時間や放課後に簡単に相談に行ける環境をつくってほしい。親や友だちにはバレたくない悩みを打ち明ける環境がほしい。</li> <li>・他人には話せない悩みをかかえている人も少なくないと思うので、簡単に、気軽に話ができる環境をもっと沢山作り、多くの人に知ってもらう事が大切だと思う。また、学校や施設に貼ってある僕たち(子ども)向けのポスターをもっと増やして知ってもらい、協力してもらうのが良いと思う。</li> </ul>
中学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みを相談できる場所を身近なものにする。(どんな悩みを持って人がいて、その人たちはそこに相談してどうなったかが分かるようなものがあると相談しやすくなるのでは)</li> <li>・スクールカウンセリングなどについて、必要な人や特別な場合にのみ受けられるシステムではなく、なんでもない日常からカウンセリングの教室に気兼ねなく出入りできたり、カウンセラーの先生と接点を持てるような環境が学校の中にあるといいと思う。ヤングケアラーの実態把握や救済にも力をいれてほしい。</li> <li>・LINE や電話で相談できるという紙などはもらうけれど自信がなくて掛けられないです。私たちのもっと身近な場所に気軽に相談できる場所や思っていることを書く手紙などを受け取ってもらえる場所が欲しいです。今の自分だけでは考えが偏ってどうしようもなくなってしまっているからです。</li> <li>・もっと子供一人一人が悩みや疑問を大人に相談出来る場所や環境作りをした方が良いと思う。大人も子供の事について、理解を深める場が必要だと思う。</li> <li>・虐待など外部の人間にはわかりにくく相談しにくいことが、さらに相談、通報しやすくできるようにしてほしいです。また、子育てをする人に向けた、虐待をしない(毒親にならない)ための講座のようなものがあると私が子育てをする身なら嬉しいし助かると思います。</li> </ul>
高校生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーの数が足りていないので、1校に1人常勤させるべき。1人のカウンセラーが何校も掛け持ちしているのは悩みを抱える生徒一人一人と充分に向き合えないと思う。</li> <li>・いじめや病気などで学校に来れない人の相談窓口を今よりも増やして、その人達が楽しく生活を送れるようにしてほしいです。そして、相談窓口があっても利用しづらいと思ってしまう人もいると思うので、気軽に相談できるような取り組みも必要なのではないかと思います。</li> <li>・誰もが気軽に話しに行ける相談所を設置。カウンセラーとかに話に行きたいと思ったことがあったけど、行くことに抵抗があったり、それを見た他の生徒とかにどう思われるかが心配でいけないことがあった。</li> <li>・進路のことや友人関係などたくさんの不安や悩みを抱えているけれど、友人や家族には言えない人もいると思うので、気楽に相談できて、相談事を親身に聞いてくれて共感してくれるようなお悩み相談所の設備を充実すること。</li> <li>・自分の生活において直接的な関わりがない人(学校の先生などでは無い)との受動的ではなく能動的に行われる悩み相談(全ての生徒に対して必須で行わなければならないなど)ができる機会。学校にもカウンセラーの人は来るが特定の場所に行く必要があり勇気がでない。自分の苦しみは他人と比べて一般的なものであるのか逸脱したものであるのか分からないので、その場所に訪れる資格があるのか不安である。相談したところで解決するわけが無いと思っているなどの理由からハードルが高くカウンセラーを頼りづらいと感じているため。</li> <li>・気軽に不満を吐き出したり相談できる場所(現実でも SNS 内でも)を作る。</li> </ul>

▼いじめや不登校に関すること

<b>小学生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめを減らす取り組みをした方が良いと思う。</li> <li>・不登校の子供達や悩んでいる子どもが交流できる場をつくる。もっと楽しめる施設をつくる。</li> <li>・いじめを見たり、したりしたことはないですが、ニュースでよく聞きます。いじめはいけないことだと思います。いじめがなくなる前橋市になってほしいです。</li> <li>・いじめっこなどは注意しても聞かないので誰にでも優しくする日みたいなのを作ったりしたらいいんじゃないかと思う。</li> </ul>
<b>中学生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校でのいじめ問題にもっと取り組んでほしい。</li> <li>・すべてのこどもが学校に行きやすいような環境づくり。（いじめにいち早く気づき、生徒も教師に報告しやすいような環境）</li> <li>・僕は小学校から不登校です。心と体の健康を守ることがとても大変です。大人も子どもも元気で安心して住める優しい市になってほしいです。</li> <li>・学校に行けていない子や周りとは少し違う子に対して、もう少し目を向けるべきだと思います。</li> </ul>
<b>高校生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカでは子供が学校を休むと理由によっては親が保護責任を放棄したとされて追求されることがあるそうです。そこまで厳しい措置をとってほしい訳ではありませんが、自分たちで手に入れた権利なのだから学校を休むというのはどうなのかなと思います。もちろん不登校の理由について色々あるのは承知の上ですが、周りにも心配をかけるし、〇〇だからといって学校に行かなくなるのは自分の可能性を余計に狭めている気がします。不登校児の数も年々上昇しています。社会に優秀な人材を輩出するためにも、そういった人々を無くすのが大事かなと感じました。</li> <li>・いじめ防止に、より力を入れることだと思います。前橋市内の高校で生活する中、高校生になると道徳の授業はなくなり、いじめ防止についての講談会があまりないと感じました。私は年齢が上がるとインターネットやいじめの重みがより強くなると思いました。スクールカウンセラーはいても、あまり相談しにくいと思う方もいると思うので、いじめを根本的になくす対策を高校生向けにより力を入れる必要があると思いました。前橋市ではいじめ防止について対策していますので、より尽力してもらいたいと思います。</li> </ul>

▼学校や教育に関すること

<b>小学生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちゃんと話を聞いてくれる先生がたくさんいるといいと思う。</li> <li>・嫌な事があった人や、嫌なことがあって自分を傷つけてしまった人達が、ちゃんと悩みを言えるような環境づくりを学校などでもっとして欲しいです。</li> <li>・すべての子どもたちが平等に健康に暮らせるように、将来役に立てるように楽しく学べる学校にしてほしい。</li> <li>・もっとタブレットを使った授業や、ネットマナーなどの授業があったほうが良いと思います。</li> <li>・学校の行事をみんなが楽しくできるように、学校の児童にアンケートをとって意見を取り入れた方がいいと思う。また、学校の行事を増やしたら、あまり話さない人などと交流できたり、信頼もできるのでその方がいいと思う。</li> <li>・今も安心して、すこやかに成長しているので、今の教育のままでいいと思います。</li> </ul>

▼学校や教育に関すること（続き）

<b>中学生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の休み時間を伸ばして、先生と話す時間が欲しい。</li> <li>・女子生徒のスラックスを許可している学校は増えているが、男子生徒のスカートを許可している学校はとても少ないと感じる。男子もスカートかズボンか選べるようになればいいと思う。</li> <li>・中学校は義務教育でやるような勉強ではなく、自分の将来のことに時間を注ぎ込めるようになると思います。人生は一度きりなので、自分が本気で就きたい仕事に就職できるように、中学校でも就職したい仕事に就けるようにできる限りサポートしてくれるといいと思います。</li> <li>・自分の存在を理解するために、学校の校則をもっとゆるくするべきだと考えます。自分らしく生きるということを望んでいる人が多いと思います。</li> <li>・たくさんの情報がある社会で、いずれは自立していかなければいけないと感じることが多いため、学校の校外学習をもっと増やすべきだと思います。そのなかで得た情報を自分の中で理解し、正しいのかを見極められる力が向上するのではないかと考えます。そして、校外学習での経験を通して、自分の将来のことにについて考えられるきっかけにもなると、なお良いと思うからです。</li> <li>・高校まで義務教育にして欲しい。</li> <li>・医療や福祉の体験型の授業をふやしてほしい。</li> </ul>
<b>高校生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・何らかの障がいのある子どもでも安心安全に通えるように、保育園や小中学校の設備を改善して彼らを受け入れられるような教育を進める。</li> <li>・学校に行かないという選択肢をもう少し身近なものにしてほしい。</li> <li>・学べる環境が充実していることだと考えます。私は学校に行って友達と接したりして元気が出たりするし、教育の場で対面で学びたいので学校に行くのが好きです。ですが私のような考えの人ばかりでは無いと思いますし、実際、不登校の人数が増えているのも事実としてあります。大事なのは学校に行っても行かなくても学ぶことだと私は考えます。学ぶことで自分の将来に何かしらプラスに働くと思うので、一時の気持ちで学びを止めるのではなく、全ての人が自分のために学び続ける必要があると思います。なので、学校に行く人も行かない人も学習できる環境があり、その方法を周知されていたらとてもいいなと感じます。</li> <li>・環境を整えるというより、子供自体がどんな環境でも対応できる知識や教育が必要だと思います。</li> </ul>

▼居場所や街の活性化に関すること

<b>小学生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が安心できる居場所を作ること。</li> <li>・落ち着いてゆっくり過ごせる場所を増やす。（図書館など）</li> <li>・犯罪や事件が起きない町作りをして欲しいです。友だちと身体を動かして遊んだり、話しをしたりできる安全安心な無料で使える施設を作って欲しいです。</li> </ul>
<b>中学生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館や公共施設など子ども達が安心して集まれる場所を沢山作ってほしい。</li> <li>・中学生も楽しめるようなイベントや施設をもっと増やしてほしいと思う。</li> </ul>
<b>高校生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁所在地なのに私たち高校生のような若者が楽しめる施設が少ないと思います！友達と遊ぶときはいつも高崎なので、前橋も素敵なお店街や伝統ある駅周辺を若者向けの商業施設や飲食店で盛り上げてくれたら嬉しいです！！</li> </ul>

▼居場所や街の活性化に関すること（続き）

高校生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館や公園などの施設が充実していたり、イベントが充実していたり、道路が整備されていたりと、こどもが安全に暮らせ、さまざまな体験ができる環境が整ってきていると感じているので、今の状態を市民の方々と協力しながら維持していただきたい。</li> <li>・他の市のような大型商業施設があると若者の人口流出が少し防げるのではないかと思います。実際に友達間でそういう話になります。</li> <li>・年代別の子どもたちがのびのび遊べたり、飲んだり食べたり、写真を撮れたり、勉強できるスペースを作る。</li> <li>・前橋は高崎などと異なり、生産年齢人口の人々、学生など前橋市を担うであろう人々にとって魅力になりにくい施設にお金を使っており、前橋に遊びに行こうとはならない都市であると感じます。そのため、同じように税金を得ているのならば、駅近、または駅隣接で、学生が遊べるような場所を設けた方が、即効性に加え、長い目で見ても活気の溢れる都市になると思います。それにより、市民同士、県民同士の関わりも増え、子供たちにも交流の機会が生まれて良くなると思います。</li> <li>・もっと子供が楽しめる施設や遊べる施設を増やすと良いと思います。また、悩んでいる子供が気軽に相談したり、居心地がいいと思える環境をつくる必要があると思います。</li> </ul>

▼街の安全確保に関すること

小学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・街灯を増やす、十分な歩道を確保する、道路の白線をはっきりとさせるなどを期待します。</li> <li>・交通事故の危険がある道路を、安全な道路にしてほしいです。</li> </ul>
中学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の夜は、暗くて自転車通学が少し危ないと感じるので街灯を増やして欲しいです。</li> <li>・登下校中では歩行者、自転車専用道路がきちんと整備されていて照明（街灯）も整備されていた方が安心して生活ができます。</li> <li>・登下校の道路の街灯や道の補修により危険を減らす。</li> <li>・通学の利便性。（公共機関の充実や学生の乗車代の減額）</li> <li>・自転車と車の事故などを減らすために道路整備をした方が良いと思います。</li> </ul>
高校生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬とかはすぐ暗くなるから下校時に辺りが真っ暗なことが結構あるので、もう少し街灯ほしいです。</li> <li>・もっとバスの本数を増やすか、自転車が使いやすい町にしてほしい。</li> <li>・交通の便を整えて欲しい。特に電車。</li> <li>・自転車や歩行者が安心して通れる道路にする。</li> <li>・車通りが多いので、カーブミラーなどの交通系の設備を強化していただきたいです。</li> <li>・自転車用の道路、通路を作ることを希望します。歩道通行が可能な場所もありますが、登校中の小中学生やご年配の方々が安心して移動でき、自転車側も加害者になる不安がなくなるため効果的だと思います。子どもとご老人が共生する市を目指すことで、明るい前橋市が続いていくと考えています。</li> <li>・街灯が少ない地域も多いです。中高生は部活で帰りが遅くなったりして暗い時間帯に帰ることが多いです。暗いから集団でなるべく帰ってと指示されますが帰る方向が合わない人は単独で帰ることになり危ないと感じることがありました。</li> <li>・不審者を無くすためにパトロールを増やす、街灯を増やして暗くて怖い道を無くす、空き家などの危険な場所を無くす。</li> </ul>

## ▼遊びや体験、交流に関すること

小学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に遊べて遊具がいっぱいある広い公園を増やしてほしい。</li> <li>・自転車に乗れたりボール遊びなどスポーツがもっとできる公園が欲しい！今の公園はネットがないからボール遊びをするとボールが飛んでいってしまうから！小さい子の遊具はあるけど大きくなると楽しくない。</li> <li>・雨の日も遊べる施設や広い公園などがいると思います。理由は雨の日は部屋でこもって SNS を長時間使用してしまうからです。広い公園は、ボールが使えない公園があったり、狭くて2グループしか遊べないという事があったからです。</li> <li>・もっと色々な体験がしてみたいです。日本の伝統文化や地域の伝統文化などを体験してみたい。</li> <li>・もっと地域のイベントなどを増やして交流を深めたほうがいいと思う。</li> <li>・年齢や性別に関わらず、好きなことを話したり、情報交換ができるようなイベントを開催する。</li> </ul>
中学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの年代の人が楽しめるイベントをつくる。</li> <li>・地域活性化のために、自由に参加することができて楽しそうなイベントを企画する。</li> <li>・部活やクラブ、学習活動といったことが親の収入に関わらず誰でも経験できる環境が町の公民館ごとがあればいいと思う。</li> </ul>
高校生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、子供達はインターネットや SNS などにより外出することが減少し身体能力が低くなっているため、公園などに遊べるように遊具などを増やしたほうがいいと思う。</li> <li>・僕の地域では小学校の頃、育成会地域活動が盛んな方でした。【上毛カルタやスマイルボーリング、地域文化祭など】学年に関係なく交流できて、よい経験でした。中学生になってからは、部活動が中心になってしまいましたが、小学生の時の体験は貴重だったと思います。</li> <li>・若い世代とお年寄りの世代の交流の機会をもっと設けて、地域間のつながりを強めることが必要と考えます。そうすることで地域の人と連携して安心して暮らしていける環境づくりができると思います。</li> <li>・前橋市がさらに成長するためには 前橋市の自然や歴史を活かしてみたり、芸術やスポーツ・文化など発信することによって周りの方と交流して意見を集めて行動して成長して新しい前橋市を作ることができると思います。みんなが安心して健やかに成長し、一人一人が活躍できるそんな場所になってほしいと思います。</li> <li>・子育てしている方やその子供と、高校生の関わりがあるといいと思う。別の県の事例で、高校生が子育てしている方から子育て中の楽しみや大変なことを聞いたり、子供と触れ合ったりする「高校生の子育て支援」というものがあると教科書で知った。これを行うことで、子育てをしている方は普段は言えない悩みや共感してほしい楽しみを高校生と分かち合うことができる。また、高校生は教科書ではわからない、リアルな子育ての話を知ることができ、大きな勉強になると思う。「高校生の子育て支援」で、今の子育て世帯への援助だけでなく、未来の子育て世帯に子育てについて学ぶ機会を与えられることができ、市全体で成長すると思う。高校生の私も何か子供のためにしてあげたいと思っているので、高校生でも参加できる子育て支援があったらぜひ参加したい。</li> <li>・自然などをできる限りで良いので残し、自然との繋がりや自然の大切さ・魅力・必要性を重視して伝えることが自分の意見です。</li> <li>・自治体運営の習い事を増やし、他学年・他学校との関わりをもつことでより前橋市を好きになれる。</li> </ul>

▼支援に関すること

<b>小学生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・できたら、みんなが給食を無料で食べられるようにしてほしいです。</li> <li>・全ての子が食べ物に困らず、元気に登校できるように、もう使わなくなったものを無料でゆずったりご飯を無料でいろいろなところで支給したりする。</li> <li>・給食費や私立の学校に行く場合のお金を助成してほしい。</li> <li>・お母さんお父さんが子育てしやすいように工夫したら、子どもたちも安心して過ごせると思います。</li> <li>・学校の費用を全額無償化に、高校も無料に</li> </ul>
<b>中学生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中義務教育の間は、給食、学用品、修学旅行費など全ての子どもに平等にかかる費用はもっと負担をなくしてほしい。</li> <li>・小学校、中学校、高校、大学の無償化</li> <li>・教育がしやすいようにもう少し補助金などに力を入れて実現してくださると助かります</li> </ul>
<b>高校生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生になって進学するときにたくさんお金がかかるため、進学時に物を買うときに支援する制度があったほうがいいと思う。</li> <li>・全ての世帯が金銭的な余裕を持って子供を育てられる環境づくり、援助。</li> <li>・高校、大学の費用を軽減または無償化する。</li> <li>・高校生までの医療費無料は大変有難い。資格試験等学びたい人への補助をお願いしたい。</li> <li>・お金のことで悩まずに望むことができる社会になるといいと思う。学びたいものを学べる環境になってほしい。</li> <li>・現状、お金もちの家とあまり持ってない家との間で学習に不平等が生じていると思う。お金を持っていると学習塾などに入れることができ成績が伸びる。しかし、お金をあまり持っていない人たちはいくら勉強にやる気があったとしても、塾に入れることができず成績は伸びづらいと思う。その差は将来の就職に影響し、貧富の差がますます拡大していくと思う。頑張った分の努力が公平に反映されるような、学習環境の差を埋められるような対策が必要だと思う。</li> </ul>

▼その他

<b>小学生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイ捨てをしないこととゴミを川などに捨てないようにすること。</li> </ul>
<b>中学生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のままでも十分健やかに成長できると思います。</li> <li>・今、環境問題や地球温暖化などの様々な問題が起きているからゴミを捨てないようにしたりゴミを拾う人が増えたらいいと思います。</li> </ul>
<b>高校生</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市は優先順位をよく考え、何が大切か見極めて欲しいです。はっきり言って今の世の中、市にまでも疑いの目を向けてしまうような方が以前よりも多いと感じます。なので不信感や、今の若い世代の政治への無関心さをなんとかするため市の取り組みについて知る機会を設けたり若い世代が興味を引くような取り組みが必要だと思います。現に私も市がどのような取り組みをしているかあまり詳しくありません。具体的な案は出せませんが少しでも市がより良くなりますよう心から願っております。</li> </ul>